
JD Edwards EnterpriseOne 価格 管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド
SKU E190APG-B 1208JPN

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xv
アプリケーションの基礎.....	xv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xvi
追加情報.....	xvi
表記規則.....	xviii
表記規則.....	xviii
注意事項の表示.....	xix
国、地域、業種の表記.....	xix
通貨コード.....	xx
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xx
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xx

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne価格管理 – まえがき.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxiii
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxiv

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne価格管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne価格管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOneシステムにおける価格管理ビジネス・プロセス.....	2
JD Edwards EnterpriseOne価格管理の統合.....	5
JD Edwards EnterpriseOne価格管理の導入.....	6
グローバル導入の手順.....	7
アプリケーション別導入手順.....	7
調達管理用の導入手順.....	8
EnterpriseOne受注管理用の導入手順.....	8

第 2 章

価格管理について	9
JD Edwards EnterpriseOne価格管理.....	9
JD Edwards EnterpriseOne価格管理の機能.....	10
JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理.....	13
JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Management.....	14

第 3 章

EnterpriseOne価格管理の設定	15
設定要件について.....	15
価格管理の固定情報の設定.....	17
価格管理の固定情報について.....	17
価格管理の固定情報の設定に使用するフォーム.....	17
システム固定情報の設定.....	17
価格管理固定情報の設定.....	19
価格設定エンジンの使用.....	22
価格設定エンジンについて.....	23
価格設定エンジンの処理に使用するフォーム.....	24
価格設定エンジンの使用.....	24
価格管理のAAIの設定.....	26
価格管理のAAIについて.....	26
事前設定.....	27
価格管理のAAIの設定に使用するフォーム.....	28
AAIの設定.....	28

第 4 章

基本価格設定の使い方	29
基本価格設定について.....	29
JD Edwards EnterpriseOne受注管理における基本価格設定について.....	30
価格の承認について.....	33
事前設定.....	37
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の価格設定について.....	37
基本価格優先階層の検討.....	40
基本価格優先階層について.....	40
基本価格優先階層の検討に使用するフォーム.....	42
基本価格の優先階層の検討.....	42
基本価格の設定.....	42
基本価格の設定について.....	42

事前設定.....	43
基本価格の設定に使用するフォーム.....	43
基本価格の設定.....	43
既存価格の有効化.....	44
既存価格を有効にする価格承認変換プログラム(R45210)について.....	44
価格承認変換プログラム(R45210)の処理オプションの設定.....	44
価格承認変換プログラム(R45210)の実行.....	45
 第 5 章	
スケジュールと調整の使い方.....	47
スケジュールと調整について.....	47
事前設定.....	54
価格管理階層の設定.....	55
価格管理階層について.....	55
価格管理の階層の設定に使用するフォーム.....	58
優先マスターの設定.....	59
価格設定階層の定義.....	59
調整定義の利用.....	60
調整定義について.....	60
調整定義の処理に使用するフォーム.....	63
調整制御の設定.....	63
調整定義の設定.....	66
請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示.....	70
価格調整の排他の指定.....	70
調整スケジュールの作成.....	70
調整スケジュールについて.....	70
調整スケジュールの作成に使用するフォーム.....	72
調整スケジュールの作成.....	72
調整明細の設定.....	73
調整明細について.....	73
売上調整の基準コードについて.....	74
購買オーダー調整の基準コードについて.....	76
調整明細の設定に使用するフォーム.....	79
調整明細の設定.....	79
異なる通貨を使用した価格調整の新規作成.....	80
異なる通貨を使用した価格調整について.....	80
上級価格調整プログラム(R407201)の処理オプションの設定.....	81
上級価格調整プログラム(R407201)の実行.....	82

第 6 章

価格設定の使い方	83
価格設定について.....	83
価格設定ワークベンチの使い方.....	84
価格設定ワークベンチについて.....	84
価格設定ワークベンチの処理に使用するフォーム.....	85
価格設定検索クエリーの生成.....	86
価格設定検索クエリーの結果の表示.....	87
価格調整レコードの一括更新の実行.....	88
顧客別価格表の使い方.....	90
顧客別価格表について.....	90
顧客別価格表の処理に使用するフォーム.....	92
価格表の作成と価格表構造の作成.....	92
調整用の価格表グループの指定.....	93
カラム・パターンを使った価格表調整のグループ化.....	93
サーチ・エージェントの作成.....	93
サーチ・エージェントについて.....	94
サーチ・エージェントの作成に使用するフォーム.....	94
サーチ・エージェントの作成.....	94
価格マトリックスの使い方.....	94
価格マトリックスについて.....	95
事前設定.....	96
価格マトリックスの処理に使用するフォーム.....	97
価格マトリックス定義の作成.....	99
価格マトリックスの編集.....	100
価格マトリックスのインポートとエクスポート.....	101
価格マトリックス・レコードのコピー.....	101

第 7 章

購買構造の利用	103
購買構造について.....	103
価格設定用の購買構造の設定.....	105
購買構造の設定について.....	106
事前設定.....	106
価格設定用の購買構造の設定に使用するフォーム.....	107
価格設定用の購買構造の設定.....	107
住所録組織構造の表示および改訂 (P0150) の処理オプションの設定.....	108
購買構造の確認と改訂.....	108
購買構造の改訂について.....	108

購買構造の確認と改訂に使用するフォーム.....	109
購買構造の確認と改訂.....	109
直接価格調整の作成.....	109
直接価格調整について.....	109
事前設定.....	110
直接価格調整の作成に使用するフォーム.....	110
直接価格調整の作成.....	110

第 8 章

一時変更検索グループの定義.....	113
一時変更検索グループについて.....	113
事前設定.....	115
複合価格グループの使い方.....	115
複合価格グループについて.....	115
事前設定.....	116
複合価格グループの処理に使用するフォーム.....	117
複合顧客価格グループの設定.....	117
複合品目価格グループの設定.....	118
価格グループ組合せの生成.....	118
価格グループ組合せについて.....	118
顧客価格グループの生成.....	119
品目価格グループの生成.....	119
オーダー明細グループの定義.....	119
オーダー明細グループについて.....	119
事前設定.....	120
オーダー明細グループの定義に使用するフォーム.....	121
オーダー明細グループの定義.....	121

第 9 章

補足調整の使い方.....	123
補足調整について.....	123
この章で使用する共通フィールド.....	124
無償品調整の作成.....	125
無償品調整について.....	125
事前設定.....	125
無償品調整の作成に使用するフォーム.....	126
無償品調整の作成.....	126
無償品カタログの使い方.....	127

無償品カタログについて.....	127
事前設定.....	128
無償品カタログの処理に使用するフォーム.....	128
無償品カタログの作成.....	128
販売高アップセルの使い方.....	129
販売高アップセルについて.....	129
事前設定.....	130
販売高アップセルの処理に使用するフォーム.....	130
販売高アップセル価格の作成.....	130
丸め規則の使い方.....	130
丸め規則について.....	130
事前設定.....	131
丸め規則の処理に使用するフォーム.....	132
丸め規則の設定.....	132
扱い高基準の設定.....	133
扱い高基準について.....	133
事前設定.....	134
扱い高基準の設定に使用するフォーム.....	134
扱い高基準調整の有効化.....	135
扱い高基準情報の設定.....	135
リベート調整の使い方.....	135
リベート調整について.....	135
リベート見越し調整について.....	137
通常の購買リベートについて.....	137
仕入先販売証明リベートについて.....	138
階層別リベートについて.....	139
事前設定.....	139
リベート調整の処理に使用するフォーム.....	140
リベートしきい値の定義.....	141
仕入先販売証明リベートの作成.....	142
変動価格調整の使い方.....	142
変動価格調整について.....	142
変動価格調整の処理に使用するフォーム.....	143
変動調整の作成.....	143
計算式調整の作成.....	143
通過逡減の使い方.....	143
通過逡減について.....	144
通過逡減の処理に使用するフォーム.....	145
通過逡減調整の作成.....	145
粗利益調整の作成.....	145

粗利益調整について.....	146
事前設定.....	146
粗利益調整の作成に使用するフォーム.....	146
目標粗利益調整の優先詳細の定義.....	147
目標粗利益調整の上限と下限の定義.....	148
期間延長条件調整の作成.....	148
期間延長条件調整について.....	148
事前設定.....	148
期間延長条件調整の作成に使用するフォーム.....	149
期間延長条件調整の優先詳細の定義.....	149
期間延長条件調整の支払期間の定義.....	149
シップ・アンド・デビット調整の使い方.....	149
シップ・アンド・デビット調整について.....	150
シップ・アンド・デビット調整明細について.....	152
事前設定.....	152
シップ・アンド・デビット調整の処理に使用するフォーム.....	153
シップ・アンド・デビット調整の定義.....	154
調整残高(P45715)の処理オプションの設定.....	154
シップ・アンド・デビット調整残高の設定.....	154

第 10 章

価格再設定の使い方.....	157
価格再設定について.....	157
価格と調整の変更の確認.....	157
価格調整レポートについて.....	158
価格調整の改訂レポートについて.....	158
将来調整追加レポートについて.....	158
価格変更の影響を受けるオーダー・レポートについて.....	159
決済時の価格設定について.....	159
バスケット・マスターの使い方.....	159
バスケット・マスターについて.....	159
事前設定.....	160
バスケット・マスター情報の処理に使用するフォーム.....	161
バスケット・マスター情報の設定.....	161
バスケット・レベル調整の作成.....	162
拡張バスケット品目への調整の適用.....	162
拡張バスケット品目の品目レベルの調整について.....	163
事前設定.....	163
拡張バスケット品目への調整の適用に使用するフォーム.....	163

拡張バスケットの品目への調整の適用.....	163
オーダー・レベル調整の作成.....	164
オーダー・レベル調整について.....	164
オーダー・レベル調整の作成に使用するフォーム.....	164
オーダー・レベル調整の作成.....	164
受注オーダーの価格再設定.....	165
受注オーダーの価格再設定について.....	165
オーダー照会後の価格再設定.....	165
バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの価格再設定.....	165
自動価格再設定.....	165
購買オーダーと入荷の価格再設定.....	165
購買オーダーと入荷の価格再設定について.....	166
JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Managementの使用.....	167
調達価格/入荷価格の再設定(R45620)の処理オプションの設定.....	167
購買オーダーと入荷の価格再設定.....	167
調整の改訂.....	168
調整の改訂について.....	168
事前設定.....	168
調整の改訂に使用するフォーム.....	169
オーダー入力時の調整の追加.....	169
オーダー入力時の価格レベル区切りの変更.....	170
顧客のリベート情報の検討.....	170

第 11 章

販促IDの使い方.....	171
販促IDについて.....	171
事前設定.....	171
販促状況の設定.....	171
販促状況について.....	171
販促状況の設定に使用するフォーム.....	172
販促状況の追加.....	172
販売促進情報の入力および更新.....	172
販売促進の管理について.....	172
販売促進の追加に使用するフォーム.....	172
販売促進の追加.....	172
販売促進の関連付け.....	173
販売促進の関連付けについて.....	173
販売促進の関連付けに使用するフォーム.....	174
調整に対する販売促進の関連付け.....	174

オーダーに対する販売促進の関連付け.....175

付録 A

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の標準ワークフロー.....177

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の標準ワークフロー.....177

 価格承認.....177

JD Edwards EnterpriseOne用語集..... 179

索引195

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p> <p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p>

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住所の変更が有効になる日付 • 賃貸契約が有効になる日付

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理
- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理
- JD Edwards EnterpriseOneケース管理
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards Blend Management
- JD Edwards Grower, Pricing, and Payments
- JD Edwards Grower Management
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne在庫管理 – まえがき」

この製品ガイドで使用する共通フィールド

調整制御コード

調整に関する追加の処理機能を指定するコードを選択します。

「印刷しない」を選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されません。調整金額は単価に加算されます。

「印刷する」を選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されます。調整金額は単価に加算されます。

「受注明細に追加する」を選択すると、F4211テーブルが調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー・レベルの調整でのみ使用します。

「総勘定元帳に見越入力を作成する」を選択すると、見越し調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4074テーブルが更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

「リポート」を選択すると、リポート調整が作成されます。F4078テーブルがオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。

「請求書への印刷」を選択すると、調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含まれません。売上更新プロセスの実行時に、この調整に対して個別の総勘定元帳および売掛金の仕訳が転記されます。

「仕入先販売証明」を選択すると、仕入先販売証明のリポート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4078テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

「丸め調整」を選択すると、価格調整明細の改訂プログラム(P4072)で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。

調整レベル

どのレベルで価格調整を計算するかを指定します。

行レベルを選択すると、受注明細行の情報に基づいて調整が計算されます。

バスケット・レベルを選択すると、バスケット価格設定グループとして指定したすべての受注明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。バスケット価格再設定グループは、事業所品目プログラム(P41026)に含まれる「品目/事業所情報」フォームの「追加情報」タブで定義するか、バスケット・マスター・プログラム(P4550)を使用して定義します。バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整を定義する場合は、品目グループとオーダー明細グループの各フィールドはブランクにしておきます。

オーダー・レベルを選択すると、オーダー価格設定グループとして指定したすべての受注明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。オーダー価格再設定グループは、事業所品目プログラムに含まれる「品目/事業所情報」フォームの「追加情報」タブで定義します。バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整を定義する場合は、品目グループとオーダー明細グループの各フィールドはブランクにしておきます。

数量レベルを選択すると、複数の受注オーダーの累計値に基づいて調整が計算されます。累計値は、価格調整タイプ・プログラム(P4071)で定義した調整方法に基づきます。

調整名

契約管理システムを使用している場合は、契約ペナルティ・スケジュールを処理するために、行レベルを選択して受注明細行レベルでペナルティを計算する必要があります。

調整定義を識別するユーザー定義コード(40/TY)の値を入力します。価格調整名で調整を定義します。

契約ペナルティ・スケジュールについては、4タイプの各ペナルティに定義を追加します。

最小数量

最大数量

過少引当

過剰引当

基準コード

調整またはペナルティ・スケジュールの計算で係数値がどのように使用されるかを指定するコードを入力します。「基準コード」フィールドは、「係数」フィールドと連動しています。値は次のとおりです。

0: 「新規基本価格」を選択した調整定義だけでなく、調整スケジュール内のすべての調整定義で新規基本価格が計算されます。

注意: 「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューから「新規基本価格の設定」を選択しない場合は、「基準コード」フィールドに「1」と入力した場合と同様に新規基本価格が計算されます。

1: 基本価格に係数が掛けられます。調整価格は、基本価格の一定の割合となります。

2: 現行の正味価格に係数が掛けられます。調整価格は、現行正味価格の一定の割合となります。

3: 品目原価に係数が掛けられます。調整価格は、品目原価の一定の割合となります。この基準コードは、バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整には使用できません。

4: 品目原価に係数が加算されます。この基準コードは、バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整には使用できません。

注意: 基準コードの3または4を使用する場合は、価格調整明細フォームの詳細グリッドの「原価計算方法」フィールドに計算に使用する品目原価を指定します。

5: 価格が係数で調整されます。係数値がプラスの場合、その金額が価格に加算され、マイナスの場合はその金額が価格から減算されます。

6: 変動テーブルの調整金額が使用されます。「係数」フィールドに変動テーブルを指定します。

7: 計算式によって調整が計算されます。「係数」フィールドに計算式の名称を指定します。

計算式にフィールド名を返すには、テーブル・フィールドの記述フォームにアクセスしてF4211テーブルのフィールドを含めます。これにより、フィールド名が自動的に挿入されます。フィールド名の前には、システム固定情報で指定したフィールド名を示す文字が挿入されます。F4211テーブルのすべてのフィールドを計算式で使用することはできません。

8: カスタム・プログラム(ユーザー定義のプログラム)によって調整が計算されます。「オブジェクト・ライブラリ」フィールドにプログラムIDを指定します。

注意: カスタム・プログラムを使用する調整を定義する場合、そのプログラムは調整用に開発されたプログラムであり、ユーザーによるサポートを前提としている必要があります。JD Edwards EnterpriseOneでは、カスタム・プログラムの提供およびユーザーが開発したプログラムのサポートは行っていない。

9: 単価の粗利益が係数と等しくなるように調整が計算されます。この基準コードは、バスケット・レベル調整、オーダー・レベル調整、または通過通減には使用できません。

契約ペナルティ・スケジュールでは、すべてのペナルティ・スケジュールに「5」を指定してください。

受取先住所

リポート請求の生成時に使用される住所録番号を入力します。販売リポートの場合、受取先住所は、リポートが支払われる顧客を指定します。購買リポートまたは仕入先販売証明リポートの場合、受取先住所は、リポートを回収する仕入先を指定します。

購買構造と階層別リポートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

顧客グループ、顧客価格グループ

顧客グループを識別するユーザー定義コード(40/PC)の値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

顧客No.

住所録で、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなどの項目を識別する番号を入力します。

有効終了日付

トランザクション、テキスト・メッセージ、契約、制約、優先情報が失効または完了する日付を入力します。

係数

オーダー行の調整方法を指定するコードを入力します。このフィールドの値は、「基準名」フィールドの値と連動します。「基準名」フィールドの定義に応じて、このフィールドを空白のままにするか、このフィールドに数字を入力するかが決まります。

バスケット調整と拡張バスケットの場合は、バスケット・マスター・プログラムで指定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則に応じて、このフィールドの情報を更新できます。拡張バスケットの品目に例外情報を入力しない場合は、標準バスケットの価格再設定が適用されます。

基準コード別の入力方法は、次のとおりです。

1から5: 割増の場合はプラスの数値を入力します。割引の場合は、マイナスの数値を入力します。たとえば、割増の場合は「10」と入力します。割引の場合は、マイナスの数値を入力します。たとえば、「10-」と入力します。

基準名6、7および8の場合は、この係数の値を空白にします。

6: 変動テーブルに基づいて調整が行われます。価格変動テーブルを識別するコードを「価格変動コード」カラムに入力します。

7: 計算式によって価格が計算されます。「計算式コード」カラムに計算式を識別するコードを入力します。

8: カスタム・プログラムを使用して調整を計算します。「オブジェクト・ライブラリ」カラムにプログラムIDを入力します。

	9: 粗利益が係数と等しくなるように調整が計算されます。
開始レベル	<p>調整または優先情報が適用される値を指定します。値は、レベル区切りの定義に応じて、数量、重量、金額のいずれかになります。</p> <p>通過遞減以外の場合は、値がレベル区切りの値と等しくなったときに調整が適用されます。たとえば、値が10の場合、10またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。</p> <p>通過遞減を使用する場合の調整では、レベル区切りの値を超えた数量がオーダーされたときに調整が適用されます。たとえば、値が10の場合、11またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。</p>
係数単位	価格調整の係数と関連付けられる単位を指定するユーザー定義コード(00/UM)の値を入力します。たとえば、レベル区切りを10ダースとし、1 EA 当たり1 USD 割り引く調整を定義できます。
品目No.	品目に割り当てられた番号を入力します。略式、詳細形式、第3品目番号形式があります。
品目グループ、品目価格グループ、価格グループ	<p>品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)の値を入力します。</p> <p>在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。</p> <p>受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で品目グループに基づいて計算されるため、調整定義または品目に在庫価格グループを割り当てる必要があります。</p>
オーダー明細グループ	<p>受注明細グループを示すUDC(40/SD)の値を入力します。受注明細グループを使用して、F4211テーブルのフィールドに基づく価格設定を作成します。</p> <p>このフィールドにコードを入力すると、オーダー明細グループの条件に一致する明細を持つオーダーにのみこの調整が使用されます。</p> <p>契約ペナルティ・スケジュールについては、ペナルティのユーザー定義コードが設定済みであり、オーダー明細グループとして定義されている必要があります。ペナルティ、またはペナルティ・スケジュールを定義する適切なユーザー定義コードを入力します。</p>
優先タイプ、優先階層	<p>優先タイプまたは優先階層を識別するユーザー定義コード(40/PR)の値を指定します。</p> <p>ユーザー定義コード(40/PR)では、「特殊取扱コード」フィールドの値1は、JD Edwards EnterpriseOneシステムでサポートされている優先情報であることを示します。各優先情報のこのフィールドは、ハードコードされています。</p> <p>契約ペナルティ・スケジュールについては、初めにペナルティ(PN)のユーザー定義コードを設定してください。次に、設定したコードをこのフィールドに入力します。</p>
価格表グループ	価格表の価格調整グループを識別するコードを入力します。たとえば、価格調整を、割引、プロモーション、税、運送費などのカテゴリ別にグループ化できます。価格表の設定では、価格表に表示するカラムを定義できます。価格表のカラム・パターン・フォームで、各ユーザー定義カラムに表示する価格表グループ名を指定できます。

販促表示制御	請求書または購買オーダーに、調整の販促IDを印刷するかどうかを指定します。
販促ID	各販促活動の収益、原価、経費を追跡するID番号を入力します。
販促状況	販促IDに関連付けられるユーザー定義の値を入力します。販促状況コードは、販促状況管理アプリケーションで管理されます。
順序No.	価格調整を処理する順番を入力します。 このフィールドの値は、価格調整が処理される順番を示しています。順序番号の値の間隔を空けて各番号を指定すると、後から価格調整スケジュール内に調整を追加できます。
補助元帳	調整タイプを使用して受注オーダーの価格設定を行うときに、F0911テーブルの補助元帳フィールドの更新に使用される情報タイプを識別するユーザー定義コード(40/SI)を入力します。
しきい値単位	CS(ケース)、BX(箱)など、在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード(00/UM)の値を入力します。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の導入

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の概要

価格設定は、おそらく、業務において最も複雑な要素の1つであり、価格設定情報の計画、設定、および管理には相当の時間を要する場合があります。JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムのセットアップは簡単で、管理も最小限で済みます。オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 価格管理を使用して、次の JD Edwards EnterpriseOne システムの価格設定を管理できます。

- 調達管理
- 受注管理
- サービス管理
- ケース管理
- Blend Management

販売組織において、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の高度な機能が必要ではない場合は、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の標準価格調整モジュール (基本価格設定) を使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理を使用して、個別の販売促進や取引の価格を調整し、調整を価格構造 (スケジュール) に組み込むことができます。同じスケジュール内で、価格調整を必要な数 (無制限) だけ定義し、通常の割引と販売促進を組み合わせることができます。無償品カタログの表示を設定して品目の販売促進を実施し、リポートを使用して、顧客がより大量の商品やサービスを購入するように仕向けます。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理では、顧客と品目をグループ化することによって、様々な市場部門と製品ラインを包括できます。したがって、品目別や顧客別に調整を定義する必要はありません。価格グループは、顧客別、品目別、顧客グループ別、または品目グループ別に定義できます。また、販売先、出荷先、親住所によって顧客を識別できます。購買構造を使用して、顧客の価格設定の管理とカスタマイズを組織レベルに基づいて行います。

価格設定ワークベンチでは、1つのフォーム上にすべての価格設定シナリオを表示できます。これによって、指定した顧客や各種のシナリオに関するすべての価格設定関連情報を確認できるため、何度も顧客検索を実行する必要がなくなります。価格マトリックスを使用すると、1つのフォーム上で複数の価格設定レコードを追加および編集できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムと調達管理システムを使用すると、品目ごとに調整を処理したり、購買オーダー・バッチまたは入荷バッチの価格を変更できます。また、階層型の検索順序を作成できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用して、無償品とリベートの設定とトラッキングを行うことができます。調整履歴をオンラインで確認することも可能です。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムとJD Edwards EnterpriseOne Blend Managementシステムを使用すると、契約で定められた情報、設定した最低価格と最高価格、およびぶどうに対して実施した品質試験に基づいて、ぶどうの支払価格を設定できます。また、入荷の入力中に価格を一時変更して、ぶどうの支払価格を変更することもできます。

この製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOne価格管理、調達管理および受注管理システムのセットアップ機能と導入機能について説明します。また、JD Edwards Blend Managementの導入機能についても説明します。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムは、JD Edwards Grower, Pricing, and Payments システムとJD Edwards Grower Managementシステムとも統合されています。セットアップ情報の詳細は、『JD Edwards Grower, Pricing, and Payments 9.0 Implementation Guide』および『JD Edwards Grower Management 9.0 Implementation Guide』を参照してください。JD Edwards EnterpriseOneサービス管理とJD Edwards EnterpriseOneケース管理の価格設定情報は、『JD Edwards EnterpriseOne サービス管理 9.0 製品ガイド』および『JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド』に記載されています。

参照: JD Edwards Blend Management 9.0 Implementation Guide

参照: JD Edwards Grower, Pricing, and Payments 9.0 Implementation Guide

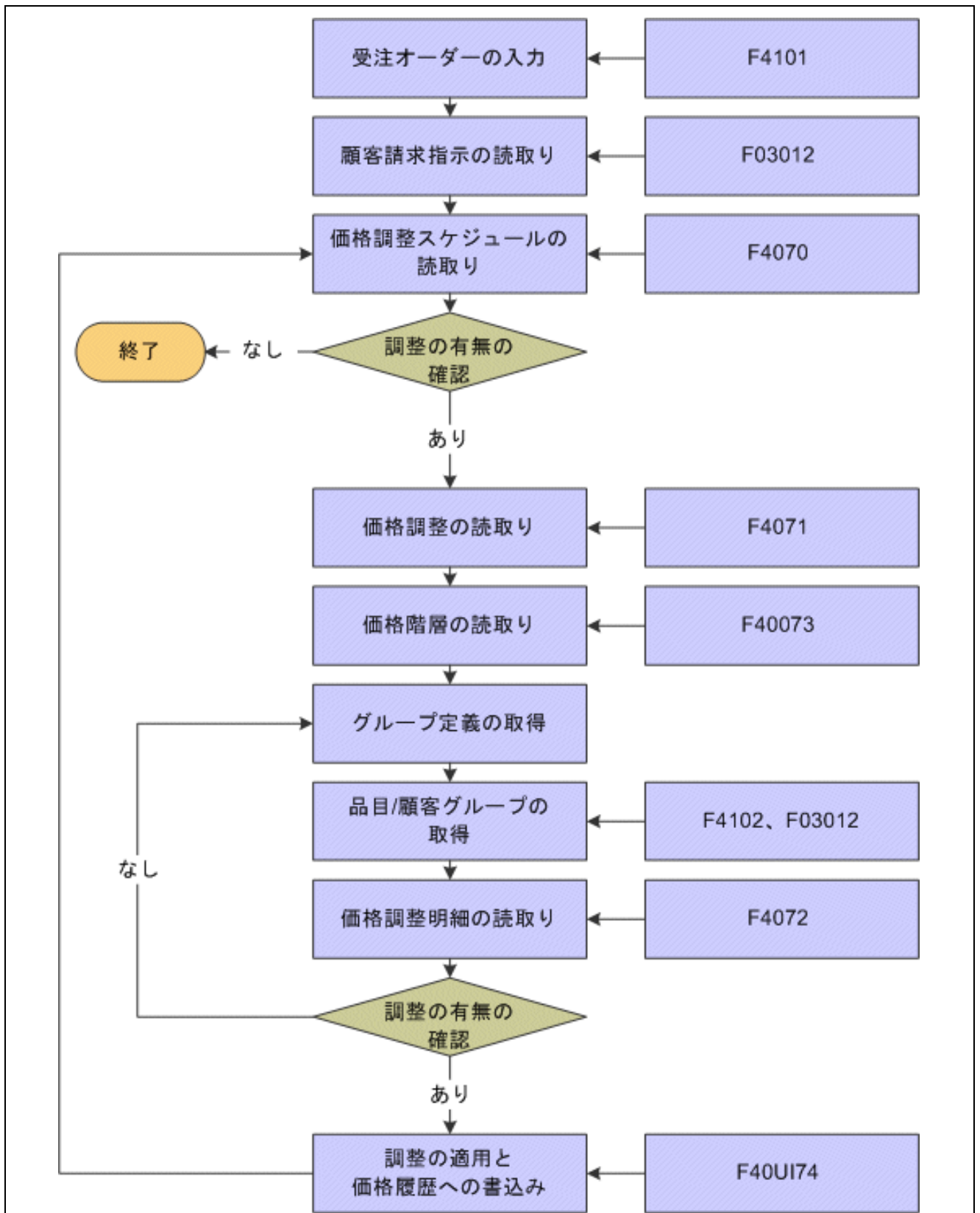
参照: JD Edwards Grower Management 9.0 Implementation Guide

参照: JD Edwards EnterpriseOne Customer Relationship Management サポート・アプリケーション 9.0 製品ガイド

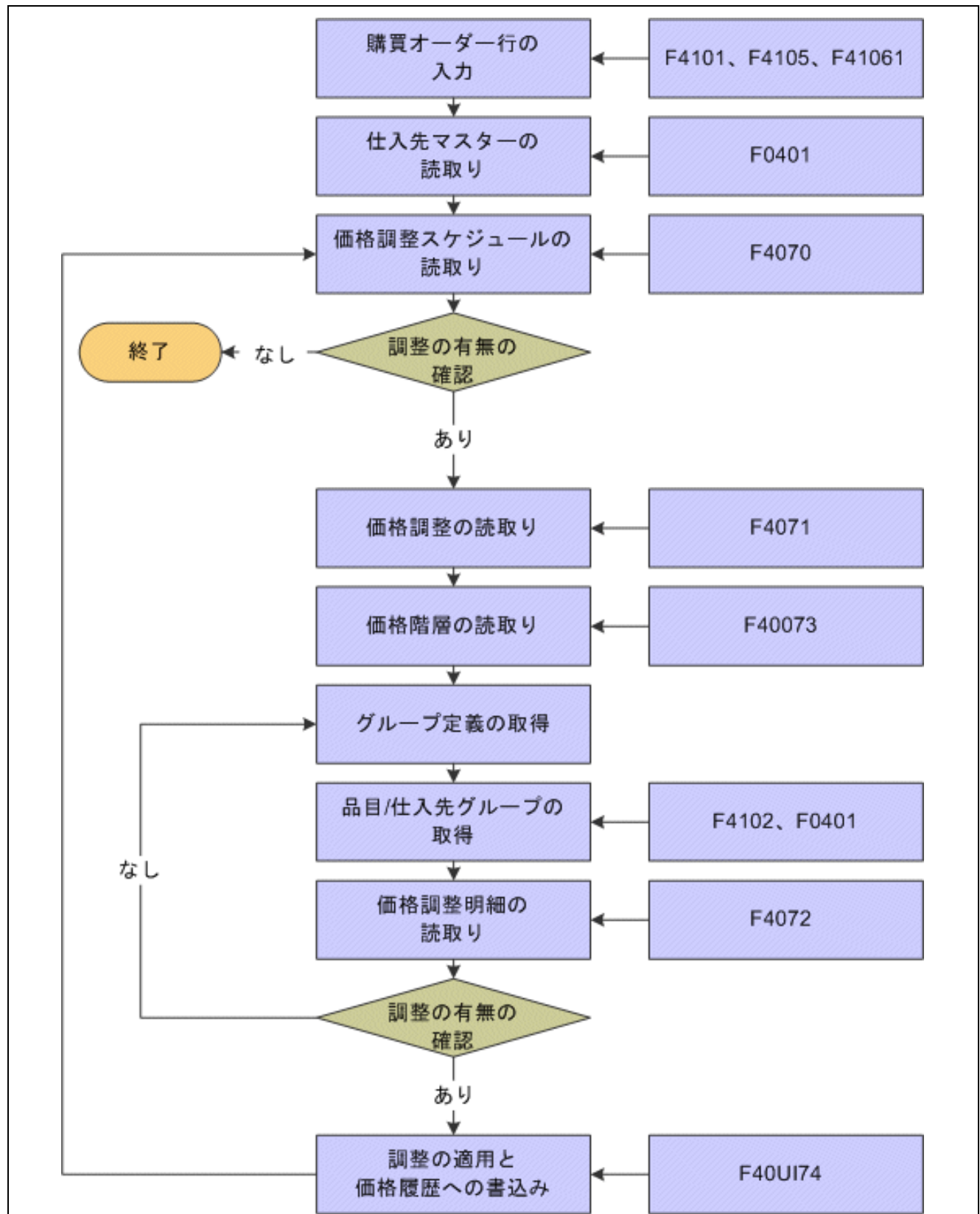
参照: JD Edwards EnterpriseOne サービス管理 9.0 製品ガイド

JD Edwards EnterpriseOneシステムにおける価格管理ビジネス・プロセス

次の図に、JD Edwards EnterpriseOneの受注管理システムと調達管理システムにおける価格設定情報の処理方法を示します。



受注オーダーの価格設定プロセス・フロー



購買オーダーの価格設定プロセス・フロー

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne 受注/価格管理システムは、次の JD Edwards EnterpriseOne システムと統合されています。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne 調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne サービス管理
- JD Edwards EnterpriseOne ケース管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards Blend Management
- JD Edwards Grower, Pricing, and Payments
- JD Edwards Grower Management
- JD Edwards EnterpriseOne 品質管理

統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、Customer Connection Web サイトを参照してください。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理

仕入先マスターに仕入先レコードを設定します。調整スケジュールや仕入先グループなどの仕入先情報が価格設定用のデフォルト値として使用されます。JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムでは、リベートと承認済シブ・アンド・デビット請求情報のトラッキングと見越し調整が行われます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

顧客マスターに顧客レコードを設定し、顧客別または顧客グループ別に価格グループを定義します。顧客請求指示では、価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや顧客グループなどの顧客情報を設定します。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでは、リベートと価格設定情報のトラッキングが行われます。また、顧客への請求書に調整情報を印刷するようにシステムを設定できます。

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理

品目と、販売および購入価格レベルを JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムで設定し、品目別または品目グループ別に価格グループを定義します。カテゴリ・コードを使用して、品目グループを作成し、全事業所を対象に全品目の標準単位を設定し、指定した価格設定単位への変換を行うことができます。JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システムでは、基本価格と価格調整の検索に複数の単位を指定できます。

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理

受注処理時には、最初に品目の基本価格が検証され、次の標準価格調整の処理が省略されて、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムからオーダーに特定のスケジュールと調整が適用されます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理

受注処理時には、最初に品目の単位原価が検証され、次の標準価格調整の処理が省略されて、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムからオーダーに特定のスケジュールと調整が適用されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの価格設定階層を設定して、契約と作業オーダーに適用できます。作業オーダーの処理時には、請求処理のために作業オーダーに適用する調整の計算に階層が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOneケース管理

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの価格設定階層を設定して、ケースに適用できます。ケースの処理時には、請求処理のためにケースに適用する調整の計算に階層が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計

AAI(自動仕訳)には、仕訳を自動作成するために使用されるルールが含まれています。AAIによって、価格調整を一般会計システムに仕訳する方法が指定されます。

JD Edwards Blend Management

長期間にわたって、ぶどうの購買契約と購買価格を管理できます。ワイン醸造所用のぶどうの購買を行う場合、入荷したぶどうの支払価格を管理できます。たとえば、入荷の入力時に価格を調整したり、入荷または購買オーダーのバッチの価格を調整でき、価格を一時変更することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne品質管理

入荷時に品目に対して実施する品質試験に基づいて、品目の価格を設定できます。たとえば、入荷時にぶどうに対して実施する品質試験に基づいて、ぶどうの価格を設定できます。このアクションによって、ワイン醸造用のぶどう以外の品目の価格も調整できます。

JD Edwards Grower, Pricing, and Payments

JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの契約で、農作物に対する支払価格を設定できます。契約に、最低価格と最高価格の価格調整を添付できます。

JD Edwards Grower Management

農作物に対する支払価格を様々な要因に基づいて調整できます。たとえば、ぶどうの栽培業者と産地を識別できることによって、ぶどうの支払価格を調整できます。さらに、収穫に変化がある場合は、その情報に基づいて農作物の価格を調整できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、提供されているすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理について、どの ESU (電子ソフトウェア更新) をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistant を使用します。Java ベースのツールである EnterpriseOne and World Change Assistant を使用すると、必要となる ESU を検索してダウンロードするためにかかる時間を 75% 以上削減できます。さらに、複数の ESU を一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理のグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード (UDC) を設定します。	EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
3. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」
5. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」
8. 住所録レコードを入力します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通 AAI、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」
10. 製造現場カレンダーを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「製造現場管理システムの設定」
11. オーダー処理規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」

アプリケーション別導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムの導入に必要な手順を示します。

手順	参照
1. システムおよび価格管理固定情報を設定します。	第 3 章、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、15 ページ
2. AAI を設定します。	第 3 章、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、15 ページ

調達管理用の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムと調達管理システムの導入に必要な手順を示します。

手順	参照
1. オーダー行タイプを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「調達管理システムの設定」
2. 仕入先および品目情報を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」 JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の入力」
3. 仕入先価格を定義します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」 JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」
4. (省略可)仕入先リベート契約を定義します。	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」
5. (省略可)陸揚費用を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」

EnterpriseOne受注管理用の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムと受注管理システムの導入に必要な手順を示します。

手順	参照
1. 顧客レコードを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「顧客マスター情報の設定」
2. 品目および価格情報を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「基本価格設定および標準価格設定の設定」
3. 顧客請求指示を定義します。	JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」
4. オーダー行タイプを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」
5. (省略可)コミッションを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注管理システムの設定」

第 2 章

価格管理について

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne価格管理
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理の機能
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Management

JD Edwards EnterpriseOne価格管理

変動する市況に対応して、価格設定戦略の改良や変更を迅速かつ効果的に行う能力は、市場における優位性の1つです。反応が遅い企業は、競合他社に無償で利益を譲ってしまうことになります。変化する価格設定の条件に企業が即応するには、柔軟な価格調整システムが必要です。

柔軟な価格設定システムの導入には、次のような利点が伴います。

- 市場部門と製品特性に基づく正確な価格設定によって、収益性と競争力が向上します。
- 販売組織やマーケティング組織は、様々な市場部門をターゲットとして価格設定戦略を自由に作成できます。
- 競合他社の価格設定戦略や市況に対して、迅速かつ効果的に反応できます。

JD Edwards EnterpriseOneシステムでは、次の2つの価格調整ソリューションのいずれかを使用して、基本価格設定を調整できます。

- 基本価格設定 (受注管理で提供される標準価格調整アプリケーション)

価格設定において、価格管理によって提供される機能が必要ではない場合は、標準の価格調整を使用します。

- 基本価格構造と統合する価格管理

価格管理の用語

この項では、価格管理で使用される共通の用語を説明します。

価格管理階層、階層、優先階層、価格設定階層

基本価格の取得、および価格の調整と更新の計算のために使用される価格設定構造です。

調整、調整定義、定義、価格調整、価格調整定義、購買オーダー調整、受注オーダー調整

価格設定計画や販売促進などの特定の価格設定の状態を示すレコードです。

調整スケジュール、価格スケジュール、スケジュール	調整スケジュールは、1つ以上の価格調整定義と調整明細で構成されます。
調整明細、価格管理調整明細、価格調整明細	調整明細は、価格調整の計算に使用するパラメータを提供し、柔軟な価格設定を可能にします。
複合価格グループ、顧客グループ、品目グループ、一時変更検索グループ、オーダー明細グループ、価格グループ	次のものとして使用するカテゴリ・コードです。 類似した特性を持つ顧客と品目に対する価格グループ オーダー行の調整定義を作成するためのオーダー明細グループ

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の機能

価格設定は、おそらく、業務において最も複雑な要素の1つであるため、価格設定情報の計画、設定、および管理には相当の時間を要する場合があります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用すると、価格設定の設定と管理が容易になります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムのセットアップは簡単で、管理も最小限で済みます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理を使用すると、価格設定を柔軟に定義できます。個別の販売促進や取引の価格を簡単に調整し、調整を価格構造やスケジュールに組み込むことができます。各スケジュール内で定義できる調整の数に制限はありません。また、同じスケジュール内で通常の割引と販売促進を組み合わせることができるため、各受注オーダー行に対して複数の調整を適用できます。

顧客および品目グループ

顧客や品目のグループ化によって、広範な市場部門と製品ラインに対応できます。顧客および品目のグループを使用すると、品目や顧客ごとに調整情報を設定する必要がなくなります。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理によって、価格グループのより柔軟な処理が可能になります。個別の品目や顧客、または、グループ化した品目や顧客の調整を作成できます。顧客は、販売先、出荷先、または親住所によって識別されます。

価格設定ワークベンチ

価格設定ワークベンチ・プログラム(P45501)を使用すると、価格設定に関する様々な情報を単一のフォームで表示できます。価格設定に関するすべてのシナリオと状況を特定できるため、価格設定構造の管理が簡素化され、顧客を照会する回数が削減されます。

レコードの照会のためのフィルタを作成すると、「価格調整の一括改訂」フォームを使用して、複数の価格調整レコードをまとめて更新したり、既存のレコードの変更やコピーによってレコードを新規作成できます。

顧客別価格表

価格管理情報に基づいて顧客別価格表の作成と管理を行い、それらを顧客に転送できます。

調整の見越し

調整をオーダー行に適用するかわりに、その調整額の見越しを行うようにシステムを設定できます。この処理は、次の金額を対象に行うことができます。

- 広告割引と共同割引
- コミッション

- 製品または顧客に基づくロイヤリティ

価格調整の各タイプ

調整を利用して、価格設定スケジュールを柔軟に定義できます。次の情報に基づいて価格を調整できます。

- 基本価格の指定した割合
- 現行正味価格の一定の割合
- 原価金額の一定の割合
- 特定の金額
- 新規基本価格としての価格調整の選択
- 単独の受注オーダー行に対して複数の割引を設定する際に使用する通過逡減
通過逡減は、数量、重量、または金額に基づきます。

- 数式

たとえば、受注オーダー明細の1つのフィールドを参照する数式を作成できます。また、価格が頻繁に変動する品目の価格設定を作成する必要がある場合は、変数テーブルからデータを取得する数式を作成できます。

- 一時変更価格

一時変更調整に定義した価格で基本価格を置き換える調整を作成して、価格を上書きすることができます。単価の計算に適用する丸め規則を指定し、その規則を調整に添付することも可能です。

- 会社独自のカスタム・プログラム
- 最低価格または最高価格による価格調整規則

調整用の価格表グループを指定できます。価格調整をグループ化し、割引、プロモーション、税、運送費を表すカテゴリにまとめることができます。

期限付き価格

各調整に対して、有効開始日付と有効終了日付を定義できます。たとえば、5月の販売促進のための価格調整を設定するには、有効日付の範囲を5月1日から5月31日に定義します。

多通貨価格設定

価格設定とその管理を通貨別に行うことができます。複数の通貨で販売が行われる場合は、受注オーダーの通貨に基づいて、品目基本価格テーブル(F4106)から通貨情報が取得され、価格管理システムの調整情報が取得されます。オーダーの通貨での価格調整が見つからない場合は、基本通貨が使用されます。

複数単位

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに含まれる“単位換算 - 品目”プログラム(P41002)を使用して、基本価格と調整の特定に使用する単位を複数指定できます。たとえば、検索時に使用する最初の単位にパレットを指定できます。何も情報が検索されない場合は、2次単位としてケースを指定できます。

しきい値の規則を使用して、顧客が購入する金額に基づいて調整を設定することも可能です。複数単位を使用すると、定義済の単位のレベル区切りとは異なる単位に基づく調整係数値を適用できます。

扱い高基準

扱い高基準を使用すると、製品または製品グループのオーダー入力時に割引価格を提供できます。この割引は、特定の顧客が長期にわたって複数回発注した製品のオーダー量に基づきます。割引の基準には、金額、パーセンテージ、または再調達価格を指定できます。扱い高基準調整は、単一レート価格調整または通過通減価格設定のいずれかに基づいて設定できます。

扱い高基準アップセル

大量購入による値引きを顧客に提案する場合は、調整と、オーダー行がアップセル通知の条件を満たしていることを通知するタイミングを決定する許容率を指定できます。

無償品

無償品とは、通常、製品の販売促進や展示を補助するために使用したり、オーダーされた製品に添付する販促物を指しています。たとえば、注目を集めるための無償品として、展示用ケース類、ポスター類、その他の販促物などの製品を指定できます。

調整を定義する際に、無償品が適用される方法を定義します。無償品には任意の調整を関連付けることができます。また、1つの無償品カタログに複数の無償品を定義できます。無償品カタログによって、顧客は、オーダーが基準を満たした場合に提供される無償品を選択できます。

レベル区切り

オーダーの数量、重量、または合計価格に基づく値引きによって、大量に商品を購入した顧客を優遇できます。調整タイプを定義する際には、使用するレベル区切りタイプを指定します。

購買構造

購買構造を使用して、顧客の価格設定の管理とカスタマイズを顧客の組織構造に基づいて行います。購買構造によって、顧客に適用する調整とリベートのカスタマイズが可能になります。

見越し

AAI(自動仕訳)を使用して、ロイヤリティ、コミッション、およびリベートの負債勘定を設定できます。見越しによってオーダーの価格が変更されることはありませんが、売上更新プログラム(R42800)を使用すると、適正な支出および負債の仕訳入力を作成されます。

リベート

顧客が物品やサービスをより大量に購入するように仕向けるために、リベートが使用されます。複数のオーダーの合計金額、合計数量、または合計重量に基づいてリベートを計算できます。リベートのしきい値を定義して、クレジット・オーダーの作成のためのルールを設定できます。ターゲットの顧客または顧客グループに対し、製品の売上に基いて、適切な仕入先販売証明リベートを作成できます。

柔軟な請求書印刷の詳細設定

調整情報を請求書に印刷するかどうかを指定する調整タイプ定義です。

価格再設定調整

1つのオーダーの数量、重量、または金額を累計し、その合計数量、合計重量または合計金額に基づいて割引を適用できます。

オンライン価格交渉

顧客のオーダーを受ける際に、価格交渉を行い、結果を検討できます。顧客との合意に達するまで、価格計算を変更できます。価格の変更に従って利益率が自動的に計算されるため、規定済のガイドラインの範囲内で取引が行われていることを確認できます。

価格承認

価格の作成や変更を行う必要がある場合には、承認を得るために新規価格または変更した価格を自動的に送信するプロセスを設定できます。価格承認の処理経路は、JD Edwards EnterpriseOneワークフロー管理によって設定されます。

シップ・アンド・デビット契約処理

電子産業の市場の価格変動に基づく契約を流通業者と結ぶサプライヤは、シップ・アンド・デビット処理の機能を使用して、契約の定義、調整および処理を行い、契約に従って発生する請求を管理できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、シップ・アンド・デビット機能を使用できます。

価格マトリックス

多くの会社は、非常に複雑な価格設定を使用しており、品目と顧客に対して多数の価格調整レコードを保持しています。価格マトリックス・プログラム(P4590)を使用すると、多数の調整明細レコードを追加および編集して、価格計算のためのパラメータを提供できます。このプログラムを使用すると、ニーズに合ったビューにアクセスでき、価格設定情報を迅速に入力および管理できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理

JD Edwards EnterpriseOne価格管理は、製品の単純な販売促進から複雑な顧客取引まで、多様な価格設定戦略に対応できるように設計されています。JD Edwards EnterpriseOneの価格管理システムと調達管理システムの機能を統合することにより、仕入先から提供される数量別価格について、より詳細な情報を得ることができるようになります。また、レートと調整の詳細を管理できます。

JD Edwards EnterpriseOneの価格管理と調達管理の統合機能には、次のものがあります。

- 各行品目への複数の調整の適用
- 調整機能の詳細定義
- 階層型の調整検索順序
- オーダー個別の価格設定特性
- 無償品処理
- 調整履歴のオンライン検討
- 調達および入金調整
- 購買オーダーまたは入荷バッチの価格再設定
- 調整明細レコードを更新するための価格マトリックス

注意: 調整は、非在庫品目の入荷行には適用されません。

購買オーダーの調整に関して特定の操作を必要とする各項は、「JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用」という項名になっています。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Management

栽培業者との契約は数年間または複数の栽培期間にわたることがあり、たとえば、ぶどうの購買契約と購買価格を長期間にわたって管理する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの機能の一部は、JD Edwards Blend Managementシステムと統合されます。

- 調整明細レコードを更新するための価格マトリックス
- ぶどうの入荷時の最低価格設定または最高価格設定を更新するための、最低価格または最高価格による価格調整
- 価格調整を使用した入荷の価格再設定
- 品質試験に基づく価格設定
- 契約価格の手動による一時変更と調整の適用
- 購買オーダーまたは入荷バッチの価格再設定

Blend Managementで使用される各機能の詳細は、「JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Managementの使用」という見出しの項に記載されています。

第 3 章

EnterpriseOne 価格管理の設定

この章では、設定要件の概要と次の方法について説明します。

- 価格管理固定情報の設定
- 価格設定エンジンの使用
- 価格管理のAAI(自動仕訳)の設定

設定要件について

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理は、会社のニーズに応じて設定できます。JD Edwards EnterpriseOne 受注管理をJD Edwards EnterpriseOne 価格管理と統合することで、効率性と正確性が向上します。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の設定機能の概要を示しています。

機能	説明
固定情報	固定情報により、システムに対して次のように情報が供給されます。 <ul style="list-style-type: none">• システム固定情報によって、システム全体のデフォルト情報が決まります。• 価格管理固定情報によって、価格設定情報が決まります。• バッチ制御固定情報によって、アプリケーションに管理者承認とバッチ制御が必要かどうかが決まります。• 事業所固定情報によって、事業所内の日次トランザクションが制御されます。• 保管場所フォーマットによって、事業所での品目保管場所を識別する方法が決まります。• 品目引当可能数量によって、各事業所にある品目数量の計算方法が決まります。
AAI	AAIによって、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムに会計情報と総勘定元帳との関係情報が提供され、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムとの連携が可能になります。

在庫管理、調達管理、受注管理、一般会計などの他のEnterpriseOneシステムで、次のJD Edwards EnterpriseOne 価格管理の機能を設定する必要があります。

機能	説明
住所録の改訂	顧客グループの作成に使用するカテゴリ・コードを入力できます。
品目マスター	販売および購入のレベルを定義できます。品目レベル、事業所、または事業所内の保管場所で、受注オーダーの価格を定義できます。 購買オーダーでは、購買価格レベルを使用して、F4105テーブルとF41061テーブルのどちらから単位原価を取得するかが識別されます。
品目/事業所情報	品目グループの作成に使用するカテゴリ・コードを入力できます。
顧客請求指示	価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや顧客グループなどの顧客情報を設定できます。
仕入先指示	価格設定デフォルトとして使用される調整スケジュールや仕入先グループなどの仕入先情報を設定できます。
陸揚費用	陸揚費用を設定して、配送料金や仲介業者の手数料など、品目の仕入価格以外の原価を指定できます。
標準単位	全事業所の全品目を対象に標準単位を設定し、指定した価格設定の単位に換算できます。

さらに、JD Edwards EnterpriseOne価格管理をJD Edwards Grower, Pricing, and PaymentsシステムおよびJD Edwards Grower Managementシステムと連携させて使用する場合は、「価格管理固定情報」フォームで「調達価格管理を使用する」固定情報を選択し、JD Edwards Grower Managementシステムを有効化する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理をJD Edwards EnterpriseOne品質管理システムと連携させて使用するには、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムを有効化する必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「品目マスター情報の入力」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「事業所情報の入力」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「固定情報の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「標準単位の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「調達管理システムの設定」、「陸揚費用の設定」

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先価格および割引規則について」

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先の管理」、「代替通貨での仕入先価格の生成」

価格管理の固定情報の設定

この項では、価格管理の固定情報の概要と、次の設定方法について説明します。

- システム固定情報
- 価格管理固定情報

価格管理の固定情報について

実行する機能を指定するには、システム固定情報を設定します。たとえば、複数の事業所があり、各事業所の品目で異なる単位が使用されている場合、システム固定情報を設定して、事業所ごとに単位の自動変換を行うことができます。システム固定情報はすべての事業所に適用されます。事業所ごとにシステム固定情報は変更できません。

価格管理では、受注オーダーと購買オーダーの価格調整の取得方法をシステム固定情報に定義します。基本価格と調整の設定時には、様々な単位や有効日付範囲を使用できます。取引単位、購買単位、または基本単位のいずれかに基づいて、購買明細行の単位が取得されます。また、オーダー処理における特定の日付に基づいて価格を取得することも可能です。たとえば、品目が出荷された日付とオーダーが入力された日付で、販売価格を比較できます。

価格管理固定情報を使用して、JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムのいずれか、またはこれら両方で JD Edwards EnterpriseOne 価格管理を使用するかどうかを制御されます。また、受注オーダーや購買オーダーの調整の価格の計算式に、特殊文字を割り当てることも可能です。出荷先住所録番号を使用した直接価格調整の取得、価格承認の適用、販促用の価格設定の使用など、他のコントロールを指定することもできます。「基本価格変更時の販売価格調整」オプションと「基本価格変更時の調達価格調整」オプションのいずれか、またはこれら両方を設定して、価格を一時変更して手動による価格調整を実行し、価格履歴レコードを表示できます。システム・パフォーマンスを向上させるために、価格設定エンジンを有効化できます。

システム固定情報と同様に、価格管理固定情報はすべての事業所に適用されます。事業所ごとに設定は変更できません。

価格管理の固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
システム固定情報	W41001F	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「事業所固定情報」 「事業所固定情報の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「システム固定情報」を選択します。	システム固定情報の設定と確認を行います。
価格管理固定情報	W41001D	「事業所固定情報の処理」フォームで、「フォーム」メニューの「価格管理固定情報」を選択します。	価格管理固定情報の設定と確認を行います。

システム固定情報の設定

「システム固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - システム固定情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

☐ 事業所別に単位を換算する

☒ 平均原価のリアルタイム更新

☐ ECSシステムの使用

☐ インターネットPPATメッセージ使用

☐ 科学計算法

☐ 顧客セットの使用

☐ 出荷日付規則<昇順>

重複ロットの許可

販売価格の計算に使用する単位

購買価格の計算に使用する単位

販売価格基準日

購買レポートのカテゴリ・コード

優先スケジュール

優先調整の計算に使用する単位

価格設定エンジン

「システム固定情報」フォーム

販売価格の計算に使用する単位

受注処理、サービス/保証管理、およびシップ・アンド・デビット処理で基本価格と価格調整の取得に使用する単位を指定するユーザー定義コード(UDC) 40/SUを入力します。様々な単位を使用して、基本価格をF4106テーブルに定義し、価格調整をF4072テーブルに定義できます。

指定した単位で基本価格や価格調整が見つからない場合は、その品目の基本単位が使用されます。

販売価格基準日

F4201テーブルとF4211テーブルの価格有効日付の更新方法を表す値を入力します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムでは、「価格有効日付」を使用してF4201テーブルから基本価格を取得し、F4211テーブルから価格調整を取得します。

購買価格の計算に使用する単位

UDC 40/PUの値を入力して、購買オーダーの処理時にF41061テーブルから取得される購買基本価格の単位を指定します。JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

トランザクションや価格設定の処理で指定した単位のレコードが存在しない場合は、その品目の基本単位を使用して処理が繰り返されます。

購買レポートのカテゴリ・コード

UDC 43/RUの値を入力して、組込み比較の基準に使用されるカテゴリ・コードを指定します。JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

優先スケジュール

UDC 40/APの値を入力して、優先情報の決定時に使用される詳細優先スケジュールを指定します。詳細優先スケジュールによって、詳細優先情報機能で使用される優先情報が決まります。優先スケジュールはUDCで直接管理することはできませんが、価格調整スケジュール・プログラム(P4070)を使用して管理できます。詳細優先情報を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

優先調整の計算に使用する単位

UDC 40/RUの値を入力して、受注処理中に詳細優先情報の調整を取得するために使用される単位を指定します。F4072テーブルの詳細優先調整は、様々な単位で定義できます。詳細優先情報を使用する場合は、このフィールドに値を入力します。

トランザクションや価格設定の処理で指定した単位のレコードが検出されない場合は、その品目の基本単位を使用して処理が繰り返されます。

価格設定エンジン

価格設定エンジンを使用する場合は、「1」と入力します。このフィールドに「1」と入力する場合は、価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラム(P4530)にアクセスしてキャッシュをロードする必要があります。システムを再起動するたびに、価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラムにアクセスしてキャッシュをロードする必要があります。

注意: JD Edwardsでは、価格設定エンジンの使用を有効化する前に、価格設定エンジンの機能と制限、および価格設定エンジンの管理方法を理解しておくことをお勧めします。

トランザクション(受注オーダーの入力など)のためにアクセスされる、キャッシュされたテーブルを変更した場合、キャッシュを再ロードするまで、その変更は使用されません。

参照: 第 3 章、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、「価格設定エンジンの使用」、22 ページ

値は次のとおりです。

ブランクまたは0: 価格設定エンジンの使用を許可しません。

1: 価格設定エンジンの使用を許可します。

価格管理固定情報の設定

「価格管理固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - 価格管理固定情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

販売価格管理を使用する(Y/N)

調達価格管理を使用する(Y/N)

価格承認必須(Y/N)

価格調整の決定方法

基本価格変更時の販売価格調整

基本価格変更時の調達価格調整

記号

変動テーブル識別記号

単位識別記号

通貨コード識別記号

データベース・フィールド識別記号

試験結果名識別記号

関数名識別記号

関数の引数区切文字識別記号

調整明細参照識別記号

購買構造

販売価格管理の構造タイプ

☐ 出荷先住所を使用する

販促管理固定情報

販促管理システムの指定

販促が複数ある場合の指定

「価格管理固定情報」フォーム

販売価格管理を使用する(Y/N)

システム内で品目の価格がどのように決定されるかを指定します。使用しているシステムにJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムが含まれている場合は、この機能を使用できます。値は次のとおりです。

Y: JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用します。

N: JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用しません。

調達価格管理を使用する(Y/N)

購買価格の計算に価格管理を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

Y: 価格管理を使用して購買価格を計算します。

N: 標準価格調整を使用して購買価格を計算します。

価格承認必須(Y/N)

すべての価格変更を価格承認ワークフロー経由で処理するかどうかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。

Y: 価格承認ワークフローが適用されます。

N: 価格承認ワークフローは適用されません。

価格調整の決定方法

価格計算プログラムによる価格調整の選択方法を指定する値を入力します。空白にすると、指定した価格調整スケジュールが選択されます。デフォルトは空白です。

価格設定の住所番号を選択するには、「1」を入力します。

スケジュールと住所番号の両方を選択するには、「2」を入力します。

基本価格変更時の販売価格調整

受注オーダー明細行の価格設定を一時変更するときに、追加の調整を適用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

Y: 一時変更価格に調整を適用します。

	N: 一時変更価格に調整を適用しません。
基本価格変更時の調達価格調整	<p>購買オーダー明細行の価格設定を一時変更するときに、追加の調整を適用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 一時変更価格に調整を適用します。</p> <p>N: 一時変更価格に調整を適用しません。</p>
販売価格管理の構造タイプ	JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ (電子メールなど) を指定する UDC (01/TS) を入力します。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに親/子関係を作成する場合は、この構造タイプをブランクにしてください。
出荷先住所を使用する	出荷先住所録番号を使用して直接価格調整を取得する場合に選択します。その住所録番号は、購買構造で直接価格調整を検索するための開始ポイントとして使用されます。出荷先住所番号を使用する場合は、選択を解除します。
変動テーブル識別記号	JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムの変動テーブルの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字をテーブル名の先頭に付加すると、そのテーブル名は価格計算数式のためのテーブル名として認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
単位識別記号	価格管理の計算式の単位の識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字を単位の先頭に付加すると、そのエントリは価格計算数式のための単位として認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
通貨コード識別記号	価格管理の計算式の通貨コードの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字を通貨コードの先頭に付加すると、そのエントリは価格計算数式のための通貨コードとして認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
データベース・フィールド識別記号	価格管理データベース・フィールドの識別に使用する文字を指定します。ここで指定するアルファベット、数字、数学関数などの文字をデータベース・フィールド名の先頭に付加すると、そのデータベース・フィールドは価格計算数式のためのデータベース・フィールドとして認識されます。ただし、記号 +、-、×、÷ は、このフィールドでは無効です。
試験結果名識別記号	システム内の価格管理計算式の試験結果名を識別する文字を入力します。この文字から始まる試験結果名を入力すると、その名前が価格計算数式の試験結果名として認識されます。アルファベット、数字、かつこおよび算術関数 (+、-、×、÷ など) の記号は、このフィールドでは無効です。

注意: 試験結果名を設定する場合、「試験結果名」フィールドでユーザー定義文字を使用しないことをお勧めします。たとえば、「価格管理固定情報」フォームで設定したユーザー定義文字や、特殊文字(&、%、!、?、@、\$、|、#など)は使用しないでください。試験結果名と価格管理計算式を組み合わせで使用した場合、この記号は、計算式と試験結果名の両方で解釈されません。たとえば、ブリックス試験結果が23未満の場合ブリックス試験結果が1下がるごとにぶどうの購買価格を10%下げるとします。ブリックス試験結果が22の場合は価格を10%下げ、ブリックス試験結果が21の場合は価格を20%下げます(以降同様)。価格管理計算式の例は、次のようになります。

$$((23 - @BRIX) \times -.1) \times \#UPRC$$

この例では、@記号は、ブリックス試験結果に基づいてぶどうの価格を決定する計算式の一部です。計算式で記号を使用し、記号を含む試験結果名を追加した場合、システムではそれら2つの記号を区別できません。

関数名識別記号

システム内の価格管理計算式の関数名を識別する文字を入力します。この文字から始まる関数名を入力すると、その名前が価格計算数式の関数名として認識されます。アルファベット、数字、かっこおよび算術関数(+、-、×、÷など)の値は、このフィールドでは無効です。

関数の引数区切り文字識別記号

システム内の価格管理計算式の関数の引数区切り文字を識別する文字を入力します。関数を入力すると、関数の引数区切り文字に基づいて関数の引数が認識されます。アルファベット、数字、かっこおよび算術関数(+、-、×、÷など)の値は、このフィールドでは無効です。

調整明細参照識別記号

システム内の価格管理計算式の調整明細参照順序を識別する文字を入力します。この文字から始まる調整明細参照を入力すると、その順序が価格計算数式の調整明細参照順序として認識されます。アルファベット、数字、かっこおよび算術関数(+、-、×、÷など)の値は、このフィールドでは無効です。

販促管理システムの指定

内部またはサード・パーティの販促管理パッケージの使用を指定するUDC (40P/PS)を入力します。

値は次のとおりです。

0: 販促管理システムはありません。

1: JD Edwards EnterpriseOne販促管理システム。

2: サード・パーティの販促管理システム。

販促が複数ある場合の指定

品目または顧客に対して複数の販促が有効な場合にどの販促を使用するかを指定するUDC (40P/PR)を入力します。

価格設定エンジンの使用

この項では、価格設定エンジンの概要と、価格設定エンジンの設定方法について説明します。

価格設定エンジンについて

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムを使用している場合、非常に多数のレコードを作成して、システムで処理できます。価格設定エンジンを使用することにより、システム・パフォーマンスを向上させ、価格設定データと詳細優先データに迅速にアクセスできるようにすることができます。最初に、「システム固定情報」フォームの「価格設定エンジン」フィールドを設定する必要があります。

システムを起動または再起動するたびに、価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラム (P4530) を使用して手動でキャッシュをロードする必要があります。

キャッシュには、次の JD Edwards EnterpriseOne 価格管理テーブルからのデータが含まれます。

- 価格調整明細 (F4072)
- グループ・コード・キー定義テーブル (F4092)
- 品目キーIDマスター (F40941)
- 顧客キーIDマスター (F40942)
- オーダー・グループ・キーIDマスター (F40943)

価格設定エンジンは、キャッシュをロードした後、サブシステムで価格設定 (R45390) UBE を実行します。会社は、システム設定、価格設定構造または価格設定テーブルを大幅に変更することがあります。このような場合、価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラムにアクセスしてキャッシュを再ロードする必要があります。キャッシュを再ロードしないかぎり、行ったすべての変更は、システムでの計算に使用されません。キャッシュの再ロードは大量のシステム・リソースを消費する可能性があるため、このタスクはオフピークの時間帯に実行することをお勧めします。キャッシュのロード中には、システムはデータベースから直接データにアクセスします。再ロードが完了すると、システムは再びキャッシュを使用してデータにアクセスします。また、キャッシュを無効にする必要がある場合があります。この場合は、価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラムを使用してキャッシュを無効にします。

価格設定エンジンの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格設定エンジン・ワークベンチ	W4530A	<p>「上級操作」(G423114)、「価格設定エンジン・ワークベンチ」</p> <p>キャッシュをロードするには、「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォームの「キャッシュのロード」ボタンをクリックします。</p> <p>キャッシュを再ロードするには、「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォームの「キャッシュの再ロード」ボタンをクリックします。</p> <p>キャッシュを無効にするには、「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォームの「キャッシュの終了」ボタンをクリックします。</p> <p>フォームに表示されているキャッシュ状況情報をリフレッシュするには、「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォームの「状況のリフレッシュ」ボタンをクリックします。</p>	価格設定エンジンを使用します。

価格設定エンジンの使用

「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォームにアクセスします。

価格設定エンジン・ワークベンチ - 価格設定エンジン・ワークベンチ

OK(O) 取消(L) ツール(T)

状況のリフレッシュ

キャッシュのロード

キャッシュの再ロード

キャッシュの終了

データ・ソース

Business Data - TEST

サインイン環境

JDV900

キャッシュ状況

非アクティブ

キャッシュ・ロード環境

参照数

0

最終ロード日付

メモリー容量(K)

0

現行のカーソル数

0

最大カーソル数

0 / 120

レコードが取込まれていません。

メッセージ

日付/時刻

ユーザー ID

「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォーム

- 状況のリフレッシュ

クリックすると、キャッシュの状況が取得され、表示されます。
- キャッシュのロード

クリックすると、キャッシュがロードされます。
- キャッシュの再ロード

クリックすると、キャッシュが再ロードされます。
- キャッシュの終了

クリックすると、キャッシュが無効になり、メモリーからキャッシュが削除されます。
- データ・ソース

システムによって取得され、キャッシュにロードされるデータのソースが表示されます。データ・ソースは、「環境」、「ロール」および「ユーザー」フィールドのOCMマッピングに基づきます。
- サインイン環境

ユーザーが現在アクセスしている環境が表示されます。この環境が「キャッシュ・ロード環境」フィールドの値と一致しない場合は、ログアウトしてからキャッシュ・ロード環境にログインし、キャッシュの再ロードを実行するか、キャッシュに対する操作を終了する必要があります。
- キャッシュ状況

キャッシュの現在の状況が表示されます。値は次のとおりです。

アクティブ: 価格設定操作は、キャッシュから価格設定データを取得しています。

非アクティブ: 価格設定操作は価格設定データを、キャッシュからではなくデータベース・テーブルから取得しています。

	無効: 例外状況が発生しました。価格設定操作はデータベース・テーブルから価格設定データを取得しており、キャッシュから価格設定データを取得していません。キャッシュを再び有効化するには、「キャッシュの終了」ボタンをクリックして「キャッシュの再ロード」ボタンをクリックします。
キャッシュ・ロード環境	データ・ソースのキャッシュをロードするために使用される環境の名前が表示されます。ユーザーはこの環境にログインしてキャッシュを再ロードし、そのデータ・ソースのキャッシュに対する操作を終了する必要があります。
参照数	キャッシュに現在添付されているEnterpriseOneプロセスの数が表示されます。この数には、状況情報の取得時にキャッシュ・データにアクティブにアクセスしていたCall Object Kernelまたは実行バッチ・プロセスがすべて含まれます。
最終ロード日付	最後にキャッシュのロードまたは再ロードを開始した日付と時間が表示されます。
メモリー容量	メモリー内のキャッシュの概算サイズがキロバイト単位で表示されます。この数値は、データを保存してメモリー内のキャッシュを管理するために必要なメモリーの容量を表しています。この値は概算であり、実際の割当はオペレーティング・システムによって異なります。
現行のカーソル数	キャッシュ状況情報の取得時にキャッシュにある同時オープン・カーソルの数が表示されます。キャッシュ操作は非常に高速であるため、多くの場合、このフィールドにはゼロ(0)が表示されます。再ロード操作と終了操作を開始する前に、カーソル数がゼロになっている必要があります。
最大カーソル数	キャッシュのロード元からキャッシュにアクセスする同時オープン・カーソルの最大数が表示されます。キャッシュを再ロードしても、この数値はリセットされません。最大カーソル数が使用されているときにカーソルをオープンしようとする、システムでは、キャッシュではなくデータベース・テーブルからデータを取得するように価格設定操作に指示されます。この数値がシステムで許容される最大カーソル数と一致する場合は、カーソル制限を増加することを検討してください。ビジネス関数B4504640で固定情報MRDB_CURSOR_MEM_SPACE_SIZEを調整することによって、カーソル制限を増加または減少させて、キャッシュのメモリー容量を最適化できます。

価格管理のAAIの設定

この項では、価格管理におけるAAIの概要、事前設定、および設定方法について説明します。

価格管理のAAIについて

AAIには、仕訳入力の自動作成で使用するルールが含まれています。一般会計システムへの転記を行う各プログラムでは、AAIが使用されます。

ロジスティクス・システムでは、使用が予想される会社、伝票タイプ、および元帳クラスの固有の組合せごとにAAIを作成する必要があります。各AAIは、ビジネスユニット、主科目、補助科目で構成される特定の勘定科目に対応します。

AAIを定義すると、トランザクションが正しく記録されるようになります。売上更新プログラムを実行すると、在庫勘定、売上原価(COGS)の経費勘定、およびオーダーの収益勘定の仕訳が作成されます。運送費、税、またはオーダーに関するその他の料金の勘定を相殺することもできます。

AAIを使用すると、受注オーダー・トランザクションによって様々な仕訳入力がどのように作成されるかを指定できます。各AAIには、次の情報の組合せが含まれています。

- 会社
- 伝票タイプ
- 元帳クラス・コード
- 勘定科目

多様な組合せの作成によって、仕訳入力を様々な相手勘定に関連付けることができます。たとえば、電話によるオーダーを、店頭でのオーダーとは別の勘定科目に記録できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneの価格管理と調達管理を使用する場合、購買オーダーの調整にAAIは使用されません。たとえば、伝票と領収書の照合時に、単位原価に適用される追加的な割引の仕訳は作成されません。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムで使用されるAAI

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムで使用するAAIを示しています。

AAI	説明
4270 – 価格調整	売上更新プログラム(R42800)によって作成される仕訳入力の売上割引勘定を指定します。
4280 – 未払リベート	相殺仕訳の見越し勘定を指定します。
4234 – シップ・アンド・デビット	売上原価による売上の減損として認識される一時的な見越し勘定を指定します。

業務のニーズにあわせて既存のAAIの検討と改訂を行った後に、追加のAAI項目の設定が必要になる場合があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 勘定科目マスター情報が設定されていることを確認します。
- 会社が設定されていることを確認します。
- トランザクション・タイプが設定されていることを確認します。
- 伝票タイプが設定されていることを確認します。
- 元帳クラス・コードが設定されていることを確認します。
- トランザクションを記録する勘定科目コードを指定します。

価格管理のAAIの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の改訂	W40950D	<p>「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「AAI (自動仕訳)」</p> <p>「AAIの処理」で、AAIを検索して「選択」をクリックします。</p>	AAIの設定と改訂を行います。

AAIの設定

「勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

主科目

勘定科目コードの中で、サブカテゴリに分割する原価コード(労務費、材料費、設備費など)を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。

注意: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用します。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

補助科目

主科目のサブセットを入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

注意: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

このフィールドをブランクにすると、作業オーダーの「原価コード」フィールドに入力した値が使用されます。

第 4 章

基本価格設定の使い方

この章では、基本価格設定、JD Edwards EnterpriseOne受注管理の基本価格設定、価格承認、JD Edwards EnterpriseOne調達管理の価格設定の各概要と、次の方法について説明します。

- 基本価格優先階層の検討
- 基本価格の設定
- 既存価格の有効化

基本価格設定について

受注オーダーまたは購買オーダーを入力すると、事業所、顧客、仕入先、数量などの特性に基づいて、品目の価格が取得されます。受注オーダーまたは購買オーダーに対して価格調整が行われる前には、価格調整が適用される基本価格が必ず取得されます。基本価格の取得後、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムが有効になっているかどうかを確認されます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理が有効な場合、在庫価格設定規則などの標準価格調整が省略され、JD Edwards EnterpriseOne価格管理の適用可能なスケジュールや調整が検索されます。

価格設定には、次の3種類があります。

- 基本価格設定
- 標準の価格調整 (JD Edwards EnterpriseOne価格管理プログラムを使用せずに基本価格を調整する方法)
- 価格管理による価格調整 (JD Edwards EnterpriseOne価格管理プログラムを使用して基本価格を調整する方法)

受注オーダーまたは購買オーダーに入力した価格により、システムによって取得された基本価格が一時変更されます。標準または価格管理による価格設定のいずれかを使用して、基本価格に対する調整を作成できます。

受注オーダーの場合、顧客グループと品目グループを設定し、品目、品目グループ、顧客、および顧客グループの組合せに対して価格を割り当てることができます。価格設定階層により、価格の検索方法が決まります。基本価格の取得には、必ず基本価格優先階層が使用されます。価格構造は、品目と顧客の様々な組合せに対して定義する価格設定に対応できるよう十分な柔軟性を備えている必要があります。

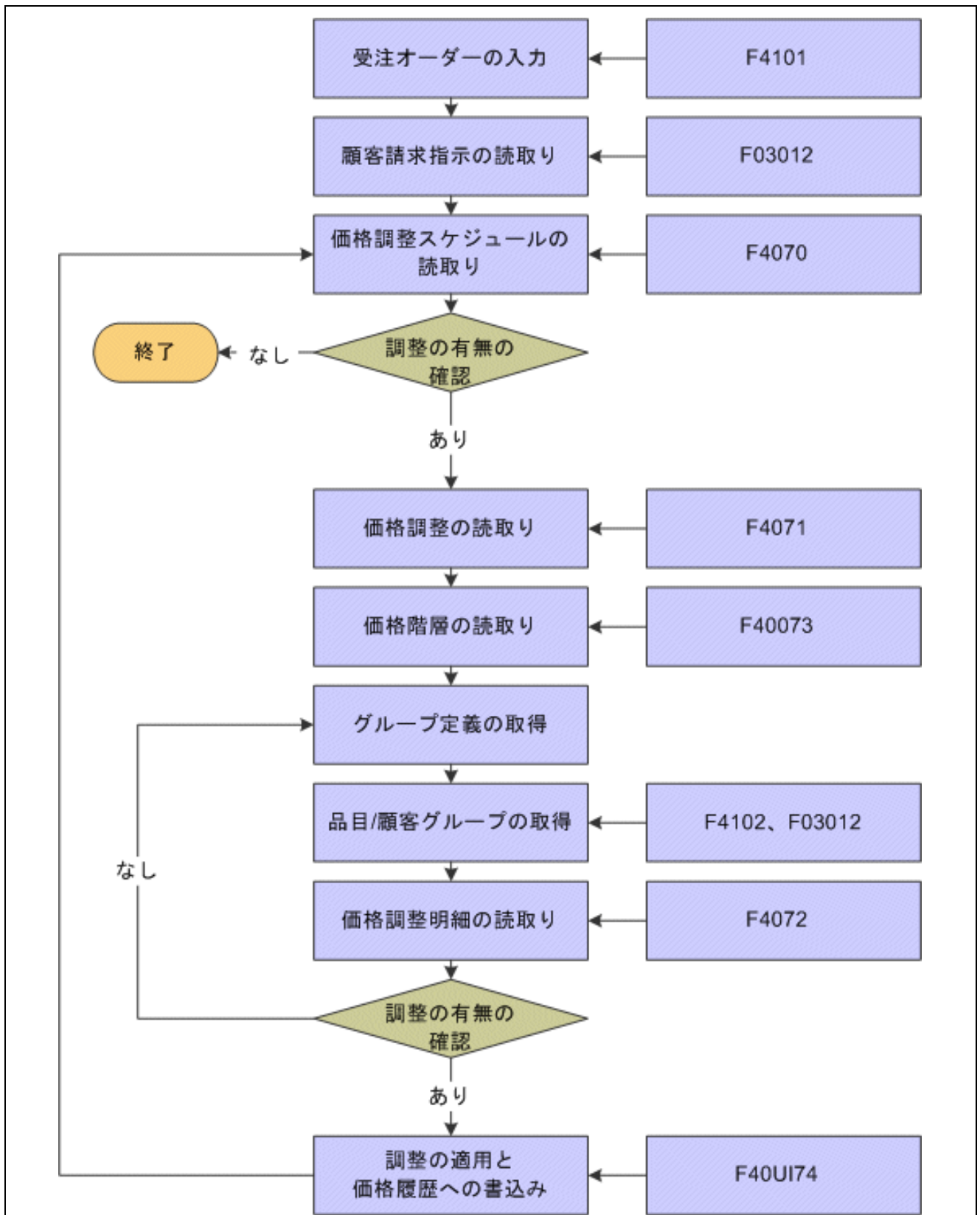
基本価格、価格管理の調整/スケジュールへの変更または追加は、承認プロセスを経るように設定できます。JD Edwards EnterpriseOneワークフロー管理により、価格の承認プロセスが自動化されています。

購買オーダーの場合、仕入先グループと品目グループを設定して、品目と仕入先の組合せに価格を割り当てることができます。購買オーダーの単位原価が、購買価格レベルに基づいて取得されます。また、必要に応じて仕入先カタログもあわせて使用されます。基本価格優先階層は、購買オーダーの価格情報の取得には使用されません。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理における基本価格設定について

受注オーダーを入力すると、事業所、顧客、数量などの特性に基づいて、品目の価格が取得されます。基本価格の取得後、JD Edwards EnterpriseOne価格管理が有効になっているかどうかを確認されます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムが有効な場合、在庫価格設定規則などの標準価格調整が省略され、価格管理の適用可能なスケジュールや調整が検索されます。

次の図は、受注オーダーの価格の計算方法を表しています。



価格管理と受注管理の統合のフローチャート

価格レベル

品目マスターの改訂プログラム(P4101)に品目を入力する際は、販売価格レベルを入力する必要があります。この販売価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。たとえば、基本価格を品目別に定義するか、品目と事業所別に定義するかなどです。価格を定義するレベルについて次の表に示します。

レベル	説明
品目	1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。事業所、ロット、および保管場所情報を含めることはできません。
品目/事業所	品目/事業所の各組合せに対して異なる価格を設定します。保管場所およびロット情報を含めることはできません。
品目/事業所/保管場所	保管場所およびロット別に価格設定を定義する場合、事業所情報を定義することも可能です。

参照: 第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格優先階層の検討」、40ページ

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

品目価格グループと顧客価格グループ

価格グループは、価格設定体系を構築するための1つの手段です。顧客価格グループを設定することにより、複数の顧客と品目の価格を個別に入力および更新するかわりに一括で処理できます。たとえば、「PREFER(優先)」という名称の顧客価格グループを作成し、このグループの顧客が、他の顧客よりも20.00 USD安い価格で自転車を購入できるように設定できます。品目価格グループを設定すると、複数の品目価格の入力および更新を個別にではなく一括で処理できるようになります。たとえば、「BIKES(自転車)」という名称で、色の異なる同じような自転車をグループ化して1つの価格を定義できます。

簡易価格グループと複合価格グループの2つのタイプの価格グループを設定できます。簡易価格グループは、ユーザー定義コード(UDC)で識別されます。品目については、価格グループ名をUDC 40/PIとして設定し、「事業所品目情報」で品目を価格グループ名に割り当てます。顧客については、価格グループ名をUDC 40/PCとして設定し、「顧客請求指示」で顧客を価格グループに割り当てます。

価格設定構造をさらに柔軟に使用するには、複合タイプの顧客および品目価格グループを定義します。複合顧客価格グループまたは複合品目価格グループでは、特定の住所録および品目カテゴリ・コードに基づいてサブグループを作成できます。複合価格グループを使用すると、所在地などのカテゴリ・コードに基づいて、同じグループに属する顧客に異なる価格を割り当てることができます。

関連項目:

第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格の設定」、42ページ

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「基本価格設定および標準価格設定の設定」、「基本価格の設定」

価格の承認について

価格が変更された場合に、社内の担当者に自動的に通知されるように設定できます。この通知の受信者は、変更価格を検討し、承認または却下の判断を下します。変更価格は「一時保留」の状態で作成され、承認処理が完了するまでその価格は使用されません。価格承認の処理経路は、JD Edwards EnterpriseOne ワークフロー管理によって設定されます。

次の価格が、価格承認処理の対象となります。

- 基本価格（受注用）
- 調整明細
- 価格変動
- 価格計算式
- リベートしきい値

価格承認は、受注ベースの価格設定やスケジュールで使用することを目的としており、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の仕入先価格設定では使用できません。価格が承認されると、オーダー入力プログラムで使用可能となり、その後のオーダーで使用できるようになります。価格が却下された場合、その価格はオーダーで使用できません。

この処理を使用するには、価格管理固定情報で有効化しておく必要があります。有効化後は、システム全体に適用されます。

注意: 価格の一括更新プログラムでは、ワークフロー処理は起動されません。これらのプログラムで作成された価格は自動的に承認されます。

一時保留価格と現行価格

承認状況は、システムに入力されたすべての価格に割り当てられます。価格承認状況コードは、基本価格テーブルと価格管理テーブルで参照でき、ユーザー定義コード(45/AS)に保存されています。

次の表は、価格承認の状況コードを示しています。

価格承認状況コード	説明
一時保留	新しい価格または変更価格が作成されると、承認状況は「一時保留」に設定されます。一時保留価格の承認状況コードは1です。
現行	すべての承認担当者が新しい価格または変更価格を承認すると、価格の状況は「現行」に変更されます。状況が「現行」になると、その新しい価格にすべての価格取得機能が適用されます。オーダーに適用される価格は、状況が「現行」の価格のみです。それ以外の状況の価格は無視され、オーダーの価格設定に使用されません。承認状況コードがブランクの場合は、その価格が「現行」であることを示します。

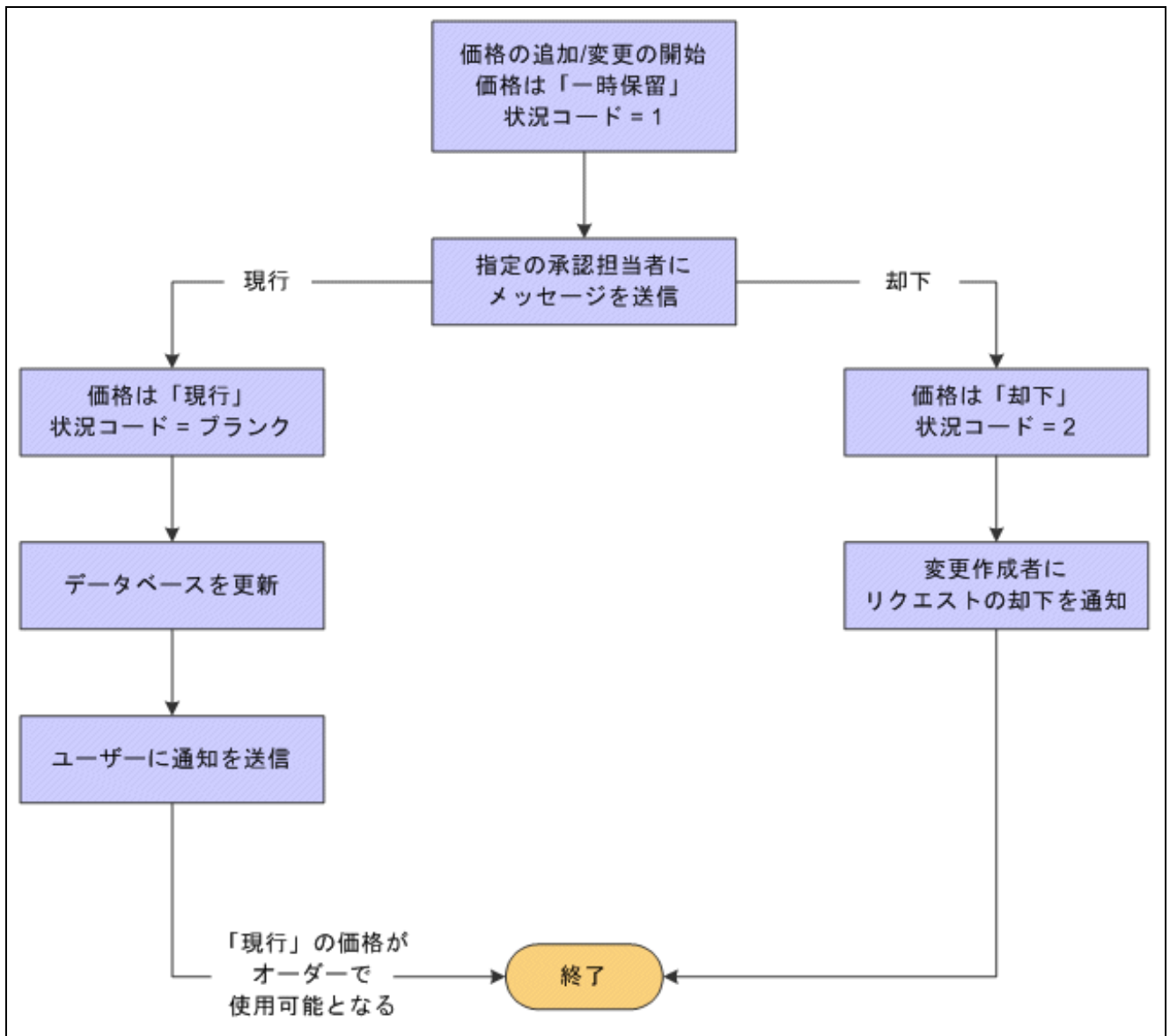
価格承認状況コード	説明
却下	価格が少なくとも1人の承認担当者によって却下された場合は、価格状況は、「却下」に変更され、その価格はオーダーに適用されません。さらに、ワークフロー・メッセージが価格変更の作成者に送信され、価格が却下されたことが通知されます。却下された価格の承認状況コードは2です。
一時保留削除	削除機能により、価格がシステムから消去される可能性があることを示します。状況が「一時保留削除」の価格は、削除リクエストが承認されるまで現行（有効）のままとなります。一時保留削除の価格が承認されると、その価格は、「取消」に指定されます。
置換え	価格変更が有効となり、既存の価格が直接一時変更されると、当初価格は「置換え」に指定され、オーダー入力では使用されなくなります。

価格承認ワークフロー

価格承認処理が有効に設定されると、基本価格や調整スケジュールの変更を自動的に検出できます。価格変更が検出されると、ワークフロー処理により、承認または却下を行う担当者にメッセージが自動的に送信されます。

ユーザーが価格を作成または変更すると、その変更が承認処理のために送信されたことをそのユーザーに通知するメッセージが表示されます。新しい価格または変更価格は、指定されたすべての承認担当者によって承認されるまで、オーダーには反映されません。

次のフローチャートは、新規/変更価格が、ワークフロー処理によってどのように処理されるかを示しています。



価格承認のワークフロー

価格承認処理では、当初価格は新規価格または変更価格から切り離して扱われ、変更されません。そのため、変更価格が承認待ちの間、当初の価格を引き続き使用できます。

たとえば、次の販促期間で、ある品目の変更が必要な場合、「基本価格の改訂」または「価格調整明細の改訂」フォームで価格を変更できます。同じ価格を照会すると、当初の現行の基本価格と、新しい保留中の価格の2つの価格が存在します。

同じ有効期間に複数の価格が存在できます。「価格承認必須」を有効にした時点でシステム内に存在する価格は、自動的に承認されます。既存の価格の状況コードはすべて、ブランク、つまり「現行」の状況コードに設定されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

承認要求

変更を検討する承認担当者は、従業員待ち行列マネージャまたは価格のスピード承認(P450303)でメッセージを受け取ります。メッセージには、価格変更が承認待ちであることが示されています。

従業員待ち行列マネージャ

従業員待ち行列マネージャ内で変更を承認または却下するには、承認担当者は、「価格調整は変更されました」というメッセージをクリックし、次にワークフロー承認ボタンをクリックします。承認担当者がメッセージを承認または却下するためのフォームが表示されます。このフォームでは、承認担当者は承認や却下についての補足情報を監査用に追加できます。

承認担当者が価格を却下すると、待ち行列からメッセージがクリアされ、ワークフロー・アクティビティは完了となります。当初の価格情報がシステム内に保持され、変更が却下されたことを通知するメッセージが変更作成者に送信されます。承認担当者が価格を承認した場合は、新規価格でデータベースが更新され、以前の価格はクリアされます。

この時点で、ワークフロー・システムにより、価格が承認されたことを通知するメッセージが新規/変更価格の作成者に送信されます。

価格のスピード承認

価格のスピード承認とは、従業員待ち行列マネージャにかわるもう1つの承認方法で、合理的に承認処理を実行できます。複数の価格変更を一度に承認する必要がある場合に、価格のスピード承認プログラムを使用します。価格のスピード承認にアクセスすると、指定した承認者に対するすべてのメッセージが表示されるため、まとめてそれらのメッセージを承認または却下できます。したがって、価格変更が大量にある場合でも即座に承認できます。

価格のスピード承認プログラムへは、「上級操作」メニュー (G423114) からアクセスできます。「価格のスピード承認」フォームから、各価格変更を承認または却下できます。価格変更を承認または却下するには、グリッド・ローに承認状況を直接入力するか、または、1つ以上のグリッド・ローを強調表示にし、「ロー」メニューから「承認」または「却下」を選択します。

また、価格履歴や価格変更についての追加情報を「ロー」メニューから参照することもできます。さらに、処理オプションを設定して、プログラムの開始時に承認コードをロードすることもできます。

ワークフローの設定

価格承認処理は、「ワークフロー管理」の「グループの改訂」フォームで事前定義された配布リストに対してすべてのメッセージを送信するようにコード化されています。この配布リストは、価格変更の承認担当者の実際の人数が正しく含まれるように修正できます。

承認担当者を価格承認処理のカテゴリでグループ化して、配布リストを設定します。ワークフロー管理の配布リストの処理 (P02150) を使用して、親 (管理者など) を追加し、次に子 (その管理者の下で働く従業員など) をその親に追加します。

ワークフロー配布リストを作成する際は、次の点に注意してください。

- 配布リストに含めるすべてのメンバーが住所録に入力済であることを確認してください。また、配布リスト構造を設定する前に、配布リストの住所番号を住所録に設定する必要があります。
- 配布リストが設定される2つの構造について理解しておく必要があります。

下位レベルの受信者からメッセージに対する回答がない場合、メッセージの承認処理を一時変更できます。

次の条件が1つでも満たされている場合、「一時変更」オプションを使用できます。

- 承認者が住所録に定義されている。
- 承認者が、メッセージの受信者より上位レベルのグループのメンバーである。
- メッセージが未開封である。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

事前設定

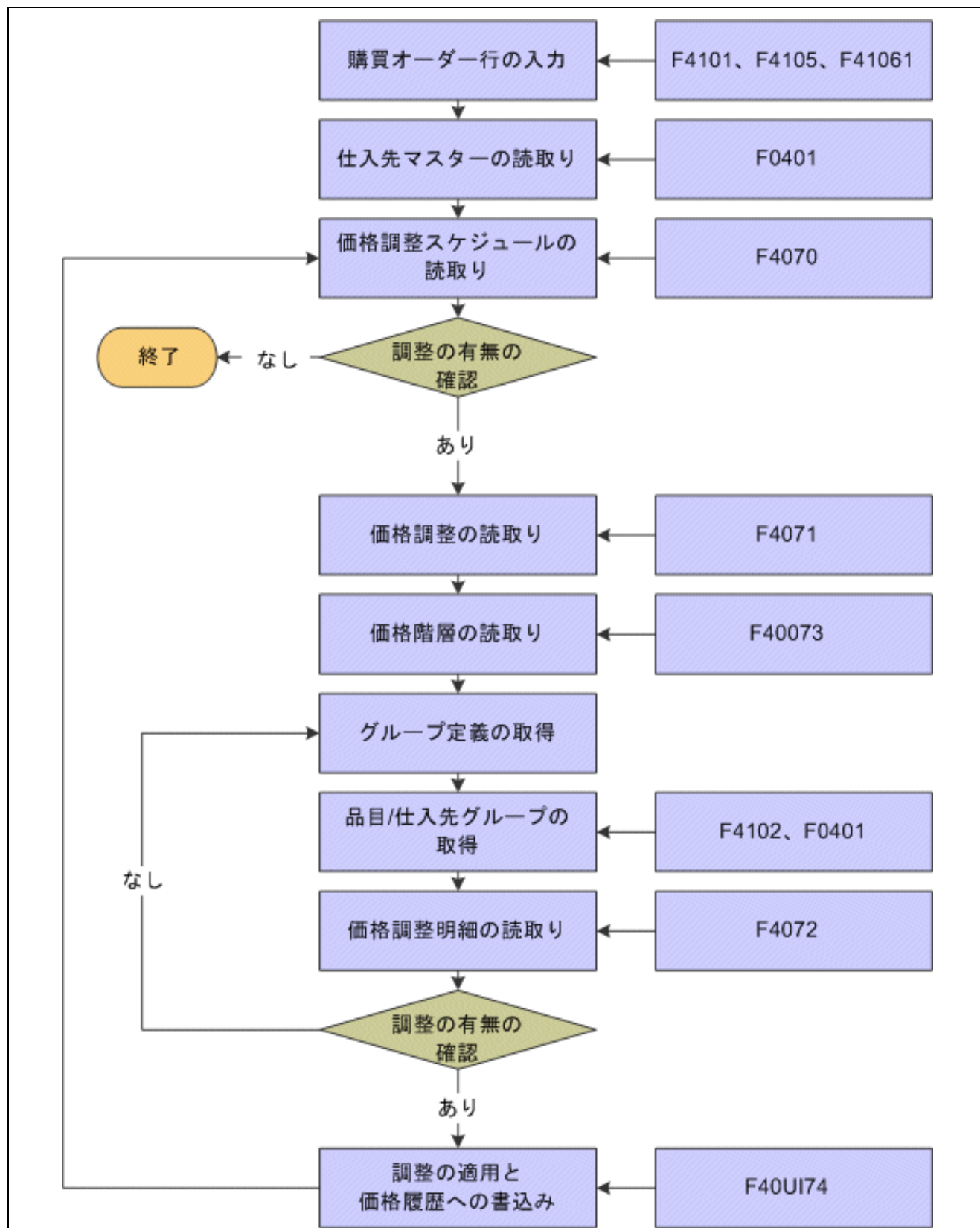
ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「価格管理固定情報」フォームで「価格承認必須 (Y/N)」オプションを有効にします。
- 価格承認変換プログラム (R45210) を実行し、すべての既存価格を有効にします。

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の価格設定について

購買オーダーを入力すると、事業所、仕入先、数量、品目、契約などの特性に基づいて、品目の単位原価が取得されます。購買オーダーに対して価格管理による価格調整が行われる前に、まず単位原価が取得されます。品目の購買価格レベルに応じて、仕入先/カタログ価格 (F41061) テーブルまたは品目原価 (F4105) テーブルのいずれかから単位原価が取得されます。単位原価の取得後、「調達価格管理を使用する」が有効になっているかどうかを確認されます。「調達価格管理を使用する」が有効になっている場合、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理で設定されている標準価格調整が無視され、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理の適用可能なスケジュールと調整が検索されます。

次のフローチャートは、購買オーダーの価格の計算方法を表しています。



価格管理と調達管理の統合のフローチャート

購買価格レベル

品目マスターの改訂プログラムに品目を入力する際は、購買価格レベルを入力する必要があります。この購買価格レベルにより、品目の基本価格の定義方法が決定されます。基本価格は購買オーダーの単位原価となります。購買価格を定義するレベルについて次の表に示します。

購買価格レベル	説明
仕入先/品目	仕入先の1つの品目に対して全般的に適用される価格を1つ定義します。仕入先原価はF41061テーブルから取得されます。
仕入先/品目/事業所	仕入先、品目、事業所の各組合せに対して異なる価格を設定します。仕入先原価はF41061テーブルから取得されます。
在庫原価	品目に指定した在庫原価レベルと購買原価計算方法に基づいて、原価を設定します。在庫原価はF4105テーブルから取得されます。仕入先の価格を設定していない場合は、在庫原価がデフォルトとして購買オーダーで使用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

在庫原価

次の品目原価の確定に使用する原価計算方法を指定します。

- 売上と売上原価
- 購買オーダー

たとえば、品目の売上原価は加重平均原価計算方法を使用して決定し、購買オーダーの品目単位原価は最終仕入原価計算方法に基づいて決定するように設定できます。

ユーザー定義コードを使用して原価計算方法を定義できます。ただし、01から19の原価計算方法はあらかじめシステムにより予約されています。事前定義された原価計算方法には、次の8種類があります。

- 最終原価法
- 加重移動平均法
- メモ
- 現行
- 将来
- ロット
- 標準
- 購買 - 基本原価追加なし

原価計算方法ごとに金額を入力して、品目原価を決定します。品目原価を検討する場合は、金額を入力した方式のみが表示されます。

入力する品目原価が販売、在庫、購買に割り当てる原価計算方法に基づかない場合は、警告メッセージが表示されます。警告メッセージを無視すると、その原価計算方法にはゼロ原価が割り当てられます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

仕入先価格

品目を購入する仕入先に基づいて、品目価格を設定できます。購買オーダーを入力すると、仕入先に対する品目の単位原価が取得されます。仕入先に基づいて購買オーダーの単位原価を取得するには、購買価格レベルを設定しておく必要があります。事業所レベルで仕入先価格を管理する場合、品目をカタログに追加する際に事業所を入力する必要があります。カタログの各品目に対して、異なる事業所を入力できます。

カタログとは、各品目とその価格をグループにまとめたものです。各カタログは仕入先に固有のものです。仕入先価格はカタログ別に入力する必要があります。仕入先から購入する品目のすべてを1つのカタログにまとめたり、季節要因による変動や製品ラインなどの条件別に仕入先品目を分類して、複数のカタログを作成することもできます。同じ品目で価格が異なる場合は、それぞれの価格の有効日付を設定して複数のカタログに入力できます。また、購買数量に基づいた数量別価格も指定できます。

カタログの名称を指定しないで仕入先の品目価格を入力すると、その仕入先のデフォルト・カタログが自動作成されます。仕入先に対して1つのカタログのみを設定する場合は、デフォルト・カタログを使用するのが便利です。購買オーダーに品目を入力すると、単位原価を取得するために仕入先のカタログが検索されます。まず、デフォルト・カタログが最初に検索され（存在する場合）、次にその他のカタログがアルファベット順に検索されます。単位原価が検索された後、有効日付が検証されます。現在日付が有効日付範囲内にある場合は、購買オーダーにその単位原価が入力されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

契約

JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムを使用する場合は、栽培契約で設定した詳細に基づいて価格を設定できます。

基本価格優先階層の検討

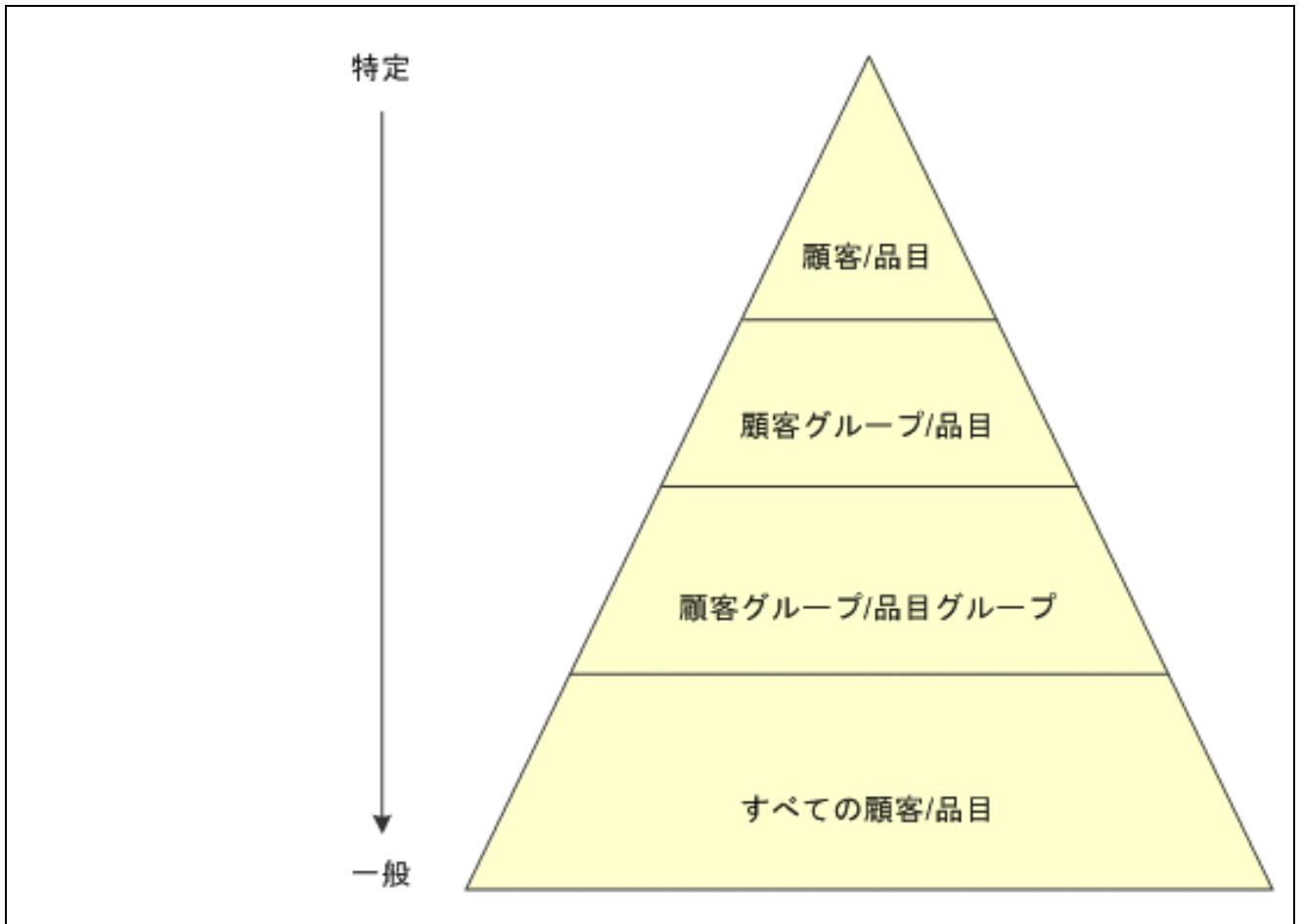
この項では、基本価格優先階層の概要とその検討方法について説明します。

基本価格優先階層について

基本価格の取得時には、基本価格レコードの検索順序を決定するために基本価格の優先タイプ(51)に設定した階層が使用されます。基本価格階層は、顧客、品目、顧客グループ、品目価格グループの組合せからなるマトリックスです。ローとカラムの交差部分を使って階層順序を決定します。

価格階層は、最も詳細なレベルから最も一般的なレベルまで設定する必要があります。

次の図は、最も詳細なレベルから最も一般的なレベルまでの価格優先階層を表しています。



最も詳細なレベルから最も一般的なレベルを表す基本価格優先階層

受注オーダーの入力時に、定義済の階層に基づいた組合せが検索されます。次に例を示します。

- 品目と顧客
- 品目と顧客グループ
- 品目グループと顧客
- 品目グループと顧客グループ
- 品目グループのみ
- 品目のみ

重要: 基本価格設定では、優先階層に最大14までの番号を入力できます。ただし、価格設定階層の数は、3または4に制限してください。この階層の数は、品目基本価格(F4106)テーブルの検索が行われる回数を表します。したがって、階層の数を増やすごとに処理にかかる時間が長くなります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「基本価格設定および標準価格設定の設定」

基本価格優先階層の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先階層の改訂	W40073D	<p>「価格管理」(G4222)、「優先階層」</p> <p>「優先階層の処理」フォームで基本価格の優先階層(タイプ51)を検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>基本価格設定階層(51)を定義するには、ローとカラムが交差するフィールドに連続した番号を入力して、「OK」ボタンをクリックします。</p>	優先階層の設定と改訂を行います。

基本価格の優先階層の検討

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先階層の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ: 51

基本価格

	品目 No.	品目 グループ
出荷先	顧客 No.	
	顧客グループ	
販売先	顧客 No.	
	顧客グループ	
親	顧客 No.	
	顧客グループ	
すべての顧客		

「優先階層の改訂」フォーム

基本価格の設定

この項では、基本価格の設定の概要、事前設定、および基本価格の設定方法について説明します。

基本価格の設定について

品目の価格は、国内通貨と必要な数のその他の通貨で設定できます。たとえば、1つの品目に対して米ドルとユーロで基本価格を設定することが可能です。

通貨コードと単位はいずれも、F4106テーブルのキーとなります。多通貨を使用している場合は、次の順序で価格検索が行われます。

- 顧客通貨およびユーザー指定単位
- 顧客通貨と品目の基本単位
- 国内通貨およびユーザー指定単位
- 国内通貨と品目の基本単位

一致する項目がない場合、処理は価格設定階層構造の次のレベルに進み、同じ順序で検索が行われます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 価格設定階層が定義されていることを確認します。

参照: 第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格優先階層の検討」、40ページ

- システム固定情報で販売価格基準日が設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」、「固定情報の設定」

基本価格の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先階層の選択	W40073F	「価格管理」(G4222)、「基本価格の改訂」 「優先基本価格の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	基本価格を設定する優先階層を指定します。(優先階層の選択肢は、基本価格優先階層の設定内容に基づいています。)
基本価格の改訂	W4106K	「優先階層の選択」フォームで優先階層を選択します。	基本価格の入力と改訂を行います。

基本価格の設定

「基本価格の改訂」フォームにアクセスします。

基本価格の改訂 - 基本価格の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

品目No. 230 Youth Sport Bike

価格調整

☐ 単価 ☒ パーセント ☐ 返品価格 ☐ 金額

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	事業所コード	保管場所	ロットNo.	単位	通貨コード	単位価格	有効開始日付	有効終了日付	返品価格
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	30	.		EA	USD	145.0000	1997/04/03	2010/12/31	
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	30	.		PL	USD	1,400.0000	1997/04/18	2010/12/31	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>									

「基本価格の改訂」フォーム

単価

「単価」カラムを更新する場合に選択します。「単価」カラムが更新されないようにするには、選択を解除します。

返品価格

JD Edwards EnterpriseOne受注管理のクレジット・オーダーを入力する場合に選択します。クレジット・オーダーを入力するには、F40205テーブルで符号反転フラグを「Y」に設定した行タイプを使用します。返品価格はすべてF4106テーブルに保存されます。

既存価格の有効化

この項では、既存価格を有効にする価格承認変換プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- ・ 価格承認変換プログラムの処理オプションの設定
- ・ 価格承認変換プログラムの実行

既存価格を有効にする価格承認変換プログラム(R45210)について

価格管理固定情報で「価格承認必須」オプションを選択した後、価格承認変換プログラム(R45210)を実行して既存の価格と調整を変換する必要があります。

価格承認変換プログラムを実行すると、選択したすべての価格の状況が「現行」に設定されます。まず、テスト・モードでレポートを実行して、変換される価格の数を確認します。次に、最終モードでレポートを実行して、実際に価格を変換します。すべての価格が変換されるように、データ選択はオフにしておきます。

重要: 価格を有効にするには、このプログラムを実行する必要があります。プログラムを実行しない場合、すべての既存価格が非アクティブとみなされ、有効になりません。

価格承認変換プログラム(R45210)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

处理

この処理オプションでは、価格承認の実行方法を指定できます。

テスト/最終モード

価格承認変換をテスト・モードで実行するか最終モードで実行するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

価格承認変換プログラム(R45210)の実行

価格承認変換プログラムを実行するには、バッチ・バージョンにアクセスし、「バッチ・アプリケーション」フィールドに「R45210」と入力します。

第 5 章

スケジュールと調整の使い方

この章では、スケジュールと調整の概要と次の方法について説明します。

- 価格管理階層の設定
- 調整定義の利用
- 調整スケジュールの作成
- 調整明細の設定
- 他通貨での新規価格調整の生成

スケジュールと調整について

調整とは、価格設定計画や販売促進についての一連の情報を示します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、調整を使用して、顧客に対して展開した販売促進をモニターできます。JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムと調達管理システムを使用する場合は、調整を使用して、仕入先によって提供される販売促進をモニターできます。

各調整について、調整定義を設定して調整明細を入力します。調整明細を使用して、無償品、価格設定の計算式、価格変動コードなどの特殊な処理を定義できます。価格設定階層では、調整明細にリストした調整の使用順序を定義します。

調整定義を作成した後、調整定義を調整スケジュールに添付できます。調整スケジュールには、価格の計算に使用される情報が含まれます。各調整スケジュールには、調整定義をいくつでも含めることができます。

次の情報を指定して、調整定義を作成します。

- 調整明細に含まれる調整の検索順序を制御する価格設定階層順序
- 調整を請求書に印刷するかどうか、価格設定をバスケット・レベルまたはオーダー・レベルのいずれで行うか、調整が数量、金額、重量に基づく一時変更価格であるかどうかなどを制御する調整制御
- AAI(自動仕訳)を使用して相殺される勘定科目

さらに、次の機能を使用するかどうかも指定できます。

- 価格マトリックス
- 品目の最低価格または最高価格
- 一時変更価格への調整の適用

価格マトリックスを使用するには、一時変更価格として使用される調整定義を作成します。また、調整定義で価格マトリックスを使用するように指定します。次に、価格設定の基準となるカテゴリ・コードを含むようにオーダー明細グループを設定します。価格マトリックスを使用するには、次の情報を指定します。

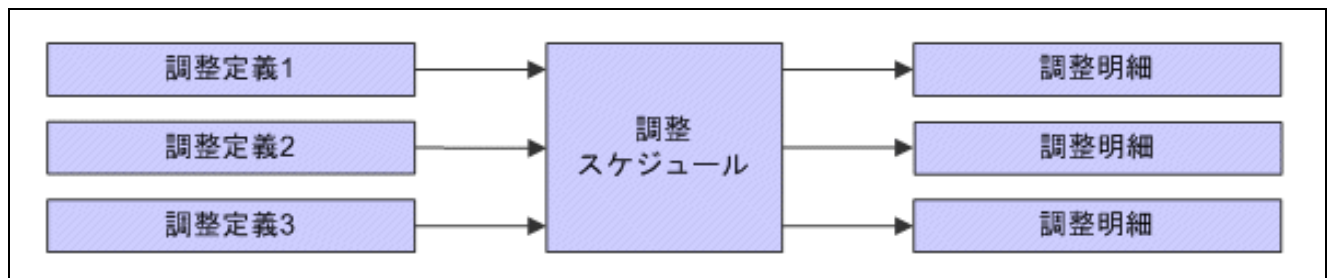
- 価格設定階層
- 価格一時変更
- オーダー明細グループ

最低価格または最高価格による価格調整を使用して、特定の品目、顧客、品目グループ、顧客グループまたはこれらの組合せに対する単価を調整できます。つまり、入荷価格が最低価格または最高価格の範囲内である場合には調整が適用されません。入荷価格が最低価格より低いか、最高価格より高い場合は、その品目の単価が調整されます。「価格履歴」フォームで、調整済金額の確認、調整の変更（この機能が有効になっている場合）、調整が最低価格による調整か最高価格による調整かどうかの確認を行うことができます。最低価格または最高価格による価格調整は、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理およびシップ・アンド・デビット機能で使用できます。

また、購買オーダーまたは受注オーダーの価格を手動で一時変更し、調整をオーダーに適用することもできます。この機能を行レベル調整で使用すると、新規価格が基本価格として価格履歴に保存され、見越額が累計されます。この機能は、バスケット・レベル、オーダー・レベルまたは販売高レベルの調整定義では使用できません。

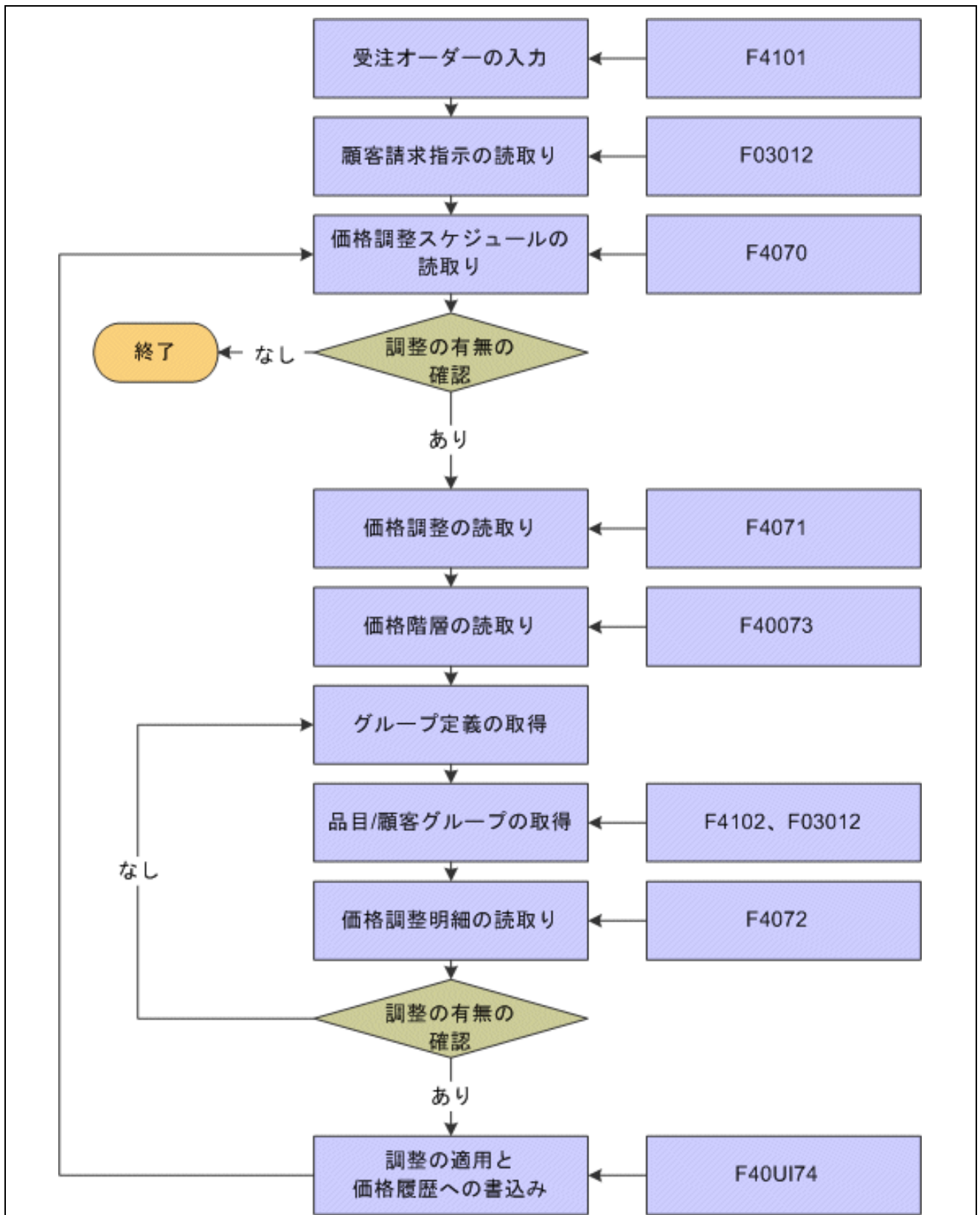
注意: 必須の価格設定に対する調整を定義できます。必須の調整は、受注オーダー、転送オーダーまたは直送オーダーの入力時に特定の品目に対して指定したり、追加料金や特別税を付加する場合に指定できます。調整スケジュールに、その顧客および品目の受注オーダーに定義されていない必須の調整定義が含まれている場合は、エラーが表示されます。オーダー明細行は処理されません。

次の図は、複数の調整からスケジュールを設定する方法を示しています。



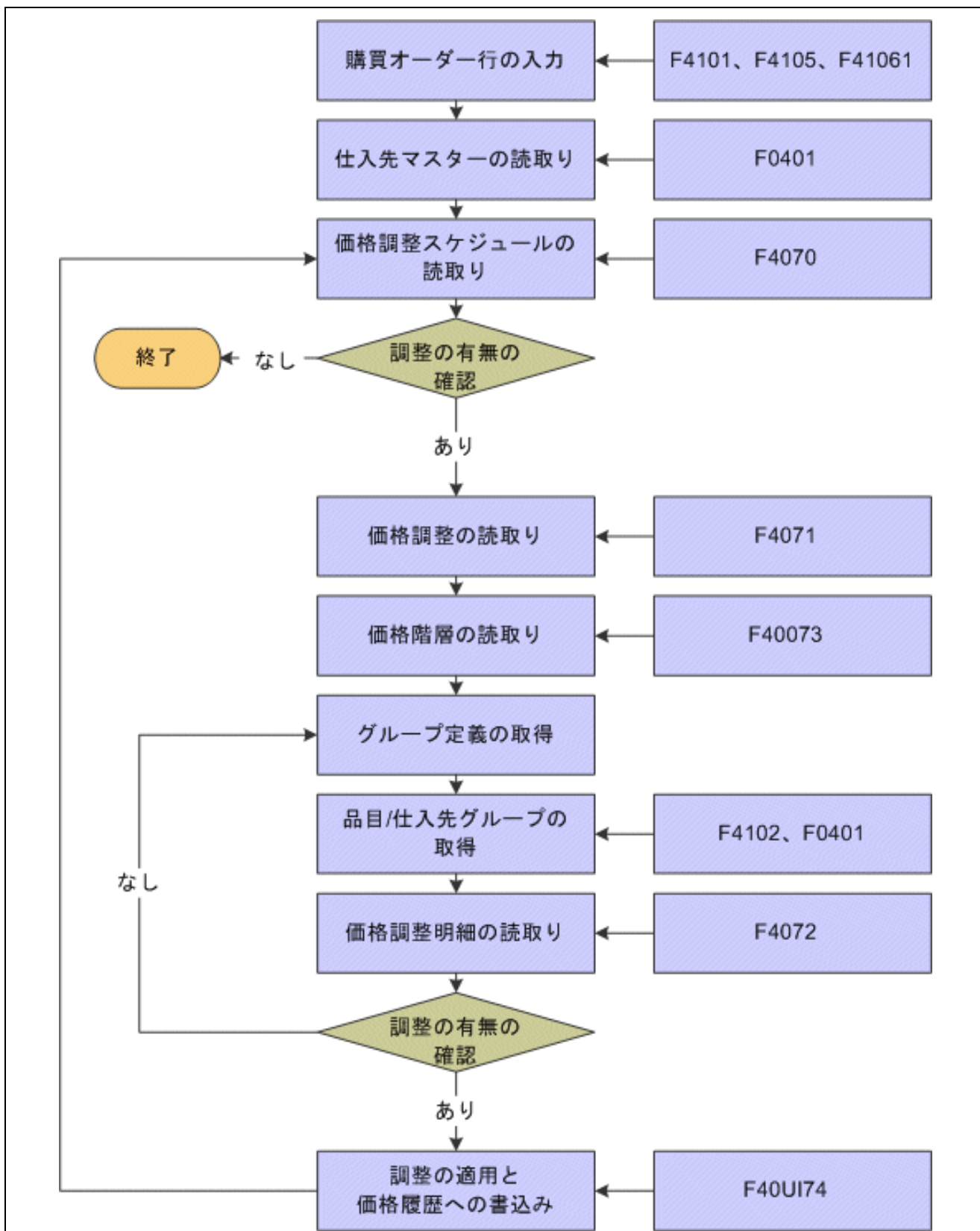
複数の調整からの調整スケジュールの設定

次の図は、受注オーダーの調整と調整スケジュールの使用方法を示しています。



価格管理と受注管理の統合のフローチャート

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムと調達管理システムにおける購買オーダー調整と調整スケジュールの使用方法を示しています。



価格管理と調達管理の統合のフローチャート

JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Managementの使用

栽培業者との契約は数年間または複数の栽培期間にわたることがあり、たとえば、ぶどうの購買契約と購買価格を長期間にわたって管理する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの次の機能は、JD Edwards Blend Managementシステムと連携させて使用できます。

- 調整明細レコードを更新するための価格マトリックス
- ぶどうの入荷時の最低価格設定または最高価格設定を更新するための、最低価格または最高価格による価格調整
- 入荷時の積荷(計量)処理終了時の価格再設定
- 品質試験に基づく価格設定
- 手動による契約価格の一時変更と調整の適用

価格マトリックスを使用するには、購買オーダーの契約価格の一時変更価格として使用される調整定義を作成します。また、調整定義で価格マトリックスを使用するように指定します。次に、契約価格の基準となるカテゴリ・コード(「栽培地区」、「種類」、「レベル」など)を含むようにオーダー明細グループを設定します。価格マトリックスを使用するには、次の情報を指定します。

- 価格設定階層
- 価格一時変更
- オーダー明細グループ(「栽培地区」または「種類」フィールドを含む場合があります)

また、最低価格または最高価格による価格調整を使用して、契約価格が最低または最高の基本価格として使用されるように指定したり、基本価格が最低価格以上か最高価格以下になるように制限できます。基本価格を契約からの価格かまたは有効な範囲内の価格のどちらかに制限するには、「価格調整の定義」フォームの「最小/最大規則」フィールドとともに、「最小調整」および「最大調整」オプションを使用します。調整スケジュールにおけるこの調整順序によって、調整スケジュールのその時点における価格も決定されます。たとえば、基本価格が別の価格調整で設定した最低価格よりも低い場合は、契約の最低価格が基本価格として使用されます。最高価格についても、基本価格が別の価格調整で設定した最高価格よりも高い場合は、契約の最高価格が基本価格として使用されます。最低または最高価格を検証する際には、この調整が入荷時の基本価格として使用されます。価格調整明細の「基準名」フィールドに、値「5」(追加金額)を入力する必要があります。最低および最高価格設定では、「基準名」フィールドにその他の値を入力することはできません。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを使用して、調達タスクを、JD Edwards Grower ManagementシステムとJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムとの間で統合できます。JD Edwards Grower Managementシステムで積荷(計量)処理を作成すると、購買オーダーが作成されます。購買オーダーにより、JD Edwards Grower Managementシステムの情報とJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの情報がリンクされ、調達の調整を価格設定に反映できます。同様に、積荷(計量)処理が終了すると、入荷が作成されます。入荷により、JD Edwards Grower Managementシステムの情報とJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの情報がリンクされ、入荷時調整を価格設定に反映できます。

入荷の作成時に、JD Edwards Grower Managementシステムの栽培収穫レコードの情報を使用して、価格が決定されます。収穫が変更されると、栽培収穫レコードが更新され、入荷の最新の価格設定情報が反映されます。JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムで、次の価格設定情報が検索されます。

- 価格一時変更
- 最低価格または最高価格による価格調整
- 価格レベル
- 購買単位
- 価格設定グループ

調整を作成して、ぶどうの出荷価格にペナルティまたはボーナスを適用できます。「種類」、「栽培地区」、「目標の品質」、「現行の品質」および「栽培地域」フィールドの情報などの追加情報を検索できます。栽培収穫レコードの値を使用してオーダー明細グループを設定することもできます。値が一致する場合、システムによって調整が決定されます。ただし、入荷時の価格は、購買オーダーの当初オーダー数量に基づきます。購買オーダーの「価格履歴」フォームで手動で変更または追加した調整はすべて、入荷レコードに保持されます。

注意: 契約収穫に添付した調整スケジュールは、購買オーダーと入荷の仕入先マスターのスケジュールよりも優先されます。

ぶどうの入荷時に実施する品質試験に基づいて、ぶどうの支払価格を設定できます。このタイプの調整定義を使用することにより、ぶどうの価格を値下げまたは値上げできます。たとえば、腐敗、ぶどう以外の品目、ブリックスなど、指定した品質試験の結果に基づいて、ぶどうの価格を設定できます。この機能は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理、調達管理および品質管理システムとともに使用します。品質レベル区切りタイプを含む入荷調整定義を作成し、その調整定義に試験結果名を割り当て、入荷の入力時に支払数量を調整するかどうかを選択します。価格調整明細を設定するときに、パーセント、計算式、または「基準名」フィールドと「係数」フィールドに基づく追加金額を使用して、調整を定義できます。追加金額は、支払数量調整を使用して数量を調整するために使用します。ただし、「価格調整の定義」フォームで「支払数量調整」オプションを選択した場合は、「基準名」フィールドには「5」（追加金額）または「7」（計算式）のみを入力できます。「入荷オーダー明細グループの定義」フォームで、調整の基準として「価格設定管理01」（Directed Harvest）フィールドまたは「価格設定管理02」（検査）フィールドのいずれを使用するかも選択します。JD Edwards Blend Managementシステムに積荷（計量）処理を入力するときに、この作業にあわせて実施する予定の品質試験を追加します。ぶどうの入荷後、品質試験を実施して、試験結果を工程に入力します。すべてのぶどうの入荷が完了してこの工程を終了すると、この調整定義を使用して入荷が作成され、価格が決定されます。「価格履歴」フォームを使用して、「支払数量」フィールドに指定されている取引単位の減少を確認します。このタイプの調整を定義する前に、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムがアクティブであり、Blend Managementの「品質管理セットアップ」メニュー（G31B41）で品質試験が設定されていることを確認する必要があります。このタイプの調整定義は、詳細優先情報とともに使用することはできず、価格一時変更として使用することもできません。

また、契約の価格を手動で一時変更し、積荷（計量）処理の終了時に調整を入荷に適用することもできます。この機能を使用すると、ぶどうの価格を調整してペナルティまたはボーナスを適用できます。この機能を使用するには、「価格管理固定情報」フォームで「基本価格変更時の調達価格調整」フィールドを選択しておく必要があります。調整定義を作成するときに、「行レベル調整」オプションと「一時変更価格の適用」オプションを選択します。新規価格が基本価格として価格履歴に保存され、見越額が累計されます。

参照: 第 6 章、「価格設定の使い方」、「価格マトリックスについて」、95 ページ

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用

購買オーダーの価格と入荷の価格を調整するようにシステムを設定できます。JD Edwards Grower ManagementシステムとJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムを使用する場合は、調達または入荷調整定義を使用して、農作物の価格が調整されます。また、入荷の手動入力時に入荷に適用する入荷調整定義を作成することもできます。

JD Edwards Grower Managementシステムで積荷（計量）処理を作成すると、購買オーダーが作成されます。購買オーダーにより、JD Edwards Grower Managementシステムの情報とJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの情報がリンクされ、調達の調整を価格設定に反映できます。同様に、積荷（計量）処理が終了すると、入荷が作成されます。入荷により、JD Edwards Grower Managementシステムの情報とJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの情報がリンクされ、入荷時調整を価格設定に反映できます。

購買オーダーと入荷の作成時に、JD Edwards Grower Managementシステムの栽培収穫レコードの情報を使用して、価格が決定されます。収穫が変更されると、栽培収穫レコードが更新され、入荷の最新の価格設定情報を設定できるようになります。JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムで、次の価格設定情報が検索されます。

- 価格一時変更
- 最低価格または最高価格による価格調整
- 価格レベル
- 購買単位
- 価格設定グループ

調整を作成して、農作物の基本価格にペナルティまたはボーナスを適用できます。栽培収穫レコードの値を使用してオーダー明細グループを設定することもできます。値が一致したときに調整が決定されます。ただし、入荷時の価格は、購買オーダーの当初オーダー数量に基づきます。購買オーダーの「価格履歴」フォームで手動で変更または追加した調整はすべて、入荷レコードに保持されます。

注意: 契約収穫に添付した調整スケジュールは、購買オーダーと入荷の仕入先マスターのスケジュールよりも優先されます。

入荷の入力時に価格を再設定するには、最初に、入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)の「処理」タブで「入荷時の価格計算」処理オプションを設定します。入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)を使用して入荷を入力すると、適切な入荷調整が適用され、入荷時の価格が調整されます。

品目の入荷時に実施する品質試験に基づいて、品目の支払価格を設定できます。このタイプの調整定義を使用することにより、指定した情報に基づいて価格を値下げまたは値上げできます。この機能は、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムとともに使用します。品質レベル区切りタイプを含む入荷調整定義を定義し、その調整定義に試験結果名を割り当てて、支払数量を調整するかどうかを選択します。価格調整明細を設定するときに、パーセント、計算式、または「基準名」フィールドと「係数」フィールドに基づく追加金額を使用して、調整を定義できます。ただし、「価格調整の定義」フォームで「支払数量調整」オプションを選択した場合は、「基準名」フィールドには「5」(追加金額)または「7」(計算式)のみを入力できます。「オーダー明細グループの定義」フォームで、調整の基準として「価格設定管理01」フィールドまたは「価格設定管理02」フィールドのいずれを使用するかも選択します。品目の入荷後、品質試験を実施して、試験結果を入荷に入力します。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで、この調整定義を使用して価格が決定されます。「価格履歴」フォームを使用して、「支払数量」フィールドに指定されている取引単位の減少を確認します。このタイプの調整を定義する前に、JD Edwards EnterpriseOne品質管理システムがアクティブであり、「品質管理セットアップ」メニュー(G3741)で品質試験が設定されていることを確認する必要があります。このタイプの調整定義は、詳細優先情報とともに使用することはできず、価格一時変更として使用することもできません。

また、購買オーダーの価格を手動で一時変更し、どの調整を適用するかを選択することもできます。この機能を使用するには、「価格管理固定情報」フォームで「基本価格変更時の調達価格調整」フィールドを選択しておく必要があります。調整定義を作成するときに、「行レベル調整」オプションと「一時変更価格の適用」オプションを選択します。新規価格が基本価格として価格履歴に保存され、見越額が累計されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 基本価格が設定されていることを確認します。

参照: 第 4 章、「基本価格設定の使い方」、「基本価格の設定」、42ページ

- 仕入先価格または在庫原価が設定されていることを確認します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先価格および割引規則について」

- JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Managementを使用する場合は、すべての契約がJD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムに設定済であることを確認します。契約の設定に最小値と最大値が含まれていることを確認します。
- 「価格管理固定情報」フォームの「調達価格管理を使用する」フィールドが選択されていることを確認します。また、農作物の入荷の価格を決定する場合は、JD Edwards Grower Managementシステムがアクティブになっていることを確認します。
- 入荷の入力時に価格を再設定するには、入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)の「処理」タブで「入荷時の価格計算」処理オプションを設定します。
- 購買オーダーの価格または入荷の価格を手動で一時変更し、適用する調整を選択するには、「価格管理固定情報」フォームの「基本価格変更時の調達価格調整」フィールドと「基本価格変更時の販売価格調整」フィールドを選択します。

価格管理階層の設定

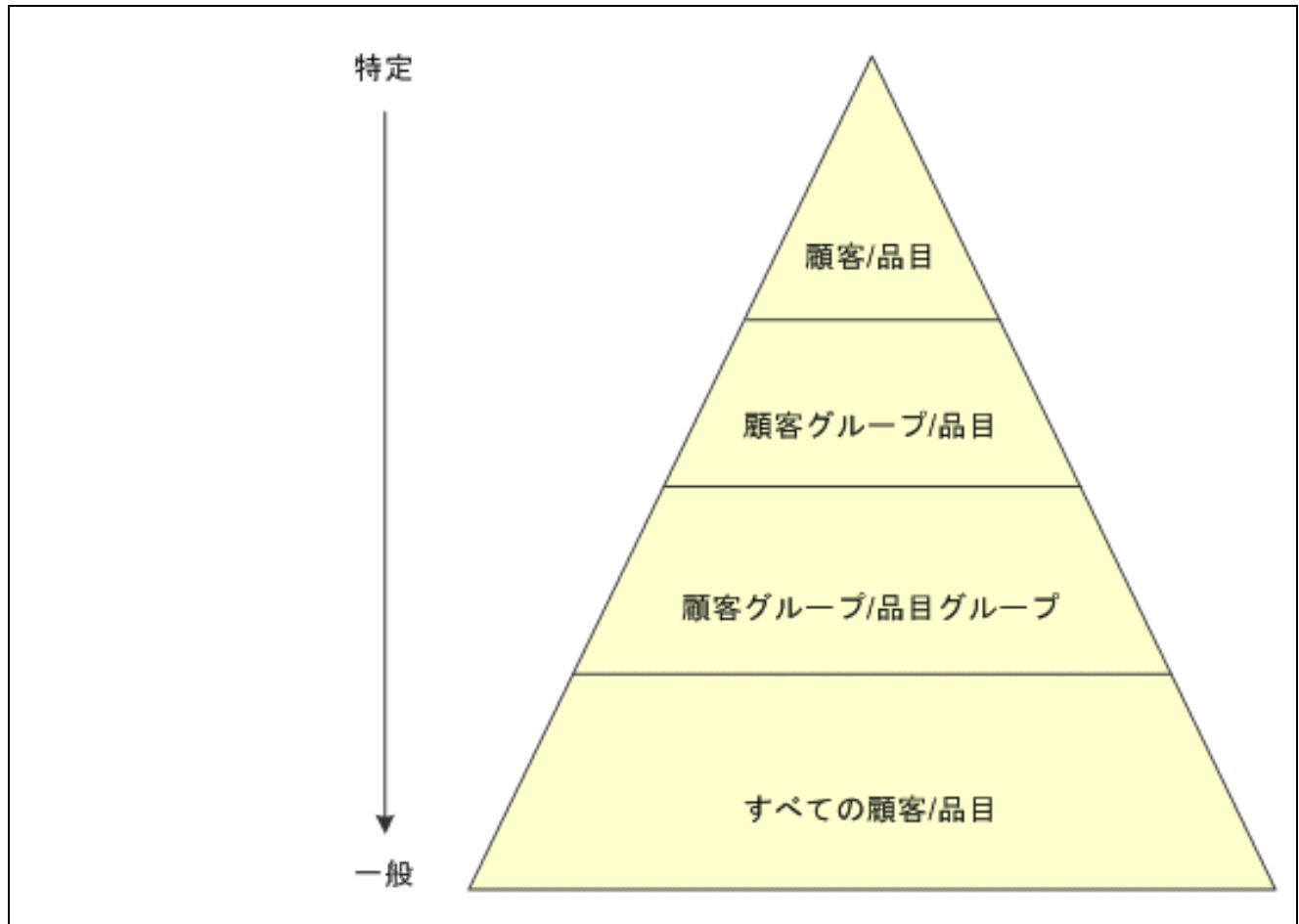
この項では、価格管理階層の概要と、次の方法について説明します。

- 優先マスターの設定
- 価格設定階層の定義

価格管理階層について

価格調整は、受注オーダーの価格に対して、価格設定階層に設定した順序で適用されます。システム内では、この価格設定構造を使用して、基本価格の取得、および価格の調整と更新の計算が行われます。このため、詳細な条件の組合せから一般的な条件の組合せの順で検索されるように、階層を設定します。

次の図は、一般的な顧客の価格設定階層を示しています。



顧客の価格設定階層の例

たとえば、季節的な販売促進のために、特定の品目を注文したすべての顧客が割引の対象となるような順序を定義できます。しかし、顧客の地域に基づいて若干の割引を行う場合は、最初に詳細な情報が検索されるように階層を設定します。この場合は、次のように順序を設定します。

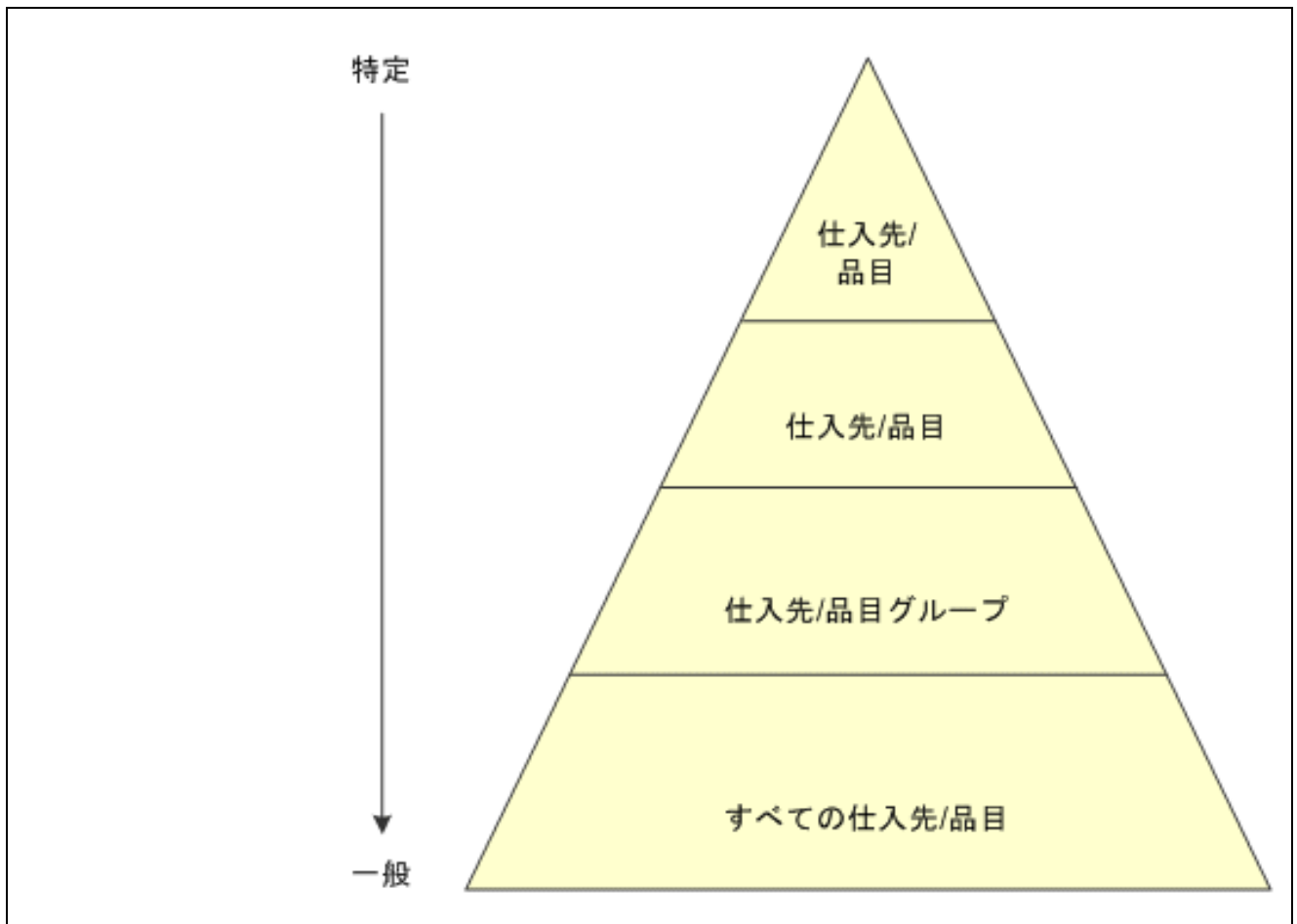
- 顧客グループと品目
- すべての顧客と品目

最低価格または最高価格による価格調整を使用する場合、価格設定階層の作成は必須ではありません。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用

価格調整は、購買オーダーの単位原価に対して、優先階層に基づいて適用されます。システム内では、この価格設定構造を使用して、単位原価の取得、および価格の調整と更新の計算が行われます。通常は、詳細な条件組合せから一般的な条件の組合せの順で検索されるように階層を設定します。

次の図は、仕入先の一般的な価格設定階層を示しています。



仕入先の価格設定階層の例

注意:「調達価格管理を使用する」固定情報を有効にした後、受注オーダーの調整を作成する場合と同じフォームおよび同じ方法で購買オーダーの調整を作成します。ただし、顧客フィールドと顧客グループ・フィールドの情報は、仕入先および仕入先グループの情報として処理されます。

購買オーダーの入力時に該当品目に対して特定の仕入先が最初に検索されるように、優先階層を設定できます。その仕入先と品目に対応する調整が見つかった場合は、自動的にその調整が単位原価に適用されます。調整が見つからなかった場合は、この特定の仕入先と、この品目が属する品目グループに対する価格調整が検索されます。購買オーダーの調整の優先階層の順序は、次のように設定できます。

- 仕入先と品目
- 仕入先と品目グループ
- すべての仕入先と品目

優先マスターの設定

価格設定階層を定義するには、「優先マスター」というマスター・レコードをその階層に対して作成する必要があります。基本価格設定では、1つの優先階層(51)しか使用できません。JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムでは、必要に応じて任意の数の異なる優先階層を作成できます。

階層を定義したら、その階層を調整定義に関連付けます。調整定義ごとに1つずつ階層を作成することも、1つの階層を複数の調整定義に対して使用することもできます。複数の調整定義に使用できる階層をいくつか設定することをお勧めします。

優先マスターを使用して階層のマスター・レコードを定義する場合、次のフィールドは価格設定では使用されません。

- 優先分類
- 順序No.
- 有効日付の使用
- 有効数量の使用

価格設定階層の定義

「優先階層の改訂」フォームを使用して、調整定義を適用する順序を指定します。このフォームには、顧客および顧客グループを示すローと、品目および品目グループを示すカラムがあります。各ローとカラムの交差するフィールドに番号を入力して、価格設定階層の順序を指定します。価格の検索は番号「1」を入力したフィールドから開始され、その顧客と品目の組合せに定義されているレコードが検索されます。その組合せで調整明細が見つからなかった場合は、階層の次の組合せ(順序「2」を入力した交差フィールド、順序「3」を入力した交差フィールド、...のように続く)が検索されます。

検索で最初に見つかった組合せが自動的に選択されます。このため、階層内で個別の価格設定方法をまず設定した後で、初めて一般的な価格設定方法にあわせて階層を定義することをお勧めします。

階層の順序は21まで入力できますが、3または4までとしておくことをお勧めします。番号の数だけ検索が行われるため、多くの番号を入力すると処理時間が長くなります。

注意: JD Edwards Blend Managementシステムでの価格設定で価格マトリックスを使用することを計画している場合は、調整定義がすべての品目とすべての仕入先に適用されるようにするために、すべての仕入先/すべての品目に対して価格設定階層を設定する必要があります。

価格管理の階層の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先マスターの改訂	W40070D	「価格管理」(G4222)、「優先階層」 「優先階層の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「優先階層の改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「マスターの改訂」を選択します。	優先マスター・レコードの設定と改訂を行います。
優先階層の改訂	W40073D	「優先階層の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	優先階層の定義と改訂を行います。 行と列が交差する各フィールドに「1」から順に番号を入力して、検索する順序を指定します。価格設定階層の定義では、番号を1から入力します。番号を飛ばして入力することはできません。

優先マスターの設定

「優先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先マスターの改訂

OK(O) 取消(L) ツール(T)

優先タイプ: 03

記述: Revenue Business Unit

優先分類: LG [ロジスティクス優先情報](#)

順序No.: 3

☒ 有効日付の使用

☐ 有効数量の使用

「優先マスターの改訂」フォーム

優先分類

優先プロファイル・フォームの優先情報をグループ化するために使用する分類コードまたはタイトルを入力します。

順序No.

ここに入力する順序で、ユーザーは有効な環境の表示順序を設定できます。

有効日付の使用

優先情報について、有効日付範囲のフィールドを表示するかどうかを指定するコードを入力します。優先情報に対して有効日付と有効数量を入力する場合、有効日付範囲を表示できます。

値は次のとおりです。

Y: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォームに有効日付フィールドが表示されます。

N: この優先情報について、有効日付フィールドは表示されません。

有効数量の使用

この優先情報について、数量の範囲を使用するかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: この優先情報について、優先プロファイルの改訂フォーム (P40300 と P40300EC) に「開始数量」フィールドと「終了数量」フィールドが表示されます。

N: 数量範囲フィールドは無効または非表示になります。

有効数量のフィールドは省略可能なフィールドで、優先レコードの設定前に無効にすることができます。ただし、優先レコードの設定後に無効にすることはできません。

有効数量を割り当てる場合は、有効日付を割り当てる必要があります。

価格設定階層の定義

「優先階層の改訂」フォームにアクセスします。

優先階層 - 優先階層の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

優先タイプ 51 基本価格

		品目 No.	品目 グループ
出荷先	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
販売先	顧客 No.	1 <input type="text"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	2 <input type="text"/>	3 <input type="text"/>
親	顧客 No.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	顧客グループ	<input type="text"/>	<input type="text"/>
すべての顧客		4 <input type="text"/>	<input type="text"/>

「優先階層の改訂」フォーム

調整定義の利用

この項では、調整定義の概要と次の方法について説明します。

- 調整制御の設定
- 調整定義の設定
- 請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示
- 価格調整の排他の指定

調整定義について

調整定義は、価格設定計画や販売促進などの特定の価格設定の状態を示すレコードです。調整の特性を指定して、調整定義を作成します。定義の特性によって、次のものが決定されます。

- 価格設定階層を使用して価格が検索される順序
- 調整が請求書に印刷されるかどうか
- 調整がバスケット・レベル、オーダー・レベルまたは行レベルの価格調整のいずれに適用されるか
- 調整で価格マトリックスを使用するかどうか
- 調整が数量、金額、品質または重量のいずれに基づいて行われるか
- 調整が一時変更価格に適用されるかどうか
- 価格管理の入力データをAAIに基づいて適切な勘定科目に仕訳するために使用する相手勘定
- 品目の支払に最低価格と最高価格を使用するか
- 調整が必須かどうか

注意: 必要な価格設定に対して、必須の調整定義を定義します。たとえば、必須の調整は、受注オーダー、転送オーダーまたは直送オーダーの入力時に特定の品目に対して指定したり、追加料金や特別税を付加する場合に指定できます。購買オーダーとともに契約を使用する場合も、調整が必須になります。

調整スケジュールに、その顧客および品目の受注オーダーに定義されていない必須の調整定義が含まれている場合は、エラーが表示されます。オーダー明細行は処理されません。エラー・メッセージが表示された場合は、オーダー明細の情報を確認してください。受注オーダー行の調整スケジュールへの関連付けを解除するか、またはその顧客をすべての調整に対して有効にするための情報を入力して必須の調整が適用されるようにします。

最低価格または最高価格を指定するかこれら両方を使用して価格範囲を指定する、最低価格または最高価格による価格調整を使用できます。最低価格または最高価格は、最小または最大規則と一緒に設定します。契約明細または調整明細を選択して、規則を設定します。購買契約に対して「最小/最大規則」フィールドが設定されている場合は、価格設定階層と価格調整明細を設定する必要はありません。トランザクションの処理中に、契約から最低価格または最高価格が取得されます。また、重量、数量または品質などのすべてのレベル区切りタイプを指定して、最低価格設定または最高価格設定を使用できます。最低価格または最高価格による価格調整で「調達管理」または「入荷」を選択した場合は、契約規則も選択する必要があります。次の機能では、最低価格または最高価格による価格調整は使用できません。

- リバート価格調整
- リバート見越し価格調整
- 請求書への印刷
- オーダー・レベル調整
- 仕入先販売証明リポート
- 丸め規則
- 部分数量への値引

また、購買オーダーまたは受注オーダーの価格を手動で一時変更し、どの調整を適用するかを選択することもできます。この機能を使用するには、「価格管理固定情報」フォームの「基本価格変更時の調達価格調整」フィールドと「基本価格変更時の販売価格調整」フィールドを選択しておく必要があります。調整定義の作成時に、「行レベル調整」オプションと「一時変更価格の適用」オプションを選択します。購買オーダーまたは受注オーダーの価格を手動で変更すると、次の処理が行われます。

- 以前の価格履歴情報がクリアされます。
- 新規価格が基本価格として価格履歴に保存されます。
- 「一時変更価格の適用」オプションが選択されている場合、調整が適用されます。
- 見越額が引き続き累計されます。

ただし、見積リリース、一括オーダー・リリースまたはクレジット・メモから購買オーダーまたは受注オーダーを作成する場合、またはオーダーをコピーする場合は、価格履歴が保持されます。また、見越しでないタイプの調整（「印刷しない」、「印刷する」、「丸め調整」）を選択すると、このタイプの調整によって手動で入力した単価が変更されることを示す警告が表示されます。この機能は、バスケット・レベル、オーダー・レベルまたは販売高レベルの調整では使用できません。

販売促進情報

販売促進情報を入力して、調整定義に関連付けることができます。価格/引当可能数量の照会プログラム(P4074)を使用して販促IDと記述がオンラインで自動的に表示されるようにするかどうか、および請求書印刷(R42565)、購買オーダー印刷(R43500)、ピッキング・リストの印刷(R42520)の各レポートで販売促進の記述が印刷されるようにするかどうかを指定できます。

価格調整の排他

受注オーダーまたは購買オーダーを使用するとき、顧客に対して、価格調整の対象となる販売促進が複数適用可能になる場合があります。このような場合、1つの調整を排他として指定すると、特定のオーダー明細行において、同じグループ内で他の調整を同時に適用することはできなくなります。たとえば、1つの品目について休日用の販売促進と食料品店用の販売促進の両方の対象となる顧客については、その品目に対して両方の販売促進の調整が同時に適用されるようにするか、またはいずれかの販売促進調整を排他に設定できます。この際、販売促進割引の排他を設定する、しないにかかわらず、見越し金額、税金、手数料の計算などの特定の内部調整は、行品目に対して有効のままとすることができます。

排他調整の重複の解決

オーダーを入力する際、1つの受注明細行に対して複数の排他調整が適用されている場合には、排他調整が重複して設定されていることを示す警告メッセージが表示されます。「ロー」メニューの「価格履歴」を選択すると、重複している排他調整を確認できます。排他調整の重複を解決しないと、受注オーダーまたは購買オーダーが受け入れられる前に、そのオーダーについて最終の警告メッセージが表示されます。

排他調整の重複の解決方法として、次の2つの方法のいずれかを選択します。

- 調整の取消

「価格履歴」フォームで、「ロー」メニューの「調整の取消し」を選択します。表示されるダイアログ・ボックスで、排他調整を取り消すか、または同じ排他調整グループ内の他の調整を取り消すことができます。

- 調整の承認

「価格履歴」フォームで、「ロー」メニューの「排他調整フラグの変更」を選択して、排他フラグの選択を解除します。これにより、調整の排他の設定が解除されます。

排他調整の重複を解決しないと、オーダーは保留になります。受注オーダー入力(P4210)の「オーダー保留」タブの「排他調整保留」処理オプションを使用して、保留コードを指定します。または、重複する調整がまだ有効である場合は、購買オーダー(P4310)の「処理」タブの「排他調整保留」処理オプションを使用します。保留オーダーのリリース(P43070)プログラムを使用して、保留オーダーをリリースします。

入荷入力時の価格再設定

調整を作成して、品目(農作物を含む)の価格にペナルティまたはボーナスを適用できます。入荷の手動入力時に入荷に適用する入荷調整定義を作成できます。入荷の入力時に価格を再設定するには、最初に、入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)の「処理」タブで「入荷時の価格計算」処理オプションを設定します。入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)を使用して入荷を入力すると、適切な入荷調整が適用され、入荷時の価格が調整されます。

次の機能では、入荷入力時の価格再設定を使用することはできません。

- 詳細優先情報
- 購買構造
- 請求書への印刷
- バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整
- 拡張バスケット

- 仕入先販売証明リポート
- オーダー・レベル/バスケット・レベル価格設定プログラム (R42750) による、調整前の既存レコードのクリア
- 価格承認
- 販促品
- 販売高アップセル
- 扱い高基準
- 無償品調整
- 無償品カタログ

調整定義の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	調整定義を適用する調整を指定し、調整制御を設定します。
価格調整の定義	W4071A	「調整名」フィールドに名前を入力し、「調整制御の修正」フォームで調整制御を選択します。「OK」ボタンをクリックします。	各調整定義の条件を指定します。 価格調整に関連する販売促進情報を入力します。

調整制御の設定

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

価格調整の定義 - 調整制御の修正

OK(O) 取消(L) ツール(T)

調整名

ターゲット・システム	調整制御コード
<input checked="" type="radio"/> 受注管理 <input type="radio"/> 調達管理 <input type="radio"/> サービス/ワランティ管理 <input type="radio"/> シップ・アンド・デビット <input type="radio"/> 受注管理/調達管理/サービス・ワランティ管理 <input type="radio"/> 入荷	<input type="radio"/> 印刷しない <input checked="" type="radio"/> 印刷する <input type="radio"/> 受注明細に追加する <input type="radio"/> 総勘定元帳に見越入力を作成する <input type="radio"/> リポート <input type="radio"/> 請求書への印刷 <input type="radio"/> 仕入先販売証明 <input type="radio"/> 丸め調整
調整レベル	価格マトリックス
<input checked="" type="radio"/> 行レベル調整 <input type="radio"/> バスケット・レベル調整 <input type="radio"/> オーダー・レベル調整 <input type="radio"/> 販売高レベル調整	<input type="checkbox"/> 価格マトリックス使用

「調整制御の修正」フォーム

ターゲット・システム

価格調整でサポートされているシステムを選択します。JD Edwards Blend Managementシステムの場合は、「調達管理」または「入荷」を選択します。値は次のとおりです。

- 受注管理
- 調達管理
- サービス/ワランティ管理
- シップ・アンド・デビット
- 受注管理/調達管理/サービス・ワランティ管理
- 入荷

調整制御コード

調整に対する追加の処理機能を指定する制御コードを選択します。値は次のとおりです。

- 印刷しない

調整金額は請求書または購買オーダーの印刷伝票に印刷されません。調整金額は単価に加算されます。

- 印刷する

調整金額は請求書または購買オーダーの印刷伝票に印刷されます。調整金額は単価に加算されます。

- 受注明細に追加する

受注オーダー明細テーブル(F4211)が調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー・レベルの調整でのみ使用します。

- 総勘定元帳に見越入力を作成する

見越調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、価格調整元帳テーブル(F4074)が更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

- リベート

リベート調整が作成されます。リベート取引集計テーブル(F4078)がオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。

- 請求書への印刷

調整金額が請求書に印刷されます。調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含められません。売上更新の際、この調整に対して個別の総勘定元帳および売掛金の仕訳が転記されます。

- 仕入先販売証明

仕入先販売証明リベート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、リベート取引集計テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

- 丸め調整

価格調整明細の改訂プログラム(P4072)で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。

調整レベル

どのレベルで価格調整を計算するかを指定します。値は次のとおりです。

- 行レベル調整

受注オーダー明細行の情報に基づいて調整が計算されます。契約管理システムを使用している場合は、契約ペナルティ・スケジュールを処理するために、行レベルを使用して受注オーダー明細行レベルでペナルティを計算する必要があります。

- バスケット・レベル調整

バスケット価格設定グループとして指定したすべての受注オーダー明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。バスケット価格再設定グループは、事業所品目プログラム(P41026)に含まれる「品目/事業所情報」フォームの「追加情報」タブで定義します。バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整を定義する場合は、品目グループとオーダー明細グループの各フィールドはブランクにしておきます。

- オーダー・レベル調整

オーダー価格設定グループとして指定したすべての受注オーダー明細行を累計した情報に基づいて、調整が計算されます。オーダー価格再設定グループは、事業所品目プログラムに含まれる「品目/事業所情報」フォームの「追加情報」タブで定義します。バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整を定義する場合は、「品目グループ」と「オーダー明細グループ」の各フィールドはブランクにしておきます。

- 販売高レベル調整

複数の受注オーダーの累計値に基づいて調整が計算されます。累計値は、価格調整タイプ・プログラム(P4071)で定義した調整方法に基づきます。

価格マトリックス

価格マトリックスを使用して価格調整を管理する場合に選択します。

調整定義の設定

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

「その1」タブをクリックします。

価格調整の定義 - 価格調整の定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整制御

調整コード: ADDPRICE 追加の価格検索単位:

ターゲット・システム: 受注管理

調整制御コード: 2 伝票に印刷する

☐ 価格マトリックス使用

調整レベル

☒ 行レベル調整

☐ バスケット・レベル調整

☐ オーダー・レベル調整

☐ 販売高レベル調整

その 1 その 2 品質結果

グループ

品目価格グループ:

顧客価格グループ:

オーダー明細グループ:

調整仕様

優先階層: PH 価格階層:

補助元帳タイプ: 相手勘定:

レベル区切りタイプ

☒ 数量レベル区切り

☐ 重量レベル区切り

☐ 金額レベル区切り

☐ 品質レベル区切り

分離調整のみ

☐ 売掛金割引から除外

調整オプション

☐ バスケット・マスターの使用

☐ 通過減の適用

☐ アップセル調整

☐ 基本価格変更(Y/N)

☐ 手動での追加変更

☐ 調整必須

☐ 絶対値の使用

☐ 一時変更価格の適用

「価格調整の定義」フォーム、「その1」タブ



レベル区切りタイプ	<p>次のいずれかのタイプを選択して、F4072テーブルにおけるレベル区切りの方法を指定します。</p> <p>「数量レベル区切り」を選択すると、受注オーダーで指定された数量に基づいて正確な調整値が決まります。単位別に調整区切りを設定できます。</p> <p>「重量レベル区切り」を選択すると、受注オーダー明細行の品目に割り当てられている重量に基づいて、適切な調整レベル区切りが決まります。</p> <p>「金額レベル区切り」を選択すると、受注オーダー明細行の合計金額に基づいて、適切な調整レベル区切りが決まります。通貨換算が有効になっている場合は、すべての金額レベルの区切りがその通貨コードの小数点形式で保存、表示されます。</p> <p>「品質レベル区切り」を選択すると、入荷行に関連付けられている品質試験の結果を使用して、調整レベル区切りが決定されます。</p>
アップセル調整	<p>受注オーダーの入力時に、調整をアップセル処理の対象とするかどうかを指定します。このチェックボックスを選択した場合、選択した調整階層に対して1つのエントリのみを指定できます。</p>
基本価格変更 (Y/N)	<p>基本価格を一時変更価格で上書きする場合に選択します。調整を使用して基本価格に対する割引や割増の計算を行う場合は選択を解除します。</p> <p>契約ペナルティ・スケジュールの場合は、このチェックボックスの選択を解除します。</p>
手作業での追加/変更	<p>調整タイプを手動で追加するか、または受注オーダーの入力時に価格調整フォームから変更するかどうかを指定します。</p>
調整必須	<p>調整を必須とするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: この調整は必須となります。</p> <p>N: この調整は任意となります。</p>
絶対値の使用	<p>このオプションを選択すると、適用されるレベル区切りの決定時にオーダー数量が正の数であるか、負の数であるかが無視されます。このオプションは、クレジット・オーダーのオーダー数量など、負の値に影響を及ぼします。このオプションの選択を解除すると、オーダー数量の負の値が受け入れられます（符号は無視されません）。たとえば、このオプションを選択して（オーダー数量が負の数かどうかは無視されます）、価格管理で次のレベル区切りを設定するとします。</p> <p>数量1から49 = 単価100 USD</p> <p>数量50から99 = 単価85 USD</p> <p>数量100 = 単価75 USD</p> <p>-200 EAのクレジット・オーダーを入力すると、レベル区切りの確認前に符号が無視されます。この例では、オーダー行に75 USDのレベル区切りが適用されます。</p>
一時変更価格の適用	<p>このオプションを選択すると、単価が手動で一時変更されているかどうかに関係なく、価格調整が適用されます。このオプションはすべての調整に対して選択できますが、単価の変更を伴う調整に対して選択した場合は警告が表示されます。</p>

その2

「その2」タブをクリックします。

価格調整の定義 - 価格調整の定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整制御

調整コード 追加の価格検索単位

ターゲット・システム 受注管理

調整制御コード 伝票に印刷する

☐ 価格マトリックス使用

調整レベル

- ☒ 行レベル調整
- ☐ バスケット・レベル調整
- ☐ オーダー・レベル調整
- ☐ 販売高レベル調整

その1 **その2** 品質結果

相互排他調整

排他調整グループ

☐ 排他調整

リポート受取先

リポート受取先

受取先住所

仕入先リポート・タイプ

レポート・コード

レポート・コード 1

レポート・コード 2

レポート・コード 3

レポート・コード 4

レポート・コード 5

レポート・コード 6

価格表

価格表グループ

☐ 価格表から除外

最小/最大

☒ なし ☐ 最小調整 ☐ 最大調整

最小/最大規則

「価格調整の定義」フォーム、「その2」タブ

排他調整グループ

ユーザー定義コード(45/AG)の値を入力し、調整定義を調整グループに関連付けます。排他調整オプションを選択して、同じ調整グループに属する調整を排他調整として定義できます。排他調整オプションを選択する際、1つのグループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

排他調整

指定した調整グループ内の1つの調整を排他調整に指定するかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、1つの調整グループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

レポート・コード1	ユーザー定義コード(45/P2)の値を入力し、6つのレポート・コードから価格調整定義に関連付けるコードを1つ指定します。このレポート・コードを使用して調整をグループ化します。
価格表から除外	価格調整を価格表プログラム(P45520)の処理対象から除外するかどうかを指定します。 選択: 価格調整を除外します。 選択解除: 価格調整を除外しません。
なし	この調整に最低および最高価格がないことを指定する場合に選択します。
最小調整	この調整に最低価格があることを指定する場合に選択します。
最大調整	この調整に最高価格があることを指定する場合に選択します。
最小/最大規則	最小/最大規則を入力します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 規則がない場合は、空白にします。• 購買契約の場合は、「1」を入力します。• 価格調整明細の場合は、「2」を入力します。

品質結果

「品質結果」タブをクリックします。

注意: このタブは、品質レベル区切りの調整定義に対してのみ有効になります。

価格調整の定義 - 価格調整の定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整制御

調整コード

BRIX

ブリックス調整

ターゲット・システム

6

入荷

調整制御コード

2

伝票に印刷する

☐ 価格マトリックス使用

調整レベル

☒ 行レベル調整

☐ バスケット・レベル調整

☐ オーダー・レベル調整

☐ 販売高レベル調整

その 1

その 2

品質結果

試験結果名

BRIX

Brix Test Result Name

☐ 支払数量調整

「価格調整の定義」フォーム、「品質結果」タブ

試験結果名	試験結果の名前を入力します。
支払数量調整	品質試験結果に基づいて品目の支払数量を調整する場合に選択します。

注意: このオプションを選択した場合、「調整制御の修正」フォームでは「印刷しない」または「印刷する」制御コードのみを選択できます。

請求書と購買オーダーについての販売促進情報の表示

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

関連項目:

第 11 章、「販促IDの使い方」、171 ページ

価格調整の排他の指定

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

排他調整グループ

ユーザー定義コード(45/AG)の値を入力し、調整定義を調整グループに関連付けます。排他調整オプションを選択して、その調整グループに属する調整を排他調整として定義できます。排他調整オプションを選択する際、1つのグループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

排他調整

指定した調整グループ内の1つの調整を排他調整に指定するかどうかを指定します。このチェックボックスを選択すると、1つの調整グループ内で複数の調整が適用された場合には警告メッセージが表示されます。

調整スケジュールの作成

この項では、調整スケジュールの概要と調整スケジュールの作成方法について説明します。

調整スケジュールについて

調整スケジュールには、顧客または品目に適用可能な調整定義が1つ以上含まれています。調整スケジュールは、調整定義と調整明細で構成されます。

顧客を調整スケジュールに割り当て、価格が自動的に計算されるようにします。調整スケジュールでは、調整定義を受注オーダーの価格に適用する順序を指定します。価格調整スケジュールへの顧客の割り当てには、顧客請求指示を使用します。受注オーダーを入力すると、販売先住所のスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。

各調整スケジュールには、調整定義をいくつでも含めることができます。調整定義の追加または既存の調整定義の変更は、いつでも行うことができます。調整スケジュールは、必要に応じてオーダー明細行レベルで上書きできます。

価格適用時に使用される調整定義の順序も設定できます。「スキップ先」フィールドを使用すると、調整定義がスキップまたは省略されます。各調整定義が順序に従って処理される際、次のいずれかの処理が実行されます。

- 適格な調整定義を適用し、「スキップ先」フィールドの値を処理し、該当する調整定義を省略して、「スキップ先」フィールドの番号の調整定義を処理します。
- 適格でない調整定義を省略し、「スキップ先」フィールドを無視し、次の調整定義の処理に進みます。

たとえば、次のように調整スケジュールが定義されているとします。

- 非主要製品の品目グループ割引調整(順序10)
- 主要製品の品目グループ割引調整(順序20)
- 価格変更調整(順序30)

非主要製品品目グループの割引調整行の「スキップ先」フィールドに30を入力すると、順序20にある主要製品品目グループの割引調整が省略されます。

また、調整定義に対して「最後までスキップ」フィールドを選択すると、後続のすべての調整定義が省略されます。

この処理は、排他調整を省略するときにも行います。「スキップ先」フィールドの機能を使用すると、価格計算時のパフォーマンスを向上させることができます。

注意:「スキップ先」フィールドの機能は、購買構造、直接価格調整、詳細優先情報には使用できません。

最低価格および最高価格による価格調整を行う場合、この価格調整をスケジュールの任意の場所に入力できます。入力した価格調整が検証され、設定した時点で単価が計算されます。

また、「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューで「新規基本価格の設定」を選択し、品目に新しい基本価格を作成できます。この機能は、調整スケジュールの中で1つの調整定義にのみ選択できます。「新規基本価格」が選択されたローだけでなく、スケジュールの調整定義がすべて計算され、新しい基本価格が決定されます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理およびBlend Managementを使用する場合の考慮事項

基本価格が、契約の最低価格および最高価格に対して検証されます。次の処理を行う必要があります。

- 最低価格または最高価格による価格調整の「最小/最大規則」を2(購買契約)に設定します。
- JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムで、契約に次のものが含まれていることを確認します。
 - 調整スケジュール
 - ぶどうの収穫レコード

品質試験結果に基づいてぶどうの価格を設定する場合は、品質に関する調整を含む調整スケジュールを契約に添付できます。これにより、契約価格を基本価格として使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理および調達管理を使用する場合の考慮事項

調整スケジュールを仕入先に割り当て、価格が自動的に計算されるようにします。調整スケジュールでは、調整定義が購買オーダーの価格に適用される順序を指定します。「仕入先マスターの改訂」フォームを使用して、調整スケジュールを仕入先に割り当てます。購買オーダーを入力すると、仕入先住所のスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。また、JD Edwards Grower, Pricing, and Paymentsシステムの購買契約に調整スケジュールを添付することによって、仕入先マスター内のスケジュールを上書きできます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne価格管理および調達管理を使用する場合は、各仕入先に対して調整スケジュールを1つのみ割り当てることができます。

調整スケジュールの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整スケジュールの改訂	W4070C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整スケジュールの改訂」 「調整スケジュールの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	調整スケジュールを作成します。
調整明細の処理	W4072B	「調整スケジュールの処理」フォームでレコードを検索して選択します。 「価格調整スケジュールの改訂」フォームで調整レコードを選択して、「ロー」メニューの「調整明細」を選択します。	調整スケジュールの各調整の調整明細または調整定義を改訂します。

調整スケジュールの作成

「価格調整スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

価格/調整スケジュールの改訂 - 価格調整スケジュールの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

価格調整スケジュール MFG 製造

住所No.

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

	順序No.	調整名	記述	スキップ先	最後までスキップ	新規基本価格	販促ID	販促名
<input type="checkbox"/>	10	SEASONAL	需要のシフトタイミング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	20	ROYALTY	製造ライセンス料の見越し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	30	ELECCMRC	EDIトランザクション値引	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	40	FREIGHT	重量別運賃	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>	50	BSKTREPC	バスケットレベル価格再設定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

「価格調整スケジュールの改訂」フォーム

価格調整スケジュール

調整スケジュールを識別するUDC 40/ASの値を入力します。調整スケジュールには、顧客または品目に適用可能な調整定義が1つ以上含まれています。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客を関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所のスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。

契約管理の場合、このフィールドは契約ペナルティ・スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ・スケジュールの情報によって、ペナルティの条件適用基準が決まります。

スキップ先

調整スケジュールの中で次に処理する既存の調整定義の順序番号を入力します。たとえば、適格な調整定義が適用され、このフィールドの値が処理されます。さらに、該当する調整定義が省略され、このフィールドに指定した番号の調整定義の処理に進みます。

注意: 「スキップ先」フィールドの機能は、購買構造、直接価格調整、詳細優先情報には使用できません。

最後までスキップ

選択すると、調整スケジュールの後続の調整定義がすべてスキップ(省略)されます。現在の調整定義が処理されると、このフィールドの値の番号に達するまで以降の調整定義は処理されません。

新規基本価格

この調整定義を新規基本価格として使用します。システムは、スケジュール内のすべての調整定義を順序に従って計算することによって新規基本価格を決定します。この場合、計算は「新規基本価格」を選択したローで終了します。

注意: このフィールドは、リベート、階層リベート、見越し、請求書への印刷、仕入先販売証明、丸め規則、詳細優先情報、販売高アップセルの機能では使用できません。

調整明細の設定

この項では、調整明細、売上調整の基準コード、購買オーダー調整の基準コードの概要と、調整明細の設定方法について説明します。

調整明細について

調整明細は、価格調整の計算に使用するパラメータです。価格管理の調整明細には、価格設定を柔軟に行うための基準コードが含まれています。調整定義を調整スケジュールに追加する際に、調整明細を定義できます。調整明細では、無償品、価格設定の計算式、価格変動コードなどの処理を定義できます。価格設定階層を使用して、調整明細に含まれる調整が適用される順序を定義します。調整明細を定義した後、価格マトリックスを作成して、複数の調整明細レコードを追加または変更できます。

調整が自動的に計算されるようにするには、基準コードを使用するすべての価格調整について、「価格調整明細の改訂」フォームの「基準名」、「係数」、「計算式コード」フィールドに値を入力する必要があります。価格設定の計算式を使用する場合、「価格計算式の改訂」フォームで計算式を作成できます。また、価格調整明細を検索および選択するフォームでは、調整明細レコードを基準に計算式を作成できます。別のテーブルのフィールドを基準に計算式を作成することもできます。

調整明細に基づいて最低価格および最高価格による価格調整を設定した場合、「価格調整明細の改訂」フォームで最低価格および最高価格の規則を設定します。特定の品目、顧客、品目グループ、顧客グループ、またはこれらの組合せに、この調整を設定できます。最低価格または最高価格による価格調整に対する「基準名」フィールドのデフォルト値は「5」(追加金額)です。他の基準コードは使用できません。「係数」フィールドに入力した値は、調整明細で定義した通貨で表示されます。調整明細で取引通貨と異なる通貨が設定されている場合、金額が換算されます。

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理とBlend Managementの使用

価格マトリックスを使用し、JD Edwards Blend Managementシステムで複数の調整明細レコードを処理して、ワインの価格設定を行うことができます。価格マトリックスの各フィールドに金額または計算式を表示できるようにするには、計算式(「基準名」フィールドの値「7」)または数値(「基準名」フィールドの値「5」)を使用して、調整明細を定義する必要があります。フィールドに基づく計算式を使用する場合は、「価格計算式の改訂」フォームにアクセスし、価格計算式マスター(F4076)の値のリストを表示するフォーム・エグジットを選択します。この機能は、入荷オーダー明細グループに基づく価格マトリックスを使用する場合に特に役立ちます。

関連項目:

第 9 章、「補足調整の使い方」、「無償品調整の作成」、125ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、135ページ

JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「販売価格情報の入力」

売上調整の基準コードについて

次の表は、売上調整の基準コード、係数、計算式コードの設定方法を示しています。

調整タイプ	設定情報
新規基本価格パーセント	<p>「新規基本価格」を選択した調整定義だけでなく、調整スケジュール内のすべての調整定義で新規基本価格が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「0」を入力します。 「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューから「新規基本価格の設定」を選択します。 <p>「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューから「新規基本価格の設定」を選択しないと、「基準名」フィールドに「1」と入力した場合と同様の方法で新規基本価格が計算されます。</p>
基本価格パーセント	<p>基本価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準コード」フィールドに「1」を入力します。 「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
現行正味価格パーセント	<p>現行正味価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「2」を入力します。 「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。

調整タイプ	設定情報
原価パーセント	<p>品目原価に係数が乗算されます。この組合せを計算するには、「価格調整明細の改訂」の「原価計算方法」フィールドで品目原価を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基準コード」フィールドに「3」を入力します。 ・「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
原価 + 金額	<p>品目原価に係数が加算されます。この計算を行うには、グリッドの「原価計算方法」カラムで品目原価を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基準名」フィールドに「4」を入力します。 ・「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。 ・「原価計算方法」フィールドに原価計算方法コードを入力します。
追加金額	<p>価格が係数で調整されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基準名」フィールドに「5」を入力します。 ・「係数」フィールドに、ペナルティ・パラメータに基づいてプラスまたはマイナスの数値を入力します。
追加変動金額	<p>調整金額は、F4075テーブルから取得されます。品目の価格が頻繁に(毎日のように)変動する場合は、変動価格を設定します。変動価格テーブルを使用して価格と有効日付を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基準名」フィールドに「6」を入力します。 ・「計算式コード」フィールドに、変動テーブルを示すコードまたは名前を入力します。 <p>調整明細行を選択して「ロー」メニューの「価格変動」を選択すると、「価格変動コードの処理」フォームにアクセスします。</p> <p>F4075テーブルの価格を基本価格として使用する場合は、このテーブルを関連付ける調整が一時変更調整に定義されていることを確認してください。これにより、他の価格はF4075テーブルの価格に一時変更されます。</p>

調整タイプ	設定情報
追加計算式金額	<p>計算式を使用して価格調整が計算されます。計算式の構成要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、価格設定固定情報のシステム設定時に定義します。計算式は、標準的な代数の記号を使用して実行されます。つまり、かっこ内の計算が最初に行われ、続いて乗算、除算、足し算、引き算が行われます。たとえば、90*&GOLDは、品目の調整価格が金の現行価格の90%であることを示しています。標準的な算術関数に加え、min (minimum)、max (maximum) およびaverage関数を使用して、計算式に追加のパラメータを入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「7」を入力します。 「計算式コード」フィールドに、計算式を示すコードまたは名前を入力します。 <p>計算式にフィールド名を返すには、テーブル・フィールドの記述フォームにアクセスしてF4211テーブルのフィールドを含めます。これにより、フィールド名が自動的に挿入されます。フィールド名の前には、システム固定情報で指定したフィールド名を示す文字が挿入されます。F4211テーブルのすべてのフィールドを計算式で使用することはできません。</p>
ユーザー・プログラム追加金額	<p>ユーザー定義のプログラムが呼び出され、価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「8」を入力します。 「計算式コード」フィールドに、カスタム・プログラムのプログラムIDを入力します。レベル区切りに指定する関数の名前は8文字以下にする必要があります。また、ビジネス関数名は調整明細で指定した名前と同じにする必要があります。 <p>注意: オラクル社では、カスタム・プログラムの提供とサポートは行っていません。</p>
粗利益	<p>粗利益に基づいて価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「9」を入力します。 「係数」フィールドに粗利益率を入力します。たとえば、価格を10%調整する場合は「10」と入力します。

購買オーダー調整の基準コードについて

次の表は、購買オーダー調整の基準コード、係数、計算式コードの設定方法を示しています。

調整タイプ	設定情報
新規基本価格パーセント	<p>「新規基本価格」を選択した調整定義だけでなく、調整スケジュール内のすべての調整定義で新規基本価格が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「0」を入力します。 「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューから「新規基本価格の設定」を選択します。 <p>「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「ロー」メニューから「新規基本価格の設定」を選択しないと、「基準名」フィールドに「1」と入力した場合と同様の方法で新規基本価格が計算されます。</p>
仕入先価格/在庫原価パーセント	<p>仕入先価格または在庫原価に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準コード」フィールドに「1」を入力します。 「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント	<p>現行正味価格に係数が乗算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「2」を入力します。 「係数」フィールドに、割増の場合はプラスの数値、割引の場合はマイナスの数値を入力します。
原価パーセント	<p>「基準コード」に「3」を入力すると、エラーが表示されます。購買オーダー調整の場合、基準コード1を使用して仕入先価格/原価パーセントを選択する必要があります。</p>
原価 + 金額	<p>「基準名」に「4」を入力すると、エラーが表示されます。購買オーダー調整の場合、基準コード「5」を使用して金額を単位原価に加算する必要があります。</p>
追加金額	<p>係数を使用して、仕入先価格または在庫原価が調整されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「5」を入力します。 「係数」フィールドに、ペナルティ・パラメータに基づいてプラスまたはマイナスの数値を入力します。

調整タイプ	設定情報
追加変動金額	<p>調整金額は、F4075テーブルから取得されます。品目の仕入先価格または在庫原価が頻繁に（毎日のように）変動する場合は、変動価格を設定します。変動価格テーブルを使用して価格と有効日付を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「6」を入力します。 計算式フィールドに、変動テーブルを示すコードまたは名前を入力します。 <p>調整明細行を選択し、「ロー」メニューの「価格変動」を選択すると、「価格変動コードの処理」フォームにアクセスします。</p> <p>F4075テーブルの単位原価を価格として使用する場合は、このテーブルを関連付ける調整が一時変更調整に定義されていることを確認してください。これにより、他の価格はF4075テーブルの価格に一時変更されます。</p>
追加計算式金額	<p>計算式を使用して価格調整が計算されます。計算式の各要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、価格設定固定情報のシステム設定時に定義します。計算式は、標準的な代数の記号を使用して実行されます。つまり、かっこ内の計算が最初に行われ、続いて乗算、除算、足し算、引き算が行われます。たとえば、90*&GOLDは、品目の調整価格が金の現行価格の90%であることを示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「7」を入力します。 「計算式コード」フィールドに、計算式を示すコードまたは名前を入力します。 <p>計算式にフィールド名を返すには、「テーブル・フィールドの記述」フォームにアクセスして、F4311テーブルまたはF43121テーブル（入荷調整の場合）のフィールドを含めます。これにより、フィールド名が自動的に挿入されます。フィールド名の前には、システム固定情報で指定したフィールド名を示す文字が挿入されます。これらのテーブルのすべてのフィールドを計算式で使用することはできません。</p>
ユーザー・プログラム追加金額	<p>ユーザー定義のプログラムが呼び出され、価格調整が計算されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基準名」フィールドに「8」を入力します。 「計算式コード」フィールドに、カスタム・プログラムのプログラムIDを入力します。 <p>注意: オラクル社では、カスタム・プログラムの提供とサポートは行っていません。</p>

注意: JD Edwards EnterpriseOne価格管理および調達管理を使用する場合は、顧客グループではなく仕入先グループ名を入力する必要があります。

調整明細の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
調整明細の処理	W4072B	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」 「調整明細の処理」フォームで、調整明細レコードを設定する価格調整のコードを入力して「検索」をクリックします。	調整明細を設定します。
価格調整明細の改訂	W4072A	「調整明細の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。 「優先階層の選択」フォームでレコードを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	調整明細を設定します。 「優先階層の選択」フォームで選択したレコードによって、「価格調整明細の改訂」フォームに表示されるフィールドが決まります。

調整明細の設定

「価格調整明細の改訂」フォームにアクセスします。

価格/調整詳細の改訂 - 価格調整明細の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

調整コード REGIONAL 地域総合

品目 No. 2410 Helmet

顧客価格グループ REGION 地域顧客

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	開始 レベル	しきい値 単位	係数	基準 コード	基準名	係数 単位	部分数量 値引	通貨 コード	有効開始 日付	有効 期限	原価計 算方法	計算式 コード	価 格
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1.0000 EA	4.0000-	2	現行正...		1	USD	2005/05/01	2005/08/31			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		1.0000 EA	3.0000-	2	現行正...		1	USD	2003/05/01	2003/08/31			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		100.0000 EA	10.0000-	2	現行正...		1	USD	2005/05/01	2005/08/31			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>													

「価格調整明細の改訂」フォーム

原価計算方法

品目原価を計算する際の基準を指定するユーザー定義コード(40/CM)の値を入力します。原価計算方法01から19までは、JD Edwards EnterpriseOne システム用として予約されています。基準コード3または4を使用する場合は、このフィールドに値を入力してください。

計算式コード

価格計算式を示すUDC(40/FM)の値を入力します。価格計算式はすべてF4076テーブルに保存されます。基準コード7を使用する場合は、このフィールドに値を入力してください。

異なる通貨を使用した価格調整の新規作成

この項では、異なる通貨を使用した価格調整の概要と次の方法について説明します。

- 上級価格調整プログラム(R407201)の処理オプションの設定
- 上級価格調整プログラム(R407201)の実行

異なる通貨を使用した価格調整について

上級価格調整プログラム(R407201)を実行すると、複数のレコードに対し、異なる通貨を使用して新しい価格調整を一度に作成できます。このプログラムでは、実際金額を使用する場合も使用しない場合も、既存のレコードに基いて、新しい価格調整が生成されます。

上級価格調整プログラムは、異なる通貨を使用して複数の価格調整レコードを作成する必要がある場合に特に役立ちます。たとえばこのプログラムは、価格調整レコードにない通貨を使用する顧客と取引する場合などに使用します。1つのレコードに対して新しい価格調整を作成する必要がある場合は、価格管理調整明細改訂フォームで既存のレコードを更新します。このプログラムを実行する必要はありません。

上級価格調整プログラムでは、次の処理が行われます。

- どの通貨を新しいレコードに使用するか混乱が起きないように、一度に1つの通貨について新しい価格調整が作成されます。
- 新しい価格調整レコードは、各単位に1つのみ作成されます。通貨ごとに1つの価格レコードが作成されるわけではありません。

たとえば、カナダ・ドル(CAD)建ての既存の価格に基づいて、新しい価格調整レコードを日本円(JPY)で生成するとします。既存のレコードにJPYの価格調整がある場合、同じキーを持つレコードが2つ存在することになるため、新しいJPYのレコードは生成されません。ただしこのルールは、レコードに関連付けられた各通貨コードの失効日付が異なる場合は当てはまりません。失効日付によっては、複数の価格調整レコードが新しく作成される場合があります。

- 新しい価格調整レコードは、既存レコードとともにアルファベット順に並べ替えられます。

実際金額を使用した価格調整

実際金額を使用した価格調整の場合、上級価格調整プログラムでは、次の処理が行われます。

- 元の価格調整レコードがコピーされます。
- 処理オプションで指定した通貨コードと為替レートに基づいて、新しい価格調整が計算されます。
- 新しい通貨と金額、またはそのいずれかを使用して、価格調整レコードが作成されます。

実際金額を持つレコードの価格調整(基準コードが4(原価 + 金額)または5(追加金額)など)を新規に作成できます。また、金額に基づくレベル区切りの価格調整を新規に作成することもできます。基準コードが7(計算式)の金額の価格調整を新しく作成することはできません。

たとえば、100 CADの価格調整に基準コード5(追加金額)が割り当てられている場合に、JPYで新しい価格調整を作成するとします。為替レートは1 CAD = 75.11881 JPYで、乗数法を使用してJPYへの換算が行われます。この場合、新しい価格調整値は75,119 JPY(100 CAD × 75.11881 JPY = 75,118.81)となります。

実際金額を使用しない価格調整

実際金額を使用しない価格調整の場合、上級価格調整プログラムでは、次の処理が行われます。

- 元の価格調整レコードがコピーされます。

- 元の係数が保持され、通貨コードが処理オプションで指定したコードに変更されます。
- 新しい通貨コードを使用して、新規の価格調整レコードが作成されます。

実際金額のない調整価格レコードの価格調整(基準コードが1(基本価格パーセント)など)を新しく作成できます。

たとえば、基本価格の90%の価格調整(通貨: CAD)に、基準コード1が割り当てられている場合に、JPYで新しい価格調整を作成するとします。この場合、新しい価格調整値はJPYで90%となります。実際金額を使用しない調整の場合、元の係数(.9)は保持され、通貨コードのみが変更されます。

上級価格調整のデータ選択

通常、新しい価格調整を作成するには、調整コードを使用します。この方法の他に、データ選択で他の値を使用する方法もあります。

上級価格調整プログラム(R407201)の処理オプションの設定

上級価格調整プログラムを実行する際は、次の処理オプションを使用して、新しい価格調整の作成に使用する通貨と為替レートを指定します。

処理

処理オプションはEnterpriseOneの導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

1. テスト/最終モード

この処理オプションを空白のままにすると、プログラムはテスト・モードで実行され、監査レポートのみが作成されます。監査レポートを検討して、生成されたレコードが正しいかを確認します。監査レポートが不正確な場合、処理オプションとデータ選択の値を変更した上でプログラムをテスト・モードで再実行してください。

「1」を入力すると、プログラムは最終モードで実行され、ファイルが更新されて監査レポートが作成されます。テスト・モードで作成した監査レポートが正しいければ、プログラムを最終モードで実行してください。監査レポートで新しい価格調整レコードを確認します。価格管理調整明細の改訂フォームで新しいレコードを確認することもできます。新しいレコードは、既存のレコードとともに、アルファベット順でフォームに表示されます。また、金額はデータ辞書に設定されている表示小数点以下桁数に従って丸められます。必要に応じて、価格管理調整明細の改訂フォームで新しいレコードを手動で調整してください。たとえば、50,000円(JPY)のレコードに対して675.1155カナダ・ドル(CAD)の価格調整レコードを新しく作成する場合、新しい価格を675 CADに変更できます。

2. 価格レコードを確定する日付

生成する価格レコードを決定するために使用する日付を入力します。価格の失効日がこの日付以降の場合、新しい価格レコードが作成されます。この日付を空白にすると、システム日付が使用されます。

通貨

処理オプションはEnterpriseOneの導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

1. 換算先通貨コード

換算先通貨コードを指定します。新規レコードの通貨コードです。

2. 換算元通貨コード

換算元通貨コードを指定します。通貨コードは、基本通貨コードまたは顧客通貨コードを示します。新しい価格調整の基本となる元の通貨コードです。

- 3. 為替レート** 為替レートを指定します。国内通貨の金額を計算するために、外貨の金額に乘算する数値(為替レート)です。このフィールドには最大で小数点以下7桁まで入力できます。これ以上の桁数を入力すると、最も近い小数点以下7桁の数値に調整されます。
- 4. 為替の計算** 為替レートで現行価格を乗算するには「1」を入力し、為替レートで現行価格を除算するにはblankにします。

上級価格調整プログラム(R407201)の実行

「定期処理」メニュー(G4231122)から、上級価格調整プログラムを選択します。

第 6 章

価格設定の使い方

この章では、価格設定の概要と、次の方法について説明します。

- 価格設定ワークベンチの使い方
- 顧客別価格表の使い方
- サーチ・エージェントの作成
- 価格マトリックスの使い方

価格設定について

良質な顧客サービスを提供するためには、価格表示と価格設定の操作を迅速に行う必要があります。価格管理システムで価格を設定すると、次の作業を行うことにより、価格の表示と管理が可能になります。

- 特定の品目グループの価格設定を表示するクエリーを作成する。
- 顧客別の価格表を作成する。
- すべての価格をパーセント単位で増加する(例: 15%)。
- 基本単位だけでなく、任意の単位で価格を検索する。
- 調整定義から価格マトリックスを作成する。

価格調整レコードの一括更新

価格設定ワークベンチ・プログラム(P45501)を使用して、レコードに対してクエリーを実行するフィルタを作成すると、複数の価格調整レコードを同時に管理および更新できます。また、既存のレコードを変更またはコピーして、新しいレコードを作成できます。

売上調整レコードは、「価格調整の一括改訂」フォームで、希望の改訂結果を得られるまで変更できます。各カラムの上の一時変更ローを使用して、詳細グリッドに表示されているすべてのレコードに新しい値を適用したり、他のパラメータを設定して計算方法を指定したりできます。たとえば、ビジュアル・アシストを使用して、カラムのすべてのレコードに適用する調整を選択したり、「一括更新エンジン」フォームで、金額、数量、容量、パーセントなどの情報を指定できます。

注意: 価格調整レコードの一括更新では、通過逓減や拡張バスケット調整は表示されません。

価格調整レコードは、価格調整詳細テーブル(F4072)に書き込まれます。

価格設定ワークベンチの使い方

この項では、価格設定ワークベンチの概要と次の方法について説明します。

- 価格設定検索クエリーの生成
- 価格設定検索クエリーの結果の表示
- 価格調整レコードの一括更新の実行

価格設定ワークベンチについて

価格設定ワークベンチ・プログラムを使用すると、価格設定に関する様々な情報を単一のフォームで表示できます。価格設定に関するすべてのシナリオと状況を特定できるため、価格設定構造の管理が簡素化され、顧客を照会する回数が削減されます。次の価格設定構造を対象とする検索クエリーを生成できます。

- 顧客
- 顧客グループ
- 品目
- 品目グループ
- 調整

表示する対象を決定したら、クエリーの新規作成、既存クエリーの詳細表示、既存クエリーの再生成、クエリーの削除を行うことができます。レコードに対するクエリーを作成したら、価格と調整にアクセスして調整を簡単に変更できます。また、価格構造の変更部分を迅速に検証することもできます。クエリー条件に応じて、次のプログラムとオプションが使用できます。

- 価格調整の定義 (P4071)
- 価格調整明細の改訂 (P4072)
- 価格調整の一括改訂 (P45550)
- カテゴリ・コードの改訂
- 未処理顧客グループ
- 未処理品目グループ

表示するレコード・タイプを指定するには、対象ユーザー定義コード (UDC 45/FO) を使用します。この値によって、詳細グリッドのカラムおよびローの形式と内容が特定され、解決処理の方法も特定されます。

価格設定ワークベンチの情報の処理には、次のテーブルが使用されます。

- 価格ワークベンチ・クエリー見出しテーブル (F4510)
- 価格構造ビュー・テーブル (F4511W)

価格設定検索クエリー

「コントロール・パネル」フォームで価格設定の検索クエリーを作成すると、既存の価格設定検索クエリーが同じパラメータを使用していないかどうかを確認されます。同じパラメータを使用している場合は、既存のクエリーを上書きするかどうかを確認するフォームが表示されます。処理待ち行列に価格設定検索クエリーがあると、エラー・メッセージが表示され、価格設定ワークベンチ解決ステップ・プログラム (R45502) は実行されません。待ち行列に価格設定検索クエリーがないか、または既存のクエリーを上書きする場合は、価格設定ワークベンチ解決ステップ・プログラムが実行され、価格設定検索クエリーが生成されます。

価格設定検索クエリが生成されている間、価格設定ワークベンチ・プログラムを使用して他の価格設定検索クエリを参照できます。クエリに関連するレコード数によって、価格設定検索クエリの生成には時間がかかる場合があります。

クエリ・レコードは、価格設定ワークベンチ・プログラムで表示できます。クエリの詳細は、クエリに指定した表示順序の値に基づいて表示されます。たとえば、「01」(顧客)のクエリを指定すると、顧客番号への明示的参照の詳細レコードのみを表示するか、顧客への暗示的参照の詳細レコードのみを表示するか、または両方のレコードを表示するかを選択するオプションが表示されます。「03」(顧客グループ)のクエリの場合は、これらのオプションは表示されません。有効日付に基づいてレコードをフィルタ処理するオプションは、すべてのクエリの詳細フォームに表示されます。

また、クエリの詳細フォームには、調整定義や調整明細などのすべての価格調整アプリケーションにアクセスできるロー・メニュー・オプションも表示されます。ロー・メニューで、調整レコードを変更および管理できます。

注意: 処理中のクエリを選択すると、そのクエリの有効な詳細レコードをすべて表示できない場合があります。

生成されたクエリの情報は、F4510テーブルに保存されます。詳細レコードは、クエリの作成時に生成されます。生成されたレコードは、F4511Wテーブルに保存されます。

対象フォームで、「フォーム」メニューの「再生成」を選択すると、生成済のクエリを再生成できます。クエリの再生成を行うと、クエリから情報が取得されて既存クエリが削除され、価格設定ワークベンチ解決ステップ・バッチ・プログラムによってクエリが再生成されます。再生成されたクエリを表示するには、「検索」ボタンをクリックします。クエリの生成が完了する前にクエリを再作成すると、エラーが発生します。

生成済の価格設定検索クエリは削除できます。価格設定検索クエリを削除する場合は、価格設定ワークベンチ・クエリ詳細の削除(R45503)プログラムにより、選択した価格設定検索クエリに一致する詳細レコードがすべて削除されます。

注意: 生成が完了していない価格設定検索クエリを削除すると、孤立レコードがF4511Wテーブルに残る場合があります。

価格設定ワークベンチの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格ワークベンチの処理	W45501K	「価格照会」(G423113)、 「価格設定ワークベンチ」	既存の価格設定ワークベンチ・クエリを検索して選択します。
コントロール・パネル	W45501A	「価格ワークベンチの処理」フォームで「追加」をクリックします。 「コントロール・パネル」で、顧客、顧客グループ、品目などの表示順序を指定します。 「フォーム」メニューの「クエリの生成」を選択します。	価格設定検索クエリを生成します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
対象	W45501D, W45501E, W45501F, W45501G, W45501I	<p>「価格ワークベンチの処理」フォームで、価格設定の検索クエリー・レコードを検索して選択します。</p> <p>選択した価格設定検索クエリーに応じて、異なるフォームが表示されます。たとえば、顧客(01)の価格設定検索クエリーを選択すると、「対象顧客」フォームが表示されます。また、品目(05)の価格設定検索クエリーを選択すると、「対象品目」フォームが表示されます。価格設定検索クエリーを選択すると、選択したクエリーに対応するフィールドが表示されます。</p> <p>価格設定検索クエリーを再生成するには、「価格ワークベンチの処理」フォームで既存の価格設定検索クエリーを検索して、「ロー」メニューの「クエリーの再生成」を選択します。</p> <p>価格設定クエリーを再生成するには、対象フォームで価格設定検索クエリーを選択し、「フォーム」メニューの「再生成」を選択します。</p>	<p>価格設定検索クエリーの結果を表示します。</p> <p>価格設定検索クエリーを再生成します。</p>
価格調整の一括改訂	W45550A	<p>対象フォームで、「フォーム」メニューの「一括管理」を選択します。</p> <p>または、「上級操作」(G423114)メニューから「一括管理」を選択します。</p> <p>「価格調整の一括改訂」フォームで、サーチ・エジェントを検索し、「グリッドのみ更新」をクリックして「OK」をクリックします。</p>	価格調整レコードの一括更新を実行します。

価格設定検索クエリーの生成

「コントロール・パネル」フォームにアクセスします。

「コントロール・パネル」フォーム

表示順序

ユーザー定義コード(45/FO)から、価格設定ワークベンチに表示する価格設定レコードを選択します。

顧客別または顧客グループ別に価格設定レコードを表示できます。「表示順序」フィールドで指定した値に応じて、異なるフィールドが表示されます。このフィールドを終了すると、表示内容はリフレッシュされます。

住所番号

「表示順序」フィールドで01(顧客)を指定した場合は、このフィールドに住所番号を入力します。

顧客価格グループ

「表示順序」フィールドで03(顧客グループ)を指定した場合は、このフィールドに顧客価格グループを入力します。

品目番号

「表示順序」フィールドで05(品目)を指定した場合は、このフィールドに品目を入力します。

品目価格グループ

「表示順序」フィールドで06(品目グループ)を指定した場合は、このフィールドに品目価格グループを入力します。

価格調整コード

「表示順序」フィールドで08(調整詳細)を指定した場合は、このフィールドに価格調整コードを入力します。

会社

このフィールドには、会社を入力します。入力した会社の顧客カテゴリ・コードに基づいて、顧客グループ別に照合が行われます。ブランクにすると、会社00000がデフォルトの会社として使用されます。業種別処理が有効になっている場合は、顧客に対して会社ごとに異なるカテゴリ・コードを使用できます。

事業所コード

事業所を入力します。入力した事業所の品目カテゴリ・コードに基づいて、品目グループ別に照合が行われます。ブランクにすると、すべての事業所が検索されます。この検索では、クエリーの処理に非常に長い時間がかかる可能性があります(特に、品目グループのクエリーの場合)。このため、事業所を入力してください。事業所品目レコードごとに、異なるカテゴリ・コードを使用できます。

注意:「会社」フィールドと「事業所コード」フィールドは、品目グループまたは顧客グループの照合時に使用するカテゴリ・コードを特定する場合にのみ使用します。これらのフィールドでは、結果はフィルタされません。

価格設定検索クエリーの結果の表示

確認する価格設定検索クエリーに関連する対象フォームにアクセスします。

基準日

価格設定の有効性チェックに使用する日付を入力します。デフォルトは現在のシステム日付ですが、将来または過去の日付も入力できます。

顧客への明示的参照

顧客(01)または品目(05)の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。このオプションを選択すると、「住所番号」フィールドに顧客番号があるレコードのみを表示できます。

顧客/グループ/全顧客による暗示的参照

顧客(01)または品目(05)の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。このオプションを選択すると、「住所番号」フィールドに顧客番号がないレコードを含め、すべてのレコードを表示できます。表示結果には、顧客グループに設定した詳細レコード(顧客グループのカテゴリ・コードに一致するため、顧客に対して有効になるレコードなど)と、すべての顧客に設定した詳細レコードが含まれます。

両方

顧客(01)または品目(05)の価格設定検索クエリーを使用する場合に選択します。顧客への明示的参照のレコードは色付きで表示されます。

階層レベル

調整 (08) クエリーを使用する場合、このオプション・フィールドに階層レベルを入力します。

価格調整レコードの一括更新の実行

「価格調整の一括改訂」フォームにアクセスします。

価格設定ワークベンチ - 価格調整の一括改訂										
OK(O) 検索(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)										
<div> <div>グリッドのみ更新</div> <div>リフレッシュ</div> </div> <div> <div>検索エージェント名</div> <div>テーブル名</div> </div> <div> <div>レコードの更新</div> <div>レコードのコピー</div> </div>										
レコード 1 - 94 グリッドのカスタマイズ										
	調整コード	略式品目No.	第2品目No.	第3品目No.	住所番号	単位	通貨コード	有効開始日付	有効期限	基準コード
<input checked="" type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	CAD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	CAD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	EUR	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		PL	EUR	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	GBP	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	GBP	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		PL	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BPRMO	60054	222	222		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1

「価格調整の一括改訂」フォーム

開始数量更新タイプ

F4072テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は次のとおりです。

A: 追加金額

\$: 一時變更金額

%: パーセント

計算式コード	価格計算式を示すUDC (40/FM) の値を入力します。価格計算式はすべて F4076 テーブルに保存されます。
係数値更新タイプ	<p>F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 追加金額</p> <p>\$: 一時変更金額</p> <p>%: パーセント</p>
無償品	価格調整が無償品情報に関連している場合は、「Y」が表示されます。「価格調整明細の改訂」フォームの任意フィールドが反転表示され、そのレコードが無償品情報に関連していることが示されます。
オーダー明細	受注明細グループを示すUDC (40/SD) の値を入力します。受注明細グループを使用して、F4211 テーブルのフィールドに基づく価格設定を作成します。
部分数量への値引	<p>端数部分 (数量、重量、金額) に対して割引を適用するかどうかを指定します。このオプションは、係数単位を指定した場合にのみ使用できます。たとえば、2 ダース以上のオーダーに対して割引が適用される場合に、このオプションを有効にすると、2 ダース (24) 以上のオーダーすべてに対して調整が適用されます。このオプションをブランクにすると、端数数量に対しては割引は適用されません。たとえば、30 個オーダーした場合でも、割引が適用されるのは 24 個に対してのみです。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 端数部分に対して割引を適用しません。</p> <p>1: 端数部分に対して割引を適用します。この値がデフォルト値です。</p>
バスケット親ID	例外価格設定のバスケット・レコードと標準のバスケット調整を関連付けるコードを入力します。
金額の一時変更	<p>F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 追加金額</p> <p>\$: 一時変更金額</p> <p>%: パーセント</p>
パーセントの追加	<p>F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 追加金額</p> <p>\$: 一時変更金額</p> <p>%: パーセント</p>
追加金額	<p>F4072 テーブルの価格に適用される一括更新のタイプを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>A: 追加金額</p> <p>\$: 一時変更金額</p> <p>%: パーセント</p>
係数	オーダー行の調整方法を指定します。このフィールドの値は、「基準コード」フィールドの値と連動します。「基準コード」フィールドの定義内容によって、このフィールドに数字またはコードのどちらを入力するかが決まります。

基準コード別の入力方法は、次のとおりです。

1から5: 割増の場合はプラスの数値を入力します。たとえば、「10」と入力します。割引の場合は、マイナスの数値を入力します。たとえば、「10-」と入力します。

6: 「計算式コード」カラムに変動テーブルを示すコードを入力します。

7: 「計算式コード」カラムに計算式を示すコードを入力します。

8: カスタム・プログラムを使用して調整を計算します。「計算式コード」カラムにプログラムIDを入力します。

価格マトリックス・レコードのコピー

「一括更新エンジン」フォームにアクセスします。

現行の調整/新規調整 現行の調整を変更するか、新しい調整を作成するかを選択します。

金額の一時変更、パーセントの追加、追加金額 価格調整明細テーブル (F4072) の価格に適用される一括更新のタイプを選択します。

顧客別価格表の使い方

この項では、顧客別価格表の概要と次の方法について説明します。

- 顧客別価格表および価格表構造の作成
- 調整用の価格表グループの指定
- カラム・パターンを使用した価格表の調整のグループ化

顧客別価格表について

価格管理情報に基づいて顧客別価格表の作成と管理を行い、それらを顧客に転送できます。顧客別価格表には、基本価格、有効期間内の品目別の正味価格、販売促進、取引、その他の適用済の調整が表示されます。調整がある場合は、スケジュールによる調整と直接価格調整の両方が価格表での計算に組み込まれます。

顧客別価格表の処理では、次のテーブルが使用されます。

- 価格表見出しテーブル (F45520)
- 価格表明細テーブル (F45521)
- 価格表レベル区切りパターン・テーブル (F45522)
- 価格表カラム・グループ・パターン・テーブル (F45523)
- 価格表品目選択テーブル (F45524)
- 価格調整履歴ワークファイル・テーブル (F40UI74)

価格表

日付、品目、顧客などの条件に基づいて、同じ顧客に対して異なる価格表を作成できます。たとえば、1つの品目と顧客の価格表を、事業所保管場所や日付別に作成できます。価格表を作成する場合は、デフォルトの数量レベル区切りと単位を指定する必要があります。

価格表グループ

価格調整を割引、販売促進、税、運賃などのカテゴリにグループ化できます。価格表を作成する場合は、デフォルトの数量レベル区切りと単位を指定する必要があります。価格表を印刷または表示する場合に、調整をグループ化するためのカラム・パターンを指定したり、選択したグループ別に調整金額を合計するかどうかを指定できます。調整は、最大5つのカラムでグループ化と表示が可能です。

価格表の生成

価格表の価格を生成すると、価格表の生成プログラム (R45522) が実行され、価格表構造の各レコードがロードされて、価格が生成されます。F40UI74テーブルの調整情報を使用して、価格カラムに価格がロードされ、F45521テーブルに価格調整ローが個別に作成されます。価格を生成できるのは、構造レコードの作成後で、価格表の生成プログラムが最終モードで実行されていない場合のみです。

注意: 価格表の価格は、手動で変更することはできません。

「通貨コード」フィールドがブランクの場合、価格表は作成されません。

価格表の印刷

価格表を印刷すると、価格表の印刷プログラム (R45524) が実行されます。カラム・パターンを指定すると、レポートにカラムが表示されます。カラム・パターンを指定しない場合は、レポートの調整金額の合計カラムにすべての調整の合計が表示されます。

顧客別価格表の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格表の処理	W45520A	「上級操作」(G423114)、 「顧客別価格表」	顧客別価格表および価格表構造を作成します。
価格表明細	W45520B	「価格表の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックするか、レコードを選択して「選択」ボタンをクリックします。 価格表を生成するには、「フォーム」メニューの「価格の生成」を選択します。 価格表を印刷するには、「フォーム」メニューの「価格表の印刷」を選択します。	顧客別価格表を改訂します。 価格表を生成します。 価格表を印刷します。
品目の選択	W45520D	「価格表明細」フォームで、「フォーム」メニューの「品目の選択」を選択します。	価格表に含める品目を指定します。
レベル区切りパターン	W45520C	「価格表明細」フォームで、「フォーム」メニューの「デフォルト・レベル区切り」を選択します。 または、「価格表明細」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「品目レベル区切り」を選択します。	デフォルトの数量レベル区切りと単位を入力するか、または品目固有のレベル区切りを入力します。
価格調整の定義	W4071A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで調整タイプを選択して、「選択」をクリックします。	調整用の価格表グループを指定します。
カラム・パターン	W45520E	「価格表明細」フォームで、「フォーム」メニューの「カラム・パターンの設定」を選択します。	カラム・パターンを使用して、価格表の調整をグループ化します。 カラムと調整の表示方法を指定します。 カラム・パターン情報を指定しない場合は、すべての調整金額が1つのカラムにグループ化されます。

価格表の作成と価格表構造の作成

「価格表明細」フォームにアクセスします。

顧客別価格表 - 価格表明細

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

顧客 4242 Capital System

価格表ID 1000 SP 00001

価格表名 BIKE

記述 Bikes

有効開始日付 2005/01/01

有効期限 2005/12/31

スケジュール NATIONAL 全国的価格設定

事業所 30 Eastern Distribution Center

支払条件 Net 30 Days

支払手段 デフォルト

通貨 USD U.S. Dollar

取引単位に基づく価格

レコード 1 - 10

品目 No.	品名	基準日	開始レベル	単位	表示価格	調整コード	正味
210	Mountain Bike, Red	2005/01/01	1	EA	798.00	15.96-	
220	Touring Bike, Red	2005/01/01	1	EA	650.00		
222	Touring Bike, Green	2005/01/01	1	EA	650.00		
221	Touring Bike, Blue	2005/01/01	1	EA	650.00		
230	Youth Sport Bike	2005/01/01	1	EA	145.00		
220	Touring Bike, Red	2005/01/01	25	EA	650.00		
222	Touring Bike, Green	2005/01/01	25	EA	650.00		
230	Youth Sport Bike	2005/01/01	25	EA	145.00		

「価格表明細」フォーム

価格表名 「RETAIL」など、価格表の記述を入力します。

調整用の価格表グループの指定

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

価格表から除外 価格調整を価格表プログラム (P45520) の処理対象から除外する場合、このチェックボックスを選択します。

カラム・パターンを使った価格表調整のグループ化

「カラム・パターン」フォームにアクセスします。

カラム・タイトル 価格表の1つ目のユーザー定義カラムのタイトルを入力します。

カラム・パターン情報を指定しない場合は、すべての調整金額が1つのカラムにグループ化されます。カラム・タイトルのこの1番目のフィールドには、値は入力できません。このフィールドは、調整のデフォルトのカラムとして使用されます。

サーチ・エージェントの作成

この項では、サーチ・エージェントの概要と作成方法について説明します。

サーチ・エージェントについて

サーチ・エージェントでは、比較条件を使用して複雑なクエリーを作成できます。値リストの値、値リストに含まれない値、範囲内の値、範囲外の値を選択できます。また、QBE(例示照会プログラム)行の比較条件を使用することもできます。条件は必要に応じて保存、管理、再利用、削除できます。サーチ・エージェントを使用すると、関連する価格設定情報の確認に必要な照会を毎回行う必要がなくなります。サーチ・エージェントは、一括管理(P45550)プログラムと顧客別価格表(P45520)プログラムの両方で使用されます。

関連項目:

第 6 章、「価格設定の使い方」、「価格設定ワークベンチの使い方」、84ページ

第 6 章、「価格設定の使い方」、「顧客別価格表の使い方」、90ページ

サーチ・エージェントの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整の一括改訂	W45550A	「上級操作」(G423114)、 「一括管理」 サーチ・エージェントを作成するテーブルとサーチ・エージェント名を指定します。	サーチ・エージェントは、F4511Wテーブルでのみ動作します。
サーチ・エージェントの改訂	W45510F	「価格調整の一括改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「サーチ・エージェントの改訂」を選択します。 「エイリアス」、「名称」、「セキュリティ」または「すべてのフィールドを表示」フィールドのうち、任意のフィールドを選択します。	サーチ・エージェントの作成と改訂を行います。 注意: セキュリティを有効にすると、サーチ・エージェントの作成者しか改訂できません。
値のリストの改訂	W45510E	「サーチ・エージェントの改訂」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「値リストの改訂」を選択します。 「値のリストの改訂」フォームで、関係タイプとサーチ・エージェント値を指定します。	サーチ・エージェントの検索条件を指定します。

サーチ・エージェントの作成

「価格調整の一括改訂」フォームにアクセスします。

価格マトリックスの使い方

この項では、価格マトリックスの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 価格マトリックス定義の作成

- 価格マトリックスの編集
- 価格マトリックスのインポートとエクスポート
- 価格マトリックス・レコードのコピー

価格マトリックスについて

多くの会社は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの機能を使用して、非常に複雑な品目価格設定を使用しています。価格設定情報の設定は、計画、入力および管理するために多大な時間がかかります。価格設定情報を設定するには、調整定義を作成し、多数の調整明細レコードを添付して、価格計算のパラメータを提供します。価格調整明細の改訂プログラム(P4072)を使用するかわりに、価格マトリックス・プログラム(P4590)を使用して、F4072テーブルに多数の調整明細レコードを追加し、編集できます。このプログラムを使用すると、ニーズにあったビューにアクセスでき、価格設定情報を迅速に入力および管理できます。価格マトリックスを作成するには、「価格マトリックス定義の追加」フォームを使用します。「品目価格グループ」、「顧客価格グループ」または「オーダー明細グループ」フィールドのうち、ローおよびカラムの見出しとして表示するフィールドを選択します。どのグループをローおよびカラムの見出しとして表示する場合でも、関連するカテゴリ・コードも選択する必要があります。「価格マトリックスの編集」フォームで、階層レベルを選択し、見出し領域にあるすべてのフィールドに値を指定する必要があります。選択した階層レベルによって、データ入力用に表示されるフィールドとタブが決定されます。たとえば、「顧客グループ」階層を選択した場合は、顧客専用フィールドは表示されません。「価格マトリックス定義の追加」フォームで選択したグループの各フィールドが、「価格マトリックスの編集」フォームの詳細グリッドにカラム見出しとして表示されます。これらのフィールドの表示をカスタマイズするには、「カラムの選択」ドロップダウン・リスト・ボックスから別のフィールドを選択するか、「次へ」および「前へ」リンクを使用して別のフィールドを選択します。カスタマイズしたビューは保存できません。

「価格マトリックスの編集」フォームの各フィールドには、計算式(「基準名」フィールドの値「7」)または数値(「基準名」フィールドの値「5」)を入力できます。計算式を使用する場合は、「表示」ドロップダウン・リスト・ボックスを使用して、計算式の結果と計算式名の間で切り替えることができます。「Formula Values (View Only Mode)」を選択すると、計算式の結果がフィールドに表示されます。「Formula Names (Edit Mode)」を選択すると、計算式が表示されます。ここでは、計算式の追加または変更が可能です。また、「価格計算式の改訂」フォームにアクセスして計算式を作成することも、価格調整明細を検索および選択するフォームを使用して調整明細レコードに基づいて計算式を作成することも可能です。計算式が解決不可であると識別された場合、その計算式は「= #VALUE!」として表示されます。

価格マトリックスの構造に関するデータは価格マトリックス定義テーブル(F4580)に保存され、価格マトリックスはF4072テーブルに保存されます。価格マトリックスを作成した後、同じ任意形式を使用してマトリックスを編集できます。

価格設定データをスプレッドシートからインポートしたり、スプレッドシートにエクスポートすることができます。100カラムの価格マトリックス・グリッドを含むフォームに、データをインポートまたはエクスポートできます。データをインポートする前に、スプレッドシートに次の値が含まれるように設定する必要があります。

- ローおよびカラム見出しに対する既存の値
これらのフィールドに新しい値を入力することはできません。
 - 最初のカラムの各ローに対する英数字の値
たとえば、入荷オーダー明細グループのカテゴリ・コードなど。このカラムの見出しは含みません。
 - 2つ目のカラムの各ローの値の説明
このカラムの見出しは含みません。
- たとえば、スプレッドシートに次の形式のデータが含まれているとします。

ビジネスユニット	会社00001	会社00002	会社00003
30	東部流通センター		
20	北部流通センター		
10	西部流通センター		
40	南部流通センター		

このスプレッドシートのカラム見出し1から100は、「インポート」フォームにデフォルトで表示されます。「カラムの選択」ドロップダウン・リスト・ボックスから別のフィールド・グループを選択して表示することは可能ですが、このフォームのフィールドをカスタマイズすることはできません。また、このフォーム上のデータを変更することもできません。システムで認識されないデータ(計算式、数値など)をインポートすると、そのデータを含むセルが赤で強調表示されます。「元に戻す」ボタンをクリックして、「インポート」フォームをクリアする必要があります。スプレッドシートのデータを修正し、修正したスプレッドシートをインポートします。インポート処理にかかる時間を短縮するには、ローおよびカラム見出しを含む価格マトリックス定義を作成し、ブランクの価格マトリックスをエクスポートしてスプレッドシートを作成し、スプレッドシートをインポートします。

価格マトリックス・レコードをコピーする必要がある場合は、価格調整の一括改訂プログラムを使用します。

価格マトリックスは、JD Edwards EnterpriseOne受注管理、JD Edwards EnterpriseOne調達管理およびシップ・アンド・デビット機能と連携させて使用できます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Management

JD Edwards Blend Managementシステムを使用する場合、価格マトリックスが役立ちます。価格マトリックスを使用してぶどうの購買契約の価格設定を管理でき、価格マトリックスを作成して「栽培地区」、「種類」および「レベル」の基準に基づいて価格設定を行うことができます。「入荷オーダー明細グループ」には、次のフィールドのうち、任意のものを含めることができます。

- ビンテージ
- 種類
- 契約価格設定グループ
- レベル
- 栽培地区
- 栽培地域
- ブロック所有
- 品質等級

また、有効日付を使用して、収穫期間に価格マトリックスが有効になるように指定する必要があります。階層として、「全品目」が「すべての顧客(仕入先)」の中から選択する必要があります。

フィールドに基づく計算式の使用を選択すると、「価格計算式の改訂」フォームにアクセスし、フォーム・エグジットを選択して価格計算式マスター(F4076)の値のリストを表示できます。このテーブルは、入荷オーダー明細グループに基づく価格マトリックスを使用する場合に特に役立ちます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- オーダー明細グループの設定
- 調整定義の設定（「価格マトリックス」フィールドが選択されていることの確認）
- F4072一括更新エンジン（P45550）のコピー・モード・バージョンの選択

価格マトリックスの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格マトリックス定義の検索	W4580E	「価格調整のセットアップ」（G4231112）、「価格マトリックス定義」 「価格マトリックス定義の検索」フォームで「検索」をクリックします。	価格マトリックス定義を検索します。
価格調整の検索	W4580C	価格マトリックス定義を作成するには、「価格マトリックス定義の検索」フォームで「追加」をクリックします。 価格調整定義を検索するには、「価格調整の検索」フォームで「検索」をクリックします。	価格マトリックス定義を追加します。 価格調整定義を検索します。
価格マトリックス定義の追加,	W4580D	「価格調整の検索」フォームで価格調整定義を選択します。 「価格マトリックス名」フィールドに値を入力し、「列ID」および「行ID」を選択します。「価格マトリックス定義の追加」フォームで「保存」をクリックします。	価格マトリックス定義の構造を作成します。
価格マトリックス定義の編集,	W4580D	価格マトリックス定義を選択し、「価格マトリックス定義の検索」フォームで「編集」をクリックします。 「列ID」および「行ID」を選択します。「価格マトリックス定義の編集」フォームで「保存」をクリックします。	価格マトリックス定義を編集します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
価格マトリックスの編集	W4590A	<p>価格マトリックス定義を選択し、「価格マトリックス定義の検索」フォームで「価格マトリックスの表示」をクリックします。</p> <p>「階層レベル」を選択し、見出しにあるすべてのフィールドに値を入力して、「価格マトリックスの編集」フォームで「マトリックスのロード」ボタンをクリックします。詳細グリッドに値と計算式を入力し、「保存」ボタンをクリックします。</p>	<p>価格マトリックスを作成します。</p> <p>価格マトリックスを編集します。</p>
価格マトリックスのインポート/エクスポート	W4585C	<p>「価格マトリックスの編集」フォームで「インポート」または「エクスポート」ボタンをクリックします。</p> <p>「インポート」フォームのスプレッドシートから価格マトリックス・データをインポートするには、「インポート」ボタンをクリックします。スプレッドシートを検索します。データを「価格マトリックスの編集」フォームに転送するには、「OK」をクリックします。「インポート」フォームの「価格マトリックスの編集」フォームに戻るには、「取消」をクリックします。</p> <p>「カラムの選択」フィールドからカラム見出しを選択してデータをリフレッシュし、「価格マトリックスの編集」フォームで「保存」をクリックします。</p> <p>「インポート」フォームのスプレッドシートに既存の価格マトリックス・データをエクスポートするには、「エクスポート」ボタンをクリックします。データを入力してスプレッドシートを作成します。「エクスポート」フォームで「OK」または「取消」をクリックします。</p>	<p>スプレッドシートとの間で、価格設定データをインポートまたはエクスポートします。</p>

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
「価格調整の一括改訂」 フォーム	W45550A	<p>「上級操作」メニュー (G423114) で、「一括管理」の隣にある矢印をクリックして「バージョン」を選択します。</p> <p>「バージョンの処理」フォームで F4072 一括更新エンジン (P45550) の適切なコピー・モード・バージョンを選択し、「選択」をクリックします。</p> <p>「価格調整の一括改訂」フォームで、「レコードのコピー」ボタンが選択されていることを確認して、価格設定レコードを検索します。</p> <p>「価格調整の一括改訂」フォームで、UBE ローの適切なフィールドに値を入力します。</p> <p>(任意) システムによるレコードの変更を表示するには、「グリッドのみ更新」をクリックします。</p> <p>「OK」をクリックします。</p> <p>「OK」をクリックして、追加を確認します。</p>	価格マトリックス・レコードをコピーします。

価格マトリックス定義の作成

「価格マトリックス定義の検索」フォームにアクセスします。

価格マトリックス定義 - 価格マトリックス定義の検索

検索(I)

追加(A)

閉じる(L)

クエリーの選択

クエリーの保存 クエリーの編集

レコード 1 - 5

グリッドのカスタマイズ

	価格マトリックス名	カラムカテゴリコード	ロー・カテゴリコード	調整名	調整記述	ターゲットシステム	ターゲットアプリケーション記述	品目価格グループ	顧客価格グループ	オーダー明細
<input checked="" type="radio"/>	11	SRP2	SRP3	MAT	マトリックス調整		受注管理	PRODU...	BUSINESS	CODE
<input type="radio"/>	23423	SRP2	AC13	MAT	マトリックス調整		受注管理	PRODU...	BUSINESS	CODE
<input type="radio"/>	Line of Business by Pric...	SRP3	UPC1	MAT	マトリックス調整		受注管理	PRODU...	BUSINESS	CODE
<input type="radio"/>	Subsection by Price Code	SRP2	UPC1	MAT	マトリックス調整		受注管理	PRODU...	BUSINESS	CODE
<input type="radio"/>	Variety by Level	VARCODE	PRLEVL	MTXGRAPE	ブドウ・マトリックス	1	調達管理			VDL

編集

削除(D)

価格マトリックスの表示

検索(I)

追加(A)

閉じる(L)

「価格マトリックス定義の検索」フォーム

価格マトリックスの編集

「価格マトリックスの編集」フォームにアクセスします。

価格マトリックス定義 - 価格マトリックスの編集

保存して閉じる(O)

取消(L)

価格マトリックス名

Variety by Level

階層レベルの選択 *

All Items and All Customers

調整名

MTXGRAPE

一般情報

オーダー明細グループ

開始レベル *

1

単位 *

TN

通貨コード *

USD

有効開始日付 *

2005/01/01

有効期限 *

2005/12/31

マトリックスのロード

「価格マトリックスの編集」フォーム (1/2)

100

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

価格マトリックス 定義 - 価格マトリックスの編集

カラムの選択 Custom Selection 表示 Formula Names (Edit Mode)

VG - Voigner -- 1つ選択 -- -- 1つ選択 -- -- 1つ選択 -- -- 1つ選択 -- -- 1つ選択 --

レコード 1 - 4

	VG - Voigner	-- 1つ選択 --	-- 1つ選択 --	-- 1つ選択 --	-- 1つ選択 --	-- 1つ選択 --
1 - Level I						
2 - Level II						
3 - Level III						

保存(Y) リフレッシュ インポート エクスポート

保存して閉じる(O) 取消(L)

「価格マトリックスの編集」フォーム (2/2)

価格マトリックスのインポートとエクスポート

「価格マトリックス定義」の「インポート」フォームにアクセスします。

「価格マトリックス定義」の「エクスポート」フォームにアクセスします。

価格マトリックス 定義 - エクスポート

閉じる(L)

カラムの選択 BRGG - Broccoli - Green Goliath : VG - Voigner

レコード 1 - 5

		BRGG - Broccoli - Green Goliath	BRGC - Broccoli - Green Comet	AVAH - Haas Avocado	MICH - Michelin Apples	MAC - Macintosh Apples	CHAR - Chardonnay grapes	MERL - Merlot Grapes	SLVR - Silver Choice Corn	SI
1	1 - Level I									
2	2 - Level II									
3	3 - Level III									

閉じる(L)

「価格マトリックス定義」の「エクスポート」フォーム

価格マトリックス・レコードのコピー

「価格調整の一括改訂」フォームにアクセスします。

価格設定ワークベンチ - 価格調整の一括改訂

OK(O) 検索(S) 取消(C) フォーム(F) ツール(T)

グリッドのみ更新 リフレッシュ

サーチ・エージェント名 テーブル名 F4072

レコードの更新
レコードのコピー

レコード 1 - 94 グリッドのカスタマイズ

	調整 コード	略式 品目No.	第2品目 No.	第3品目 No.	住所 番号	単位	通貨 コード	有効開始 日付	有効 期限	基準 コード
<input checked="" type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	CAD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	CAD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	EUR	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		PL	EUR	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	GBP	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	GBP	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		EA	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BITEM	60046	221	221		PL	USD	2002/04/19	2010/12/31	1
<input type="radio"/>	BPROMO	60054	222	222		EA	AUD	2002/04/19	2010/12/31	1

「価格調整の一括改訂」フォーム

第 7 章

購買構造の利用

この章では、購買構造の概要と次の方法について説明します。

- 価格設定用の購買構造の設定
- 購買構造の確認と改訂
- 直接価格調整の作成

購買構造について

購買構造とは、顧客の会社内の購買権限の組織構造を表したものです。購買構造の各レベルは、階層と呼ばれます。階層は、社内の価格交渉を行う組織単位を表します。割引と価格交渉は、購買構造の各レベルに適用され、構造内の下位の階層に送ることができます。

購買構造を使用すると、顧客固有の複雑な価格設定を管理できます。購買構造を設定する場合は、顧客の組織構造に基づいて価格管理を設定します。たとえば、代理店など、品目を直接オーダーすることはないが価格を決定する権限を持つ組織単位に基づいて、価格を決定できます。

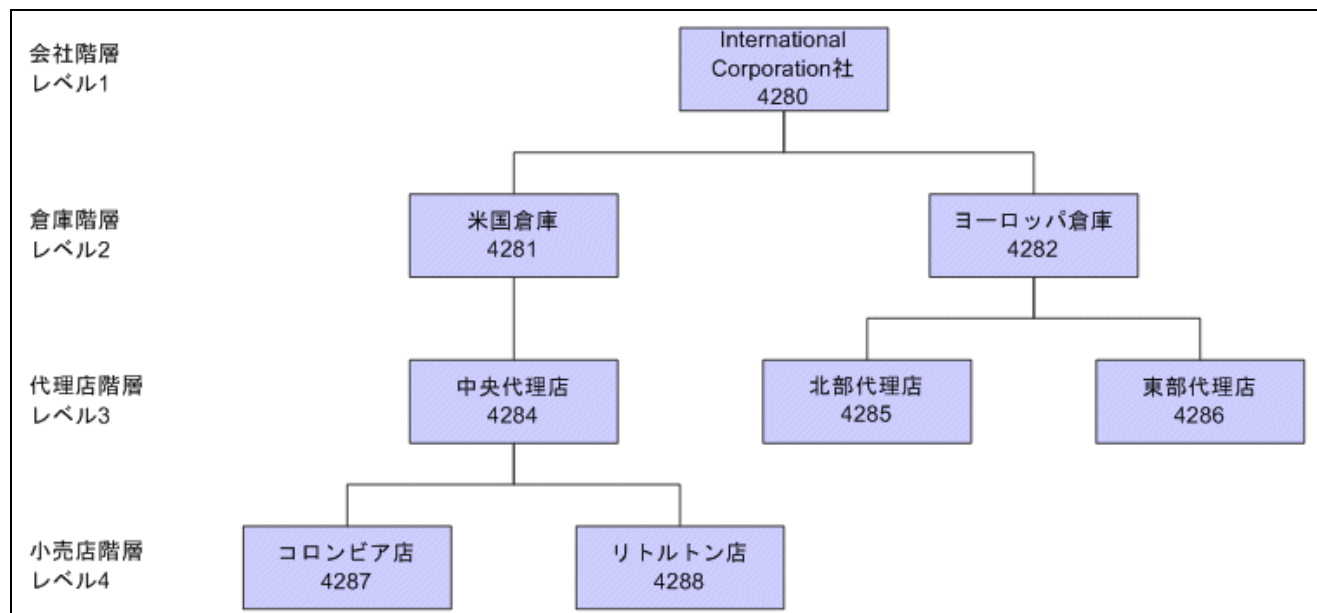
購買構造では、直接価格調整を使用します。直接価格調整とは、顧客の住所録番号と特定の価格調整を関連付ける方法です。

購買構造を設定すると、組織構造内の顧客の住所録番号間で親/子関係が設定されます。1つの住所録レコードが親になり、その親に対して、1つ以上の住所録レコードを子として指定できます。

購買構造の設定では、代理店(親)に提示する価格が小売店(代理店の子)にも提示されるように設定できます。子が親の価格を継承するように購買構造を設定するには、価格調整スケジュールの改訂プログラム(P4070)の「継承フラグ」フィールドを有効にします。

新しい会社を購買構造に追加したり、会社を構造内の別の階層レベルに移動する場合は、購買構造自体を更新します。

次の例は、組織内の購買構造を示しています。



一般的な購買構造の例

購買構造の階層レベルと継承について

会社に対して購買構造を作成する場合は、階層レベルと継承を指定します。組織構造を作成する場合は、住所録に階層レベルを設定します。継承の定義は、「価格調整スケジュールの改訂」フォームで直接価格調整を作成する際に行います。「継承フラグ」フィールドと階層レベルを使用して、定義する階層レベルより下の階層レベル(番号が大きい階層)が調整を継承するかどうかが決まります。

次の表は、購買構造内の各単位に適用する価格調整の例を示しています。

組織単位	住所録番号	階層レベル	継承	適用される価格調整
International Corporation社	4280	1	する。	International Corporation社のすべての流通センター(例: 階層レベル3の中央流通センター)は、すべての品目について、基本価格の3%の割引を受けます。これは企業割引です。
米国倉庫	4281	2	する。	米国倉庫は、品目Aの売上が10,000単位に達した場合に、1単位につき1.00ドル(USD)の地域リベートを受け取ります。(階層別リベート)

組織単位	住所録番号	階層レベル	継承	適用される価格調整
中央代理店	4284	3	する。	中央代理店は、5%の販売促進割引を受けます。
コロンビア店	4287	4	する。	International Corporation 社の大型販売店の1つであるコロンビア店は、品目Aの注文数が100単位以上で、基本価格から6%の割引を受けます。

コロンビア店が品目Aを150単位注文した場合、購買構造機能により価格調整が適用され、次の表のように正味価格が計算されます。

価格調整	単価	その他
基本価格	10.00 USD	
小売店割引(6%割引) コロンビア店(4287)	.60-	
販売促進割引(5%割引)	.47-	
地域リベート(階層リベート)		1.00 USD
企業割引(3%割引)	.30-	
正味価格	8.63 USD	

購買構造を設定するときに「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「継承フラグ」フィールドを有効にしないと、コロンビア店には6%の階層レベル割引しか適用されず、その他の階層レベルの価格調整は継承されません。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「親/子関係と組織構造の設定」、「親/子関係の設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「親/子関係と組織構造の設定」、「親/子の組織構造の階層の設定」

価格設定用の購買構造の設定

この項では、購買構造の設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 特定の日付の組織構造でルートになる親の特定
- 住所録組織構造の表示および改訂プログラム(P0150)の処理オプションの設定

購買構造の設定について

顧客の購買構造は、住所録組織構造の表示プログラム (P0150) で定義します。購買構造を定義する場合は、顧客の住所録番号を使用して、構造内の親/子関係を指定します。

購買構造を設定すると、各レコードの階層レベルが自動的に設定されます。階層レベルの記述を使用すると、組織構造の親/子関係の構造を管理できます。階層記述の設定時には、次の情報を指定します。

- 子の住所録番号に対応する親の住所録番号
- 親の住所録番号と子の住所録番号の関係に適用される有効開始日付と有効終了日付
- 構造の各階層の名前

購買構造で価格調整が処理されるには、価格管理固定情報で価格調整の決定方法を指定する必要があります。購買構造では直接価格調整が処理されるため、価格調整の決定方法は、1 (価格設定の住所番号) または 2 (スケジュールと住所番号) にする必要があります。

価格管理固定情報では、販売価格設定の構造タイプを指定する必要があります。また、購買構造で価格調整を処理する場合に、出荷先住所を使用するかどうかを指定できます。

購買構造の組織概要を定義後、構造内の階層レベルと住所録レコードごとに、直接価格調整を定義します。

関連項目:

第 7 章、「購買構造の利用」、「直接価格調整の作成」、109 ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、135 ページ

事前設定

この項のタスクを実行する前に、住所録組織構造の表示プログラム (P0150) の処理オプションで、「処理」タブの「階層記述」オプションに「1」を入力します。

価格設定用の購買構造の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
親/子構造の処理	W0150D	「住所録組織構造」(G01311)、「構造の改訂」	親/子構造を特定します。
親住所/子住所の改訂	W0150A	「親/子構造の処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。 見出し領域の「親住所 No.」フィールドに親を指定し、詳細グリッドの「住所 No.」フィールドに子を指定します。 「住所No.」フィールドで指定した子を他の子の親として使用し、次に別の子を他の子の親に使用して組織構造の作成を続行します。	階層を使用して組織構造を作成します。
有効日付親住所レコードの検索	W0150F	「親/子構造の処理」フォームで構造タイプと住所番号を検索し、「ロー」メニューの「階層記述」を選択します。	特定の日付で、組織構造のルート親を特定します。
階層記述の改訂	W0150E	「有効日付親住所レコードの検索」フォームで有効日付を入力し、「親住所No.の検索」をクリックして「OK」をクリックします。 「階層記述の改訂」フォームで、階層番号、記述、有効開始日付、有効終了日付などの組織構造の階層記述を入力します。	階層に関する情報を入力します。

価格設定用の購買構造の設定

「親/子構造の処理」フォームにアクセスします。

構造タイプ

ユーザー定義コード(01/TS)の値を入力し、住所録システムに独自の階層を持つ組織構造のタイプ(電子メールなど)を指定します。

JD Edwards EnterpriseOne売掛管理に親/子関係を作成する場合は、構造タイプをブランクにしてください。

親住所No.

親会社の住所録番号を入力します。この番号は、特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。このフィールドに入力した値により、F0150テーブルの構造タイプがブランクのレコードが更新されます。検証の必要があるため、F0101テーブルにある住所番号を指定する必要があります。親番号のある住所録レコードの例を次にあげます。

親会社のある子会社

本社のある支店

請負業者の作業現場

住所録組織構造の表示および改訂(P0150)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、処理に関する値を指定できます。

- | | |
|-------------|--|
| 1. ワークフロー情報 | ワークフロー処理情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: ワークフロー処理情報を表示しません。
1: ワークフロー処理情報を表示します。 |
| 2. 階層記述 | ルート親住所の有効日付に基づいて階層構造の定義を許可するかどうかを指定します。構造のルート親は親/子構造の最上位レベルであり、親を持つことはできません。値は次のとおりです。
ブランク: 階層構造を定義できない。
1: 階層構造を定義できる。 |

デフォルト

この処理オプションでは、デフォルト値を指定できます。

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 日付のデフォルト | 有効開始日付と有効終了日付がブランクの場合に、「親住所/子住所の改訂」フォームにデフォルトの日付をロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: デフォルトの日付をロードしない。
1: デフォルトの日付をロードする。 |
| 2. デフォルト組織構造タイプ | 住所録組織構造の表示プログラムへのアクセス時に、組織構造フィールドに最初に表示される値を指定します。 |

購買構造の確認と改訂

この項では、購買構造の改訂の概要と、購買構造の確認と改訂方法について説明します。

購買構造の改訂について

購買構造の確認と改訂は、購買構造の表示プログラム(P450150)で行うことができます。顧客の住所番号を入力すると、その住所番号を含む組織の購買構造が表示されます。

価格調整情報は、「購買構造の表示」フォームで確認または改訂できます。また、ルート住所(購買構造の最上位の親)を確認することもできます。

デフォルトの購買構造タイプが表示されるようにするには、購買構造の表示プログラムの処理オプションを設定します。この処理オプションをブランクにすると、システム固定情報で指定した構造タイプが使用されます。

関連項目:

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、135ページ

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整明細の設定」、73ページ

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整スケジュールの作成」、70ページ

購買構造の確認と改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買構造の表示	W450150A	「価格照会」(G423113)、 「購買構造の表示」 購買構造のルート住所を確認するには、「フォーム」メニューの「トップ」を選択します。「名称」カラムのフォルダを展開すると、ルート(親)住所の子を表示できます。	購買構造内の関連住所と子住所を確認および編集します。
価格設定規則の表示	W450150C	「購買構造の表示」フォームでレコードを選択し、「ロー」メニューの「価格規則」を選択します。	顧客に適用する価格調整(直接価格調整または価格調整スケジュール)の確認と編集を行います。 このフォームから、調整明細情報の改訂に必要なフォームにアクセスすることもできます。

購買構造の確認と改訂

「購買構造の表示」フォームにアクセスします。

直接価格調整の作成

この項では、直接価格調整の概要、事前設定、および直接価格調整の作成方法について説明します。

直接価格調整について

特定の製品または製品のセットについて、価格と割引の交渉を特定の顧客と行う場合があります。顧客ごとに価格調整を行う場合は、直接価格調整を設定します。

直接価格調整では、価格と割引が顧客に直接関連付けられるため、価格を価格スケジュールに関連付ける必要がなくなります。直接価格調整と顧客の関連付けには、顧客の住所録番号が使用されます。

顧客固有の価格設定のタイミングを管理するには、直接価格調整が有効になる日付を設定します。たとえば、すべての顧客に対して5月末までプロモーション価格を適用しており、特定の顧客に対して6月末まで延長する場合は、「価格調整スケジュールの改訂」フォームの「有効期限」フィールドに、6月の日付を入力します。価格の有効日付は、システム固定情報の「販売価格基準日」フィールドの値を使用して処理されます。

価格調整は、複数を同時に処理できます。価格調整の処理は、直接価格調整として顧客番号別に行うか、調整スケジュール別に行うか、または両方で行うかを選択できます。

直接価格調整の顧客番号別と調整スケジュール別の両方で価格調整を行う場合は、調整の順序に注意する必要があります。通常は、直接価格調整（顧客の住所番号別）が最初に処理され、次にスケジュールで指定した調整が処理されます。直接価格調整と調整スケジュールの両方を組み合わせた場合、調整順序を選択して価格調整の方法に反映できますが、調整を適用できるのは、それぞれ1回のみです。

注意: 直接価格調整は、JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムの購買構造機能と階層リポートにとって、必要不可欠な機能です。直接価格調整は、購買構造のレベルごとに設定する必要があります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理 9.0 製品ガイド、「顧客マスター情報の設定」

事前設定

価格管理固定情報で、価格設定用に顧客の出荷先住所が設定されていることを確認します。

直接価格調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整スケジュールの改訂	W4070C	「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「顧客請求指示」 「顧客マスターの処理」フォームで、直接価格調整を適用する顧客を検索して選択し、「ロー」メニューの「価格調整スケジュール」を選択します。	直接価格調整を作成します。

直接価格調整の作成

「価格調整スケジュールの改訂」フォームにアクセスします。

階層レベル

この調整を適用する構造内の階層レベルを示す番号を入力します。このレベル以下の階層に調整が適用されます。この番号は、「集計階層レベル」フィールドに指定した値以下である必要があります。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを意味します。1より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リポートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

集計階層レベル

購買構造で集計する金額またはリポートの階層レベルを指定する番号を入力します。集計階層レベルは、受取先階層レベルと同じかそれ以下の値を指定します。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを意味します。1より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リポートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

受取先階層

購買構造の受取先階層レベルを指定する番号を入力します。受取先とは、累積されたリベート金額の受取先です。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを意味します。1より大きい値は、最上位より下の階層レベルを表します。

購買構造と階層別リベートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。

継承フラグ

購買構造で、価格調整を子の住所番号が継承するかどうかを指定します。購買構造と階層別リベートで直接価格調整を作成する場合は、このフィールドに値を入力します。値は次のとおりです。

- 0: 価格調整を継承しない。
- 1: 価格調整を継承する。

第 8 章

一時変更検索グループの定義

この章では、一時変更検索グループの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複合価格グループの使い方
- 価格グループ組合せの生成
- オーダー明細グループの定義

一時変更検索グループについて

基本価格の定義および管理の処理を簡単にするために、同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定します。複合価格グループは、特定の品目タイプや顧客の所在地、業種、販売量などのカテゴリ・コードに基づくサブグループで構成されます。一時変更検索グループとは、調整定義に指定したカテゴリ・コードに基づいて価格を検索する方法です。

使用するカテゴリは、一時変更検索グループを定義して指定します。1から4までのカテゴリ・コードを使用できます。一時変更価格グループを定義したら、調整定義に添付します。これらのフィールドを使用して顧客をグループ化することで、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

調整定義に一時変更価格グループを入力した場合、その価格調整はこの一時変更価格グループにしか適用されません。次の方法で品目または顧客をグループ化して、価格を定義できます。

- 品目には、事業所品目情報のカテゴリ・コードを使用します。
- 顧客には、顧客マスター情報のカテゴリ・コードを使用します。
- 受注オーダーには、特定の受注明細フィールドおよび優先情報のデフォルト値を使用します。

調整定義の使用時には、品目レコードまたは顧客レコードに一時変更グループと一致するカテゴリ・コードがあるかどうかを検索されます。一致するカテゴリ・コードが見つかった場合は、そのカテゴリ・コードに定義されている調整定義が使用されます。検索はカテゴリ・コードのみに基づいて行われます。

オーダー明細グループを使用して、特定の受注オーダー明細制御情報に基づいたオーダー行の調整定義を作成できます。検索はカテゴリ・コードに基づいて行われるため、顧客価格グループまたは品目価格グループを割り当てる必要はありません。

価格マトリックス機能を使用する場合は、複合価格グループを設定します。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理の価格設定

JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、基本価格設定とJD Edwards EnterpriseOne価格管理のどちらでも簡易価格グループと複合価格グループを使用できます。

基本価格設定では、次の処理を行うことができます。

- 品目グループまたは顧客グループを使用します。

- ・ 顧客請求指示で、事業所レコードの品目および顧客に各価格グループを添付します。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理では、次の処理を行うことができます。

- ・ オーダー明細グループを使用します。
- ・ 一時変更検索グループを使用して、価格調整定義に複合価格グループを添付します。

例: 販売調整における一時変更検索グループの使用

タイプとモデル年式という2つのカテゴリ・コードによって識別される前年モデルのマウンテン・バイク品目の在庫を減らすために、季節限定の販売促進を実施するとします。複合品目グループを設定して、タイプ、メーカー、色、モデル年式によってマウンテン・バイクが特定されるようにします。

地域、部門、営業担当者、売上高に基づいて、顧客の複合価格グループを設定します。カテゴリ・コードの部門に定義されている、マウンテン・バイクを販売する顧客は、価格調整の利得を受ける対象となります。

品目グループおよび顧客グループに対して一時変更検索グループを設定し、この2つの一時変更検索グループを「SEASONAL」という価格調整定義に添付します。マウンテン・バイクを販売する顧客が前年モデルを発注すると、この価格調整が読み込まれます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用

調整定義に一時変更価格グループを添付した場合、その価格調整は、この一時変更価格グループにし適用されません。次の方法で品目または仕入先をグループ化して、価格を定義できます。

- ・ 品目には、事業所品目情報のカテゴリ・コードを使用します。
- ・ 購買オーダーには、該当する購買明細フィールドを使用します。
- ・ 仕入先には、仕入先マスターのカテゴリ・コードを使用します。

購買オーダーの価格管理では、複合品目グループおよび複合仕入先グループがサポートされています。基本価格設定では、複合グループはサポートされていません。

使用するカテゴリは、一時変更検索グループを定義して指定します。1から4までのカテゴリを使用できます。一時変更価格グループを定義したら、調整定義に添付します。

調整定義の使用時には、品目レコードまたは仕入先レコードに一時変更グループと一致するカテゴリ・コードがあるかどうかを検索されます。一致するカテゴリ・コードが見つかった場合は、そのカテゴリ・コードに定義されている調整定義が使用されます。検索はカテゴリ・コードのみに基づいて行われます。

購買オーダーを入力する際は、ほとんどの明細情報はシステム・デフォルト、仕入先マスター情報、仕入先請求指示、および品目情報から読み込まれます。これらのフィールドを使用して仕入先をグループ化することで、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

入荷を手動で入力する場合は、オーダー明細グループを作成して入荷時の価格を調整することもできます。入荷の入力時に価格を再設定するには、最初に、入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)の「処理」タブで「入荷時の価格計算」処理オプションを設定します。入荷確認(購買オーダー別)プログラム(P4312)を使用して入荷を入力すると、オーダー明細グループに基づいて入荷時価格が調整されます。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理とBlend Managementの使用

栽培業者との契約は数年間または複数の栽培期間にわたることがあるため、ぶどうの購買契約と購買価格を長期間にわたって管理する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne価格管理システムおよびBlend Managementシステムを使用することにより、ぶどうの入荷の入力時に正しい価格を支払うことができます。

入荷価格調整を作成して、入荷価格を基本価格として使用することを指定するオプションを選択できます。次に、入荷オーダー明細グループを一時変更価格グループとして添付します。

さらに、栽培収穫レコードの値を使用してオーダー明細グループを設定することもできます。値が一致する場合、システムによって調整が決定されます。

たとえば、「栽培地区」、「種類」および「レベル」フィールドを使用して、ワインの価格設定シナリオのオーダー明細グループを作成できます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 顧客価格グループの設定
- 品目価格グループの設定

複合価格グループの使い方

この項では、複合価格グループの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 複合顧客価格グループの設定
- 複合品目価格グループの設定

複合価格グループについて

基本価格の定義および管理の処理を簡単にするために、同様の特性を持つ顧客や品目に対して価格グループを設定します。複合価格グループには、簡易価格グループと同じ情報に加えてサブグループを設定します。サブグループは、特定の品目タイプ、顧客の所在地域、業種、売上高などのカテゴリ・コードに基づくグループです。複合顧客価格グループおよび複合品目価格グループを設定できます。

複合価格グループは、一時変更検索グループとして使用できます。複合価格グループを設定した後、その価格グループ名を調整定義に入力して、一時変更価格グループとして定義します。

重要: 複合価格グループは、標準の受注オーダー調整で使用できますが、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理および調達管理を使用している場合は購買オーダー調整でしか使用できません。複合価格グループを購買オーダーで使用するには、価格管理で購買オーダー調整を設定しておく必要があります。

顧客価格グループ

複合顧客価格グループの定義では、最大10個のカテゴリ・コードを使用できます。カテゴリ・コードを使用して、価格設定グループ内にサブグループを作成し、それぞれに別の価格を請求できます。たとえば、「RETAIL」(小売)という顧客グループ内にカテゴリ・コードを使用してサブグループを作成し、サブグループの業種、地域、または売上高ごとに異なる価格を顧客に請求できます。

顧客は、顧客請求指示フォームで顧客明細グループに添付しなくても、顧客明細グループに含めることができます。顧客は、顧客のカテゴリ・コードに応じて複数のグループに含めることができます。

ここで入力するカテゴリ・コード順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。カテゴリ・コードの順序によって、価格の検索方法が変わることはありません。

品目価格グループ

複合品目グループを使用すると、柔軟な価格設定構造の設定が可能になります。複合品目価格グループの定義では、最大10個のカテゴリ・コードを使用できます。

たとえば、MARKERというグループに2種類のペン（マーカーとボールペン）がある場合、それぞれのペン・タイプに別々の価格を指定できます。ペンに対するオーダーを入力すると、その品目のカテゴリ・コードを使用して、ペンがマーカーかボールペンかがチェックされ、該当する価格が取り込まれます。

ここで入力するカテゴリ・コード順序によって、関連フォームにおけるカテゴリ・コード・フィールドの表示方法が決まります。カテゴリ・コードの順序によって、価格の検索方法が変わることはありません。

有効日付カテゴリ・コード

将来の日付で有効になるカテゴリ・コードの値を新規に割り当てる場合には、有効日付カテゴリ・コードを使用します。価格管理を使用している場合は、有効日付カテゴリ・コードを使用して、価格設定を割り当てる顧客グループを作成できます。価格設定の変更時には、有効日付カテゴリ・コードの値に基づいて、顧客グループが自動的に更新されるようにすることができます。

有効日付カテゴリ・コードを有効にするには、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理固定情報を使用します。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理固定情報の設定時には、「顧客マスターの改訂」フォームで「フォーム」メニューの「カテゴリ・コード」を選択しても、カテゴリ・コードの値は追加できません。かわりに「有効日付カテゴリ」を選択してください。有効日付カテゴリ・コードに入力した値を顧客マスターのカテゴリ・コードに反映するには、有効日付カテゴリ・コードの更新プログラム (R03012A) を実行します。

有効日付カテゴリ・コードは、有効日付カテゴリ・コード・テーブル (F03012A) に保存されます。有効ではなくなったカテゴリ・コードを削除するには、有効日付カテゴリ・コードの除去プログラム (R03012B) を実行します。

有効日付カテゴリ・コードの値を追加する場合は、F03012A テーブルにレコードを作成します。「有効日付カテゴリ・コードの改訂」フォームでは、有効日付が異なる複数のレコードを同時に入力できます。有効日付カテゴリ・コードのレコードを追加すると、「有効日付フラグ」フィールドの値が、レコードが未使用であることを示す「N」に更新されます。有効日付カテゴリ・コードの更新プログラムを実行すると、有効日付カテゴリ・コード・レコードの値が業種別顧客マスター (F03012) の顧客マスター・カテゴリ・コードにコピーされ、「有効日付フラグ」フィールドがYに更新されます。

重要: 有効日付カテゴリ・コードのレコードを入力する際、入力するレコードと前のレコードとの関連性はありません。このため、各レコードには必要なすべての情報を入力する必要があります。たとえば、カテゴリ・コード1にあらかじめ値が設定されている場合に、カテゴリ・コード2に値を設定して新しいレコードを追加するとします。この場合、その新しいレコードにカテゴリ・コード1の値をもう一度入力する必要があります。入力しないと、新しいレコードのカテゴリ・コード1はブランクになります。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの更新と除去」、「カテゴリ・コードの更新」

事前設定

ユーザー定義コード40/PCに価格グループ名が設定されていることを確認します。

複合価格グループの処理に使用するフォーム


フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
顧客価格グループ定義	W4092G	<p>「価格管理」(G4222)、「顧客価格グループの定義」</p> <p>「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>最大10個のカテゴリ・コード・フィールドに値を入力して顧客価格グループのサブグループを定義し、「フォーム」メニューの「変更保存」を選択します。</p>	複合顧客価格グループを設定します。
品目価格グループの定義	W4092C	<p>「価格管理」(G4222)、「品目価格グループの定義」</p> <p>「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>販売、購買、その他のカテゴリ・コードの値を最大10個入力して品目価格グループのサブグループを定義し、「フォーム」メニューの「変更保存」を選択します。</p>	複合品目価格グループを設定します。

複合顧客価格グループの設定

「顧客価格グループ定義」フォームにアクセスします。

顧客価格グループの定義 - 顧客価格グループ定義 i ? ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ RETAIL Retail Customers

カテゴリ・コード01	<input type="checkbox"/>	販売地域	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード21	<input type="checkbox"/>
担当者	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード12	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード22	<input type="checkbox"/>
販売地域	<input type="checkbox"/>	業種	<input type="text" value="1"/>	カテゴリ・コード23	<input type="checkbox"/>
地域	<input type="checkbox"/>	売上高	<input type="text" value="2"/>	カテゴリ・コード24	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード05	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード15	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード25	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード06	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード16	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード26	<input type="checkbox"/>
1099レポート処理	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード17	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード27	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード08	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード18	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード28	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード09	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード19	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード29	<input type="checkbox"/>
カテゴリ・コード10	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード20	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード30	<input type="checkbox"/>

「顧客価格グループ定義」フォーム

複合品目価格グループの設定

「品目価格グループの定義」フォームにアクセスします。

品目価格グループの定義 - 品目価格グループの定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ BICYCLE Bicycles

販売:		仕入先リバート・コード	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ2	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ区分	1	基準計画ファミリ	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ3	<input type="checkbox"/>
補助区分	2	陸揚費用規則	<input type="checkbox"/>	品目プール・コード	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード3	<input type="checkbox"/>	その他のコード:		カテゴリ・コード6	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード4	<input type="checkbox"/>	出荷条件コード	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード7	<input type="checkbox"/>
販売カテゴリ・コード5	<input type="checkbox"/>	商品出荷クラス	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード8	<input type="checkbox"/>
購買:		循環棚卸カテゴリ	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード9	<input type="checkbox"/>
商品クラス	<input type="checkbox"/>	品目寸法グループ	<input type="checkbox"/>	カテゴリ・コード10	<input type="checkbox"/>
商品補助クラス	<input type="checkbox"/>	倉庫プロセス・グループ1	<input type="checkbox"/>		

品目価格グループの定義

価格グループ組合せの生成

この項では、価格グループ組合せの概要および次の方法について説明します。

- 顧客価格グループの生成
- 品目価格グループの生成

価格グループ組合せについて

価格グループを設定して顧客および品目にグループ名を割り当てた後、顧客価格グループと品目価格グループの関係を生成します。価格グループの関係を生成して、価格設定に使用する顧客グループと品目グループの組合せを定義します。作成した顧客および品目グループ情報を価格設定に使用できるように、価格グループの組合せを生成してください。

次のバッチ・プログラムを使って、価格グループ組合せを生成します。

- 顧客価格グループの生成 (R40932)
- 品目価格グループの生成 (R40931)

これらのプログラムにより、品目/顧客グループ関係テーブル (F4093) にレコードが生成されます。顧客グループまたは品目グループとカテゴリ・コードの使用可能な組合せが F4093 テーブルに保存されます。データ選択を使用して、作成した明細レコードに対して最大 5 つのグループ・コードを指定できます。コードを指定しない場合は、すべてのグループに対する組合せが生成されます。

顧客価格グループの生成

「価格管理」(G4222)、「顧客価格グループの生成」を選択します。

品目価格グループの生成

「価格管理」(G4222)、「品目価格グループの生成」を選択します。

オーダー明細グループの定義

この項では、オーダー明細グループの概要と事前設定、およびオーダー明細グループの定義方法について説明します。

オーダー明細グループについて

オーダー明細グループを使用して、受注明細フィールドの情報に基づいて、オーダーの価格設定行に調整を作成できます。受注オーダーを入力する際に、明細フィールドのデータの一部が、システム・デフォルト、顧客マスター情報、顧客請求指示、品目情報、および優先情報から読み込まれます。

「オーダー明細価格グループの定義」フォームには、オーダー入力時には表示されない多数のフィールドが表示されます。たとえば、次の各フィールドには優先プロファイルからのデータがデフォルトで表示されます。これらのデータは、JD Edwards EnterpriseOne価格管理、受注管理、調達管理またはサービス管理のいずれを使用しているかによって異なります。

- 業種
- 最終用途
- 価格コード1
- 価格コード2
- 価格コード3
- 下限等級
- 上限等級
- 下限濃度
- 上限濃度
- 契約サービス・パッケージ

オーダー明細グループの定義時にこれらのフィールドを使用して、特定のグループに対する価格設定を定義できます。

次の入荷オーダー明細グループに関する各フィールドは、JD Edwards Blend Managementシステムとともに使用します。

- 区画タイプ
- 種類コード
- 栽培地区
- 価格レベル

- 契約価格グループ
- 収穫期
- 栽培地域
- 現行の品質
- 目標の品質
- 契約ID
- 区画ID
- 契約明細ID
- 価格設定管理01
- 価格設定管理02

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用

オーダー明細グループを使用して、購買明細フィールドの情報に基づいて、オーダーの価格設定行に調整を作成できます。購買オーダーを入力する際に、システム・デフォルト、仕入先マスター情報、購買指示、および品目情報から明細情報が読み込まれます。

事前設定

該当する処理オプションを設定して、「品目グループ定義」、「顧客グループ定義」、「オーダー明細グループ定義」、「購買オーダー明細グループ」、「入荷オーダー明細グループ」または「サービス/保証管理オーダー明細グループ」のいずれかのフォーマットを選択します。

オーダー明細グループの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー明細価格グループの定義	W4092A	<p>「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「オーダー詳細グループ」</p> <p>選択した処理オプションに基づいて、価格グループ・タイプ・コードがインポートされます。「検索」をクリックすると、その価格グループ・タイプ・コードのグループのみが表示されます。システム・デフォルトを一時変更するには、新しい価格グループ・タイプ・コードを入力して「検索」をクリックします。このタイプ・コードに基づいて、該当するフォームが表示されます。</p> <p>「価格グループ定義の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>8つのフィールドに1から8までの番号を入力し、グループ化する際に使用するカテゴリ・コードを指定します。最高8つまでの必要な数のフィールドに値を入力できます。</p>	オーダー明細グループを定義します。

オーダー明細グループの定義

「オーダー明細価格グループの定義」フォームにアクセスします。

オーダー詳細グループ - オーダー明細価格グループの定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

価格グループ EDI Electronic Commerce

ビジネスユニット	<input type="text"/>	運送業者No.	<input type="text"/>	価格コード 1	<input type="text"/>
会社番号	<input type="text"/>	輸送モード	<input type="text"/>	価格コード 2	<input type="text"/>
契約No.	<input type="text"/>	経路コード	<input type="text"/>	価格コード 3	<input type="text"/>
見出しビジネスユニット	<input type="text"/>	中継点コード	<input type="text"/>	下限等級	<input type="text"/>
支払条件	<input type="text"/>	区域No.	<input type="text"/>	上限等級	<input type="text"/>
支払手段	<input type="text"/>	貨物/運賃取扱コード	<input type="text"/>	下限濃度	<input type="text"/>
業種	<input type="text"/>	商品出荷クラス	<input type="text"/>	上限濃度	<input type="text"/>
最終用途	<input type="text"/>	出荷条件コード	<input type="text"/>	オーダー・タイプ	1
関税状況	<input type="text"/>				

「オーダー明細価格グループの定義」フォーム

第 9 章

補足調整の使い方

この章では、補足調整の概要、共通フィールド、および次の方法について説明します。

- 無償品調整の作成
- 無償品カタログの使い方
- 販売高アップセルの使い方
- 丸め規則の使い方
- 扱い高基準の設定
- リベート調整の使い方
- 変動価格調整の使い方
- 通過逡減の使い方
- 粗利益調整の作成
- 期間延長条件調整の作成
- シップ・アンド・デビット調整の使い方

補足調整について

従来の品目行ごとの割引に加えて、販売促進のための補足調整を作成できます。たとえば、販売時に無償品を付録として付けたり、オーダーの合計金額に基づいて値引(価格再設定)を行うことにより販売促進が図れます。また、見越し調整を作成して、販売コミッションを見越し入力することもできます。

無償品は、販売促進や展示用、または顧客がオーダーした製品の付録として使用される品目です。たとえば、特定の製品に対して、展示ケース、ポスター、またはボタン、帽子、シャツなどの販促品を無償品として提供し、販売促進に役立てることができます。

見越し調整を行うことにより、コミッションやロイヤリティなどの仕訳を入力できます。これにより、オーダー価格を変更することなく、各金額をトラッキングできます。

重要: 受注オーダーの価格管理では、見越し調整、シップ・アンド・デビット調整、および価格再設定のみを使用できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「リベートの設定」、「リベートの設定について」

この章で使用する共通フィールド

集計階層レベル

購買構造で金額またはリベートを集計する階層レベルを入力します。集計階層レベルは、受取先階層レベル以下に設定してください。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを意味します。階層レベルが1より大きくなるに従って、購買構造のレベルは低くなります。

価格管理固定情報プログラム (P41001) で価格設定の構造タイプに購買構造を設定すると、この集計階層レベル・フィールドが表示されます。このフィールドは、指定階層に定義されている住所別累積番号の扱い高基準調整の集計に使用されます。

受取先階層レベル

購買構造の受取先階層レベルを入力します。受取先とは、累積されたリベート金額の受取先です。購買構造では、階層レベル1が最上位のレベルを表します。階層レベルが1より大きくなるに従って、購買構造のレベルは低くなります。

レベル区切りタイプ

F4072テーブル内のレベル区切り方法を指定します。サポートされているレベル区切りは次のとおりです。

数量: 受注オーダーで指定された数量に基づいて調整値が決まります。単位別に調整区切りを設定できます。

重量: 受注オーダー明細行の品目に割り当てられている重量を使用して、調整レベル区切りが決まります。

金額: 受注オーダー明細行の合計金額を使用して、調整レベル区切りが決まります。通貨換算を選択した場合は、金額によるすべてのレベル区切りが、通貨コードの小数点表示形式に基づいて保存、表示されます。

リベート受取先

ユーザー定義コード (UDC) 40/RA に設定されている値を入力して、リベート受取先を指定します。この受取先が、顧客のリベートがしきい値に達した場合に作成するクレジット・オーダーの受取先になります。顧客と受取先の住所は、同じでも異なってもかまいません。受取先はクレジット・オーダーの販売先住所となります。

仕入先リベート・タイプ

UDC 45/SR に設定されている値を入力して、リベート請求の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 受注オーダー (デビット・メモ) を作成して保証請求を作成する。
- 2: 購買オーダー (クレジット・オーダー) を作成して保証請求を作成する。

注意: このフィールドは、通常の購買リベートおよび仕入先販売証明リベートに対してのみ有効です。通常の購買リベートとは、ターゲット・システムが1 (購買) で、かつ調整制御コードが5 (リベート) の調整のことです。仕入先販売証明リベートとは、ターゲット・システムが" "(受注)、かつ調整制御コードが7 (販売証明リベート) の調整のことです。どちらのリベート・タイプも仕入先リベートになります。

このフィールドは、リベート請求の生成プログラムで使用されます。リベート請求の生成プログラムを実行すると、リベートを請求するかどうか決まります。請求する場合は、仕入先に請求書を送付するか (リベート請求タイプが1の場合)、または貸方の買掛金に入力する (リベート請求タイプが2の場合) かのいずれかが決まります。

無償品調整の作成

この項では、無償品調整の概要、事前設定、および無償品調整の作成方法について説明します。

無償品調整について

無償品は、通常は販促品として使用されます。たとえば、販売促進として、顧客がモーターオイルを10ケース購入した場合に、1ケースを無料で付けることができます。無償品は、販売促進や展示用、または顧客がオーダーした製品の付録として使用することもできます。無償品はたとえば、展示ケース、ポスター、または、ボタンや帽子などの販促品であり、販売促進に役立てることができます。

無償品を添付する有効な調整を作成する必要があります。無償品の基準を設定する際に、無償品の価格と数量の適用方法を定義します。また、無償品の価格が実際に販売される製品価格にどのように影響するかについても定義します。

無償品カタログに複数の無償品を指定できます。これにより、顧客は、オーダーの品目が基準を満たした場合に受け取ることで無償品を選択できます。オーダーの品目が基準を満たしており、無償品カタログに含まれている場合、ユーザーは、受注オーダーまたは購買オーダーに対して提供される無償品を参照するよう求める通知を受け取ります。

無償品は、すべての調整で添付できます。次の項目を指定します。

- 無償品の数量
- 無償品が在庫品目かどうか
- 無償品の単価

ほとんどの場合、この価格はゼロになります。ただし、ある品目を購入すると対象品目を割引価格で購入できるといった販売促進を展開する場合は、対象品目に価格を指定できます。

無償品調整の定義時に価格グループを入力した場合は、調整明細ではその価格グループがデフォルトとして使用され、変更することはできません。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理を使用した無償品調整

購買オーダー時に、販売促進や展示用、またはオーダーした製品の付録として、仕入先から商品を受け取ることがあります。その場合は、受注オーダーの調整と同じ方法で、購買オーダーの無償品調整を入力します。

入手可能な無償品のカタログを設定できます。無償品カタログを使用すると、仕入先から提供されている販売促進をトラッキングできます。無償品提供の基準を満たす数量の品目をオーダーすると、無償品カタログ・プログラム (P4502) から無償品の選択を求められます。

注意: 無償品カタログ・プログラムでは、JD Edwards EnterpriseOne調達管理の行レベルでの調整がサポートされています。無償品カタログでは、購買オーダーのバスケットまたはオーダー・レベルの調整はサポートされていません。

事前設定

この項のタスクを完了するには、調整を定義する必要があります。

参照: [第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整明細の設定」、73ページ](#)

無償品調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
無償品の改訂	W4073A	<p>「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」</p> <p>「調整明細の処理」フォームで調整名を入力して、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「優先階層の選択」フォームで階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「価格調整明細の改訂」フォームでレコードを追加して、「ロー」メニューの「無償品」を選択します。</p> <p>または、「調整明細の処理」フォームで、無償品が設定されている調整を検索し、「選択」をクリックします。</p> <p>「価格調整明細の改訂」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「無償品」を選択します。</p>	無償品調整の作成と改訂を行います。

無償品調整の作成

「無償品の改訂」フォームにアクセスします。

価格/調整詳細の改訂 - 無償品の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

開始数量

1.0000

PL

通貨コード

USD

有効開始日付

2003/04/17

有効期限

2010/12/31

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

品目 No.

2435

オーダー数量

1

単位

EA

関連価格

.00

行タイプ

S

処理タイプ

1

オーダー当たり数量

1.00

無償品カタログ

「無償品の改訂」フォーム

オーダー数量

このトランザクションによって変更する数量を入力します。

関連価格

価格設定または割引方針に設定されている関連品目の価格を入力します。たとえば、1つ購入すると2つ目は無料である場合、無料の品目が関連品目になります。関連品目の数量単位で、価格を入力します。

オーダー当たり数量

「価格調整明細の改訂」フォームの「開始レベル」で入力した数量に加えて、追加の無償品を受け取るのに購入する必要がある数量を指定します。

たとえば、「開始レベル」の値が10、「オーダー当たり数量」の値が3の場合は、13個以上のオーダーの場合に、顧客は追加の無償品を受け取ります。

オーダー数量が定義したレベル区切りに達した場合に、顧客は無償品を受け取ります。さらに、オーダー数量が「開始レベル」フィールドの値を超過する場合は、「オーダー当たり数量」の値の倍数に達するたびに無償品を受け取ります。この例では、10個オーダーすると最初の無償品を受け取り、さらに3個ごとに無償品を受け取ります。オーダーが25の場合、顧客は「オーダー数量」フィールドに指定された数に5を掛けた数の無償品を受け取ります。5は、開始レベルの値の超過部分に3の倍数がいくつあるかを示しています。「開始レベル」の値が10なので、13、16、19、22、25の計5回分の無償品を追加で受け取ることができます。

次の計算が実行されます。

オーダー当たり数量係数 = [(オーダー数量) - (開始レベル)] / (オーダー当たり数量)

無償品合計数 = [(無償品オーダー数量) + (無償品オーダー数量)] × (オーダー当たり数量係数)

無償品カタログの使い方

この項では、無償品カタログの概要、事前設定、および無償品カタログの作成方法について説明します。

無償品カタログについて

無償品カタログには、複数の無償品を指定できます。これにより、顧客はオーダーが基準を満たした場合に受け取る無償品を選択できます。たとえば、サラダ・ドレッシングを10ケース以上オーダーした顧客は、無償のサラダ・ドレッシングを1ケース受け取るとします。顧客は、無償品カタログから好みのサラダ・ドレッシングを選択します。

無償品カタログは、無償品の基準を満たす品目、数量またはその両方をオーダーした場合に有効になります。受注オーダーまたは購入オーダーに該当する品目または数量を入力すると、無償品カタログの参照を求めるプロンプトが表示されます。

無償品の改訂プログラム(P4073)で、カタログに含まれている無償品の価格を設定します。無償品を提供する有効日付も指定できます。

受注オーダーには、バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの調整で適用される無償品の組合せを設定できます。無償品調整が適用される場合、無償品は、そのバスケット・グループまたはオーダー・グループの最初の明細行に関連付けられます。

注意: 複数の無償品がオーダーの同じ明細行の品目に対して提供される場合(たとえば、1つ購入すると2つ目は無料になる販促品を10購入する場合)、同じ無償品が全10品目に対して提供されます。明細行の無償品が分割されることはありません。

無償品の提供

オーダー入力時に品目が無償品の基準を満たすと、システムから通知があります。オーダーが基準を満たしたときに「OK」をクリックすると、無償品が提供されることを示す警告メッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、無償品の提供プログラム(P45731)にアクセスして、無償品を選択します。

注意: オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、受注オーダー入力プログラム (P4210) または購買オーダーの入力プログラム (P4310) で、無償品の警告メッセージを表示するための処理オプションを有効にする必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 受注オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの「処理」タブにある「デフォルトの無償品に対する警告」を設定します。
- 購買オーダーが無償品の基準を満たした場合にメッセージが表示されるようにするには、購買オーダーの入力プログラム (P4310) の処理オプションの「表示」タブにある「無償品カタログ」を設定します。

無償品カタログの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
無償品カタログの処理	W4502A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「無償品カタログ」	無償品カタログを検索します。
無償品カタログの改訂	W4502B	「無償品カタログの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	無償品カタログの作成と改訂を行います。
無償品の提供	W45731A	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。 「受注オーダー明細の改訂」フォームでオーダー情報を入力して、「OK」をクリックします。	無償品カタログから無償品を提供します。 オーダー品目が無償品の基準を満たした場合、オーダー入力時にシステムから通知があります。
無償品カタログからの品目選択	W45731B	「無償品の提供」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「無償品カタログからの品目選択」を選択します。	無償品カタログから品目を選択します。 オーダーを照会すると、提供されている無償品がオーダーの詳細グリッドに表示されます。

無償品カタログの作成

「無償品カタログの改訂」フォームにアクセスします。

無償品カタログ - 無償品カタログの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

無償品カタログ DRINK スポーツ・ドリンク

レコード 1-7 グリッドのカスタマイズ

	品目 No.	記述	有効開始日付	有効期限
<input type="radio"/>	4100	Sport Drink, Li...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>	4111	Sport Drink, Gr...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>	4112	Sport Drink, Le...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>	4113	Sport Drink, Ch...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>	4114	Sport Drink, Or...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>	4115	Sport Drink, Str...	2003/02/25	2010/12/31
<input type="radio"/>				

「無償品カタログの改訂」フォーム

無償品カタログ

無償品の基準を満たした場合に顧客が選択できる品目グループを入力します。

無償品カタログと記述を入力すると、UDC 45/FGに新しいレコードが作成されます。

販売高アップセルの使い方

この項では、販売高アップセルの概要、事前設定、および販売高アップセル価格の作成方法について説明します。

販売高アップセルについて

大量購入による値引きを顧客に提案する場合は、調整と、オーダー行がアップセル通知の条件を満たしていることを通知するタイミングを決定する許容率を指定できます。

アップセル通知を有効にするには、受注オーダー入力プログラムの処理オプションの「販売高アップセル」タブにある「許容範囲内の販売高アップセルに対する警告」に許容率を入力してください。この許容率で、いつ通知を出すかを指定します。受注オーダー行のオーダー数量をアップセルのパーセント分のみ増やした値が計算され、アップセルの機会がチェックされます。次に、その増加を行った場合に次の数量区切りに到達するかどうか判断されます。

たとえば、アップセル調整の数量区切りが10 EA(個)、許容率が15%に設定されているとします。オーダー数量として9 EAを入力した場合、9 EAの15%増しは10.35 EAになり、調整の次のレベル区切りの基準を満たしているため、アップセル警告が表示されます。この場合、許容率を10%に設定すると、9 EAの10%増しは9.9 EAであるためアップセル警告は表示されません。この例では次の計算式が使用されます。

(オーダー数量 × 許容率) + オーダー数量

(9 × .15) + 9 = 10.35

価格調整タイプ・テーブル(F4071)で、販売高アップセル情報が処理されます。

受注オーダー明細行入力時に、オーダー行にアップセルの機会があると、通知が表示されます。警告メッセージが表示され、「アップセルあり」フィールドにチェック・マークが表示され、「ロー」メニューの「販売高アップセル」が有効になります。そのオーダー行に存在するすべてのアップセルの機会が表示されます。理由コードとレベル区切りを指定して、「受注オーダー明細の改訂」フォームに選択した数量を反映させ、受注オーダー価格および価格履歴 (P4074) プログラムを更新します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー入力について」

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 受注オーダー入力プログラムの処理オプションの「販売高アップセル」タブにある「許容範囲内の販売高アップセルに対する警告」に許容限度率を定義します。
- 受注オーダーの入力時にアップセルの機会の検索に調整を含めるかどうかを価格調整の定義で指定します。

販売高アップセルの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
調整タイプの数量区切り	W40722E	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」 受注オーダーの入力ステップを実行します。 レベル区切りを選択します。選択した数量が「受注オーダー明細の改訂」フォームに表示され、ロー終了時に受注オーダー価格が更新されます。この情報は、価格履歴プログラムに表示されます。	販売高アップセル価格を作成します。

販売高アップセル価格の作成

「調整タイプの数量区切り」フォームにアクセスします。

丸め規則の使い方

この項では、丸め規則の概要、事前設定、および丸め規則の設定方法について説明します。

丸め規則について

単価の計算に適用する丸め規則を指定できます。たとえば、丸め金額を最も近いセントの値または50の倍数に定義できます。また、合計金額が1,000.00より大きい場合にセントを切り捨てるかどうかを指定することもできます。丸め規則は、顧客、品目、通貨コードなどに基づいて設定できます。

丸め規則の適用箇所は、価格調整スケジュールに表示される丸め調整の順序に従います。次の表は、丸め規則を使用する2つの調整スケジュールを示しています。

スケジュール	順序No.
スケジュールA	10基本価格調整 20販売促進割引 30丸め調整 この例では、丸め調整は最後に処理されます。最終単価の計算前に丸め調整が行われます。
スケジュールB	10基本価格調整 20丸め調整 30見越し調整 この例では、丸め調整は見越し調整の処理前に行われます。

丸め規則を使用するには、価格調整の定義(P4071)プログラムで調整制御コードを丸め調整に指定する必要があります。丸め情報は「価格調整明細」フォームに表示され、受注管理や調達管理などのターゲット・アプリケーションの規則が計算されます。

丸め規則の処理では、次のテーブルが使用されます。

- 価格調整明細テーブル(F4072)
- 価格調整元帳テーブル(F4074)
- 価格調整履歴ワークファイル・テーブル(F40UI74)
- 価格調整タイプ・テーブル(F4071)
- 価格調整スケジュール・テーブル(F4070)

事前設定

調整制御コードUDCテーブル(40/CO)に丸め調整UDC(8)を設定します。

丸め規則の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
丸め規則の改訂	W95701B	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「丸め規則の設定」 「丸め規則の処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	丸め規則を設定します。
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	丸め規則の調整制御コードを指定します。
価格調整明細の改訂	W4072A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」 「調整明細の処理」フォームで「調整コード」フィールドに値を入力して、「追加」ボタンをクリックします。 「優先階層の選択」フォームで優先階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	丸め規則を調整に添付します。

丸め規則の設定

「丸め規則の改訂」フォームにアクセスします。

丸め規則の設定 - 丸め規則の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

丸め規則 * Custom 丸め規則記述 Round to end in 3 and 7

テスト・ワークベンチ

入力テスト値 出力テスト値

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

順序番号	演算子1	相関演算子	演算子 2	プール演算子	置換値演算子	置換値	置位
10	-2	>=	6			7	
20	-2	<=	5				3

「丸め規則の改訂」フォーム

丸め規則

丸め規則の名前を入力します。丸め規則の内容がわかる名前にします。

丸め規則記述

丸め規則の記述を入力します。

順序番号	丸め計算実行時に、丸めエンジンで使用される処理順序を入力します。
演算子1	「入力テスト値」の数字の検証位置を入力します。位置は、小数点との相対値で指定します。-2は小数点の右側2番目の位置を指し、2は小数点の左側2番目の位置を指します。たとえば、「入力テスト値」が123.45である場合、この値を-1に設定すると、小数点の右側1番目の位置(この場合は4の数字)が検証されます。
相関演算子	相関記号を示すUDC(H95/RO)を入力します。この相関記号を使用して、「演算子1」と「演算子2」の値が検証されます。値は、>、<、=、>=、<=および<>です。
演算子2	検証に使用する値を入力します。指定位置の数字が、相関演算子とこの値を使って指定した条件を満たす場合、ここで作成する置換規則が適用されます。
ブール演算子	行と行の論理関係を示す値を入力します。文字列「OR」、「AND」、またはブランクを指定します。
置換値演算子	システムのフィールドの詳細を説明する追加テキストを入力します。
置換値	置換位置で置換する値を入力します。
置換位置	置換位置を入力します。
スキップ先	計算を終了する場合は「END」、変更不要な場合はブランクにします。
入力テスト値	<p>行と行の論理関係を示す値を入力します。文字列「OR」、「AND」、またはブランクを指定します。</p> <p>新しい規則をテストする場合にこのフィールドを使用します。このフィールドに値を入力したら、「フォーム」メニューの「テスト」を選択します。テスト結果が「出力テスト値」フィールドに表示されます。</p>

扱い高基準の設定

この項では、扱い高基準の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 扱い高基準調整の有効化
- 扱い高基準情報の設定

扱い高基準について

扱い高基準を使用すると、製品または製品グループのオーダー入力時に割引価格を提供できます。割引の基準には、金額、パーセンテージ、または再調達価格を指定します。また、扱い高基準は、一定レート価格設定または通貨通減価格設定のいずれかに基づいて設定します。購買構造使用時は、「価格調整の定義」フォームの「集計階層レベル」の値を指定して、購買構造の金額またはリポートを集計するレベルを指定できます。

扱い高基準調整は、クレジット・オーダーの他に、特定の期間または特定のオーダー番号に対して設定できます。前回のオーダー量と現在のオーダー量を組み合わせて、価格管理に使用するレベル区切りが決定されます。扱い高基準調整履歴の照会プログラム(P45200)を使用して、扱い高基準調整の累計を表示できます。

注意: 無償品カタログ・プログラム (P4502) では、扱い高基準を使用できません。

オーダーを入力する際、そのオーダーが変更されていた場合は、扱い高基準が表示されます。ただし、扱い高基準割引の対象となる既存オーダーを変更した場合は、オーダー入力時にオーダーの価格再設定は行われません。そのオーダーと後続のオーダーに変更を反映させるには、販売高レベル調整の再適用レポート (R45900) を実行する必要があります。

受注オーダー行が分割されると、リベート取引集計 (F4078) テーブルとリベート取引明細 (F4079) テーブルにその情報が書き込まれます。扱い高基準処理時には、次のテーブルも使用されます。

- F4102
- F4074
- F40UI74
- 受注オーダー明細 (F4211)

関連項目:

[第 7 章、「購買構造の利用」、103 ページ](#)

[第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、135 ページ](#)

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」

事前設定

受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの「処理」タブにある「販売高トランザクションの累計の調整」に値を指定します。

扱い高基準の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで調整を検索して、「選択」ボタンをクリックします。 「価格調整の定義」フォームの「フォーム」メニューから「調整制御の修正」を選択します。	扱い高基準調整を有効にします。
価格調整明細の改訂	W4072A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」 「調整明細の処理」フォームで扱い高基準調整を検索して、「選択」ボタンをクリックします。	扱い高基準情報を設定します。

扱い高基準調整の有効化

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

扱い高基準情報の設定

「価格調整明細の改訂」フォームにアクセスします。

扱い高単位	扱い高基準調整の数量の記録に使用される単位(たとえば、個数は「EA」、箱数は「BX」)を入力します。
扱い高通貨	扱い高基準価格調整の基準となる通貨コードを入力します。
オーダー数	扱い高基準調整用に定義されているオーダー数を入力します。

リベート調整の使い方

この項では、リベート調整、リベート見越し調整、通常の購買リベート、仕入先販売証明リベート、階層別リベートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- リベートしきい値の定義
- 仕入先販売証明リベートの作成

リベート調整について

リベートは、一定期間に大量の商品またはサービスを顧客に購入してもらう目的で使われます。顧客の購買量が一定のしきい値に達した場合に、顧客にリベートを提供できます。

金額履歴テーブルに集計されている、複数のオーダーの合計金額、合計数量または合計重量に基づいて、リベートを計算します。リベート金額は、総勘定元帳にも集計し負債を明確にします。

顧客の売上合計がリベートしきい値に達すると、リベート金額が計算されます。この時点で、リベート受取先に対してクレジット・オーダーを生成できます。

リベート調整を定義し、適用対象となる各受注オーダーのうち、見越し調整する割合を指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの入力」、「受注オーダー見出しおよび明細情報の入力」

リベート見越し調整の作成例

この例では、顧客4183、品目CLRD100に対して売上高リベートを定義します。このためには、次のことが必要です。

- 総勘定元帳にリベート情報を見越し入力するようにリベート調整を定義します。
係数を4%に定義し、各オーダー明細行の4%を総勘定元帳に見越し入力するようにします。
- リベートしきい値の定義

100,000を超えた場合に2%、200,000を超えた場合に3%のリベートを支払うように設定します。通貨はUSDです。リベートの有効期間は、今年の6月20日から12月31日です。

6月30日に、顧客4183、品目CLRD100、金額50,000のオーダーを入力します。

売上更新時に、売上の数量と金額が売上高実績に記録されます。売上合計がリベートしきい値と比較され、リベート金額を計算する必要があるかどうかが決まります。また、総勘定元帳に仕訳が作成され、リベートの負債見込み額が計上されます。

この例では、オーダー合計が最初のリベートしきい値より少ないため、リベート金額は計算されません。この情報が売上高実績に反映されます。

- オーダー実績合計 = 50,000
- リベート金額 = 0

バッチ・タイプIの仕訳が作成され、次の売上が記録されます。

- (借) 売掛金 = 50,000
- (貸) 売上 = 50,000

次の仕訳が作成され、リベート債務(オーダー金額の4%)が記録されます。

- (借) 見越し割引 = 2,000 (50,000 × 4%)
- (貸) リベート未払い金 = 2,000

売上高実績リベート勘定に累計される金額に対して、AAI(自動仕訳)4280を定義します。

次の情報を使用して、顧客4183の品目CLRD100の追加オーダーを入力します。

- 7月15日 = 100,000
- 7月30日 = 100,000

売上更新時に、売上高実績に次の項目が記録されます。

- オーダー実績合計 = 250,000
- リベート金額 = 7,500

顧客のオーダー実績が2番目のリベートしきい値に達すると、リベート金額がオーダー実績合計の3%で計算されます(250,000 × 0.03 = 7,500.00)。

仕訳の作成では、見越し調整にある4%が使用されます。売上更新時に、この2つのオーダーに対して次の仕訳が作成されます。

- (借) 売掛金 = 200,000
- (貸) 売上 = 200,000
- (借) 見越し割引 = 8,000
- (貸) リベート未払い金 = 8,000

注意: 元帳のリベート未払い金合計は10,000 (2,000 + 8,000) ですが、売上高実績のリベート未払い金額は7,500になります。

8月1日にクレジット・オーダーを作成します。元帳に仕訳は作成されていますが、クレジット・オーダーを発行するには、先にクレジット・メモを送信する必要があります。送信したクレジット・メモに基づいて、クレジット・オーダーが作成されます。正しいAAIを使用するため、クレジット・オーダーの元帳クラス・コードが調整に読み込まれます。販売先住所には、調整で定義した受取先が使用されます。

次に、売上更新プログラムを実行して、クレジット・オーダーの元帳仕訳を作成します。

- (借) 収益 = 7,500

- (貸)売掛金 = 7,500

リベート金額のフィールドをリセットするようにリベートしきい値を定義した場合は、売上高実績テーブルは次のように更新されます。

- リベート金額 = 0
- 支払済リベート = 7,500

リベート情報の検討

リベート実績照会プログラム(P4078)を使用して、各顧客のリベート履歴を取り込むことができます。このプログラムを使用して、過去と現在のリベート状況やリベート条件を満たすオーダーを確認できます。販売リベート履歴記録レポート(R42780)では、リベート条件を満たす顧客およびその売上高が表示されます。

リベート見越し調整について

リベート調整を定義し、適用対象となる各受注オーダーのうち、見越し調整する割合を指定します。

調整設定時に、リベート見越し調整とリベート受取先を指定してください。リベートの調整定義を設定しないと、その他のリベート情報にはアクセスできません。

リベート見越し調整の詳細は、調整スケジュールの設定時に定義します。リベートの価格調整詳細を定義すると、見越し勘定科目に準備される金額が決まります。しきい値に達した顧客に支払うリベート金額はこの見越し勘定科目から支払われます。「価格調整明細の改訂」フォームの「係数」フィールドと「基準コード」フィールドに入力した情報により、該当する各受注明細行に対して見越し調整するリベート金額が計算され、総勘定元帳に転記されます。

顧客のリベート適用対象限度を設定するには、リベートしきい値を使用します。売上高実績で累計した顧客販売合計としきい値を比較して、顧客がリベート対象であるか、どのレベルであるかが決まります。

通常の購買リベートについて

通常の購買リベートでは、顧客は仕入先から一定金額の購入を行った後に、その仕入先からリベートを受け取ることができます。通常の購買リベートは、購買オーダーにのみ適用されます。顧客は、通常の購買リベートの受取先としてリベート履歴に記録されます。

次の表に、通常の購買リベートを顧客に適用するための2つの方法を示します。

方法	定義
売掛金請求書(デビット・メモ)	デビット・メモを使用し、リベート請求の生成バッチ・プログラム(R42770)を実行して、受注オーダーを作成します。このプログラムでは、販売先顧客に仕入先の住所録番号が使用されます。受注オーダーを基に、仕入先が流通センターまたは個人に請求書金額を支払い、リベートを処理します。
買掛金貸方(クレジット・オーダー)	クレジット・オーダーを使用して、リベート請求の作成バッチ・プログラムを実行して、購買オーダー明細テーブル(F4311)にクレジット・オーダーを生成します。流通センターまたは個人は、貸方と仕入先への支払を相殺するか、または貸方をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに移して請求書を生成します。

購買オーダーを作成すると、価格履歴プログラムで通常の購買リポートが表示されます。買掛金伝票入力(P0411)プログラムを使用して、リポートが見越し調整されます。

通常の購買リポートには、次のAAIが使用されます。

- 4515: 見越しリポート
- 4520: 未収リポート

伝票照合により、通常の購買リポートが見越し計上され、F4078テーブルとF4079テーブルが更新されます。通常の購買リポート処理時には、次のテーブルも使用されます。

- 購買リポート実績F4343
- F4071
- F4074
- F40UI74

関連項目:

第 9 章、「補足調整の使い方」、「リポート調整の使い方」、135ページ

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、60ページ

仕入先販売証明リポートについて

流通業者が仕入先品目の一定量を顧客に販売した場合、仕入先販売証明リポートを使用して、仕入先からリポートを受け取ることができます。たとえば、流通センターが特定の顧客または顧客グループに新製品を販売した場合にリポートを受け取るようにすることで、仕入先は新製品の販売を促進できます。

次の表に、仕入先販売証明リポートを流通センターまたは個人に適用するための2つの方法を示します。

方法	定義
売掛金請求書(デビット・メモ)	デビット・メモを使用し、リポート請求の生成バッチ・プログラムを実行して、受注オーダーを作成します。このプログラムでは、販売先顧客に仕入先の住所録番号が使用されます。受注オーダーを基に、仕入先が流通センターまたは個人に請求書金額を支払い、リポートを処理します。
買掛金貸方(クレジット・オーダー)	クレジット・オーダーを使用して、リポート請求の作成バッチ・プログラムを実行して、買掛金元帳にクレジット・オーダーを作成します。流通センターまたは個人は、貸方と仕入先への支払を相殺するか、または貸方をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに移して請求書を生成します。

受注オーダー入力プログラムを使用して、仕入先販売証明リポートを適用します。「価格履歴」フォームで、「フォーム」メニューの「仕入先証明の表示/非表示」オプションを選択すると、受注オーダー行に販売証明リポートが表示されます。

注意: 不要な調整は取り消してください。ただし、仕入先販売証明リポートが適用されている受注オーダー行の調整を削除する場合は、仕入先販売証明リポートを表示してから、受注オーダー行の調整を削除する必要があります。

仕入先販売証明リポートには、次のAAIが使用されます。

- 4515: 見越しリポート
- 4520: 未収リポート

受注オーダーを入力したら、売上更新バッチ・プログラム(R42800)を実行して総勘定元帳にリポートを転記する必要があります。このプログラムにより、F4078テーブルとF4079テーブルが更新されます。仕入先リポート処理時には、次のテーブルも使用されます。

- F4071
- F4074
- F40UI74

関連項目:

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、60ページ

JD Edwards EnterpriseOne 受注管理 9.0 製品ガイド、「受注オーダーの処理」

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「伝票の作成」、「伝票の作成」

階層別リポートについて

階層別リポートは、購買構造内にリポートを定義する必要がある場合に作成します。購買構造の集計リポートは、通常のリポートとは異なります。リポートを見越し計上する階層やリポートを適用する受取先階層を個別に設定できます。また、購買構造の階層リポートを使用して、顧客(親)の子会社(子)にリポートを適用できます。

階層別リポートを設定する場合は、リポートを見越し処理するレベルを指定します。また、リポートの受取先レベルも指定します。

価格調整スケジュール・プログラムで集計階層を指定します。また、リポート集計を子の階層に適用する場合は、「調整スケジュールの改訂」フォームで「継承フラグ」を選択する必要があります。

受取先には、顧客の住所番号または購買構造の階層レベルのいずれかを指定します。受取先階層のレベルが、集計階層に定義した階層レベルと同じか、またはそれより上のレベルであることを確認してください。

受取先と集計値が決定すると、階層別リポートは他のすべてのリポートと同様に処理されます。

事前設定

価格管理固定情報の「価格調整の決定方法」フィールドを、価格設定の住所番号、価格調整スケジュール、またはその両方を使用するように設定します。

関連項目:

第 7 章、「購買構造の利用」、103ページ

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「親/子関係と組織構造の設定」

リベート調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整の定義	W4071A	<p>「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整スケジュールの改訂」</p> <p>「調整スケジュールの処理」フォームで処理対象の調整スケジュールを検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「価格調整スケジュールの改訂」フォームで調整レコードを選択して、「ロー」メニューの「調整名」を選択します。</p>	リベート調整のタイプを指定します。たとえば、リベート見越し調整を定義できます。
価格調整スケジュールの改訂	W4070C	調整を定義したら、「価格調整の定義」フォームで「OK」ボタンをクリックします。	価格調整に関するスケジュール情報の入力および改訂を行います。
リベートしきい値の改訂	W4077B	<p>「価格調整スケジュールの改訂」フォームで調整レコードを選択して、「ロー」メニューの「調整明細」を選択します。</p> <p>「調整明細の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「優先階層の選択」フォームで優先階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「価格調整明細の改訂」フォームでレコードを選択して、「OK」ボタンをクリックします。</p> <p>「調整明細の処理」でレコードを選択して、「ロー」メニューの「リベート」を選択します。</p> <p>「リベートの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p>	有効日付、しきい値金額、通貨コード、単位などのリベート情報を指定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。 「調整制御コード」の「仕入先販売証明」を選択して、調整を仕入先販売調整に指定します。	通常の購買リベートを作成します。
価格調整の定義	W4071A	「調整制御の修正」フォームで「OK」ボタンをクリックします。	リベート・タイプ、リベートの処理方法、リベートの計算レベル(たとえば、行レベル、オーダー・レベル)などのリベート情報を指定します。

リベートしきい値の定義

「リベートしきい値の改訂」フォームにアクセスします。

価格/調整スケジュールの改訂 - リベートしきい値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整コード: REBATE

住所番号: 4242

有効開始日付: 1998/10/16

有効期限: 2020/12/30

通貨コード: USD

単位: EA

品目No.: 210

ビジネスユニット: 30

リベート・タイプ:

リベート計算方法: 1 一定レート

レコード 1-3 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	しきい値	リベート係数	実績 リセット
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5000	1.0000	0
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	10000	2.0000	0
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			

「リベートしきい値の改訂」フォーム

しきい値

リベートを適用するかどうか決定するために販売合計値と比較する値を入力します。しきい値には、数量、重量、または販売額を定義できます。しきい値タイプの定義は、「価格調整の定義」の「レベル区切りタイプ」で設定します。

リベート係数

リベート金額の計算方法を指定します。「リベート・タイプ」フィールドにコードを入力して、リベートの適用方法を制御します。

たとえば、一定金額を適用したり、売上合計のパーセントを計算するように指定できます。

実績リセット

リセットする場合は、「1」を入力します。顧客のリベート合計が一定の値に達した状態でクレジット・オーダーを作成すると、販売実績の合計がリセットされ、支払済リベートがゼロに設定されます。

リセットしない場合は、「0」を入力します。クレジット・オーダーの作成時に、販売実績の合計と支払済リベートはリセットされず、現在の値が維持されます。

仕入先販売証明リベートの作成

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

変動価格調整の使い方

この項では、変動価格調整の概要と、次の方法について説明します。

- 変動調整の作成
- 計算式調整の作成

変動価格調整について

変動価格調整を使用して、価格が頻繁に変動する品目の価格および有効日付を設定します。価格変数テーブル(F4075)に基づく調整を作成できます。

F4075テーブルから価格調整を作成した場合は、必ずテーブルに一時変更調整を添付します。これにより、変動価格調整に応じて他の価格もすべて一時変更できます。

計算式は、複雑な価格構造を定義するときに使用できるツールです。簡単な式から複雑な式まで自由に定義できます。計算式を定義する際、F4075テーブルまたはF4211テーブルのいずれかを参照できます。計算式には、計算単位と通貨コードを指定することもできます。

計算式は、複数の要素から構成されています。この要素は、特定の数値、テーブル、または数学演算を参照または指定します。計算式の各要素は、特殊文字を使って示す必要があります。これらの特殊文字は、システム設定時に価格設定固定情報で定義します。

計算式の値は、一般的な代数式と同じようにして求められます。計算式の例を次に示します。

0.90*&GOLD

各要素の意味は、次のとおりです。

- 0.90は、90%を表しています。
- アスタリスク(*)は、乗算を表しています。
- アンパサンド(&)は、GOLDが変動価格コードであることを表しています。

したがって、この計算式は、品目の価格が金(GOLD)の現行価格の90%であることを示しています。

変動価格調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整明細の改訂	W4072A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」 「調整明細の処理」フォームで「価格調整コード」を入力して、「追加」ボタンをクリックします。 「優先階層の選択」フォームで変動調整の優先階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	適切な調整情報を入力します。
価格変動コードの処理	W4075C	「価格調整明細の改訂」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「価格変動」を選択します。	変動価格コード、単位など、価格変動調整に関する情報を指定します。
価格計算式の改訂	W4076A	「価格調整明細の改訂」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「価格計算式」を選択します。	価格計算式調整の計算式を指定します。 計算式で使用する要素は、システム固定情報で定義する必要があります。
テーブル・フィールドの記述	W4076E	「価格計算式の改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「フィールド」を選択します。	価格計算式にF4211テーブルのフィールドを含めます。
価格変動コードの処理	W4075C	「価格計算式の改訂」フォームで、「フォーム」メニューの「価格変動」を選択します。	価格計算式に価格変動コードを含めます。

変動調整の作成

「価格調整明細の改訂」フォームにアクセスします。

計算式調整の作成

「価格計算式の改訂」フォームにアクセスします。

通過逓減の使い方

この項では、通過逓減の概要と通過逓減調整の作成方法について説明します。

通過逡減について

調整の定義時に、受注オーダー行に通過逡減に基づいて複数の割引の設定および適用ができます。通過逡減とは、あるレベル区切りまたはしきい値金額に達した場合に発生する割引です。これは累計値に基づいて計算され、調整対象の受注明細行の単価に反映されます。通過逡減は、数量または重量を基に計算することもできます。

「価格履歴」フォームの「基準値」フィールドに割引量が、「調整計算式」フィールドに通過逡減式が表示されます。

また、請求書の印刷 (R42565) レポートおよび購買オーダー印刷 (R43500) レポートに通過逡減調整の基準値および係数を表示できます。

注意: 通過逡減は、バスケット・レベルおよびオーダー・レベルの調整には使用できません。また、通過逡減の計算は累積オーダーに対しては行われません。たとえば、顧客が月曜日に10トン、火曜日にさらに10トンの品目をオーダーした場合、価格設定はオーダーごとに行われます。複数のオーダーに対して通過逡減割引を使用するには、扱い高基準を使用して通過逡減を設定する必要があります。

通過逡減割引の例

この例では、基本価格100.00の品目の通過逡減を設定する方法を説明します。次のように品目に割引を適用できます。

- 0から99個: 0%割引
- 100から199個: 10%割引
- 200から299個: 20%割引
- 300個以上: 30%割引

次の情報を使用して、しきい値を設定します。

- 99個: 10%
この割引は、99個を超える数量に適用されます。
- 199個: 20%
この割引は、199個を超える数量に適用されます。
- 299個: 30%
この割引は、299個を超える数量に適用されます。

オーダー数量が250の場合、品目価格は次の方法で計算されます。

- $99(\text{個数}) \times 100.00(\text{価格}) = 9,900.00$
- $100(\text{個数}) \times 90.00(\text{価格}) = 9,900.00$
- $51(\text{個数}) \times 80.00(\text{価格}) = 4,080.00$
- $22,980.00(\text{価格合計}) / 250(\text{個数}) = 91.92(1\text{個当たりの価格})$

受注オーダーの明細行に保持できる単価は1つのみなので、しきい値の対象となる数量ごとに通過逡減の調整を行って最終的な価格が求められます。

関連項目:

第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」、60ページ

第 9 章、「補足調整の使い方」、「扱い高基準の設定」、133ページ

通過逡減の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整の定義	W4071A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、調整を定義するか、または既存の調整を検索して、「選択」ボタンをクリックします。	通過逡減調整を作成します。処理対象の調整には、行レベル調整を指定してください。
価格調整明細の改訂	W4072A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」 「調整明細の処理」フォームで調整行を検索して、「選択」ボタンをクリックします。	通過逡減調整のしきい値を入力します。

通過逡減調整の作成

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

通過逡減の使用

通過逡減調整を使用する場合に選択します。通過逡減調整は、各しきい値レベルから適用される一連のレートに基づいて計算されます。このオプションの選択を解除すると、一定レートの調整が適用されます。一定レートの調整では、該当するしきい値に基づいて価格が計算されます。

注意: 通過逡減を選択した場合、この調整に粗利益調整(基準コード9)は追加できません。

このオプションを選択した場合、「基本価格変更(Y/N)」チェックボックスを選択することはできません。ただし、通過逡減をアップセル調整とともに使用する場合は、「基本価格変更(Y/N)」チェックボックスが有効になります。

次以降の行に情報を入力するときには、しきい値(「開始レベル」)フィールドおよび「係数」フィールドの値以外は、最初のレコードのフィールド値がすべて自動的にコピーされます。たとえば、同じ調整の異なるしきい値に対して、別々の基準名や単位は指定できません。このため、変更可能な値は、「係数」フィールドの値のみとなります。

粗利益調整の作成

この項では、粗利益調整の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 目標粗利益調整の優先詳細の定義
- 目標粗利益調整の上限と下限の定義

粗利益調整について

粗利益調整を使用して、指定したパーセント値を正味価格に追加する調整を定義できます。また、受注明細行に粗利益調整を直接入力し、価格履歴に手動で調整を作成することもできます。

優先情報を使用して、目標粗利益の最小および最大値を定義し、目標に品目、品目グループ、顧客、および顧客グループ・レベルを定義できます。粗利益優先情報を使用して、最小および最大値をパーセントで定義できます。利益がこの範囲に収まらない場合は、エラーが表示されます。

事前設定

受注オーダーで粗利益調整を使用するには、事前に受注オーダー入力プログラム (P4210) の処理オプションの「売上高総利益率」タブにある「売上高総利益率の価格設定」を有効にします。

粗利益の最小および最大値の優先情報を設定するには、UDC 40/APに粗利益の詳細優先タイプ・コードを定義する必要があります。

粗利益調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整明細の改訂	W4072A	<p>「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」</p> <p>「調整明細の処理」フォームで調整レコードを検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「基準コード」フィールドに「9」(粗利益)を入力し、「係数」フィールドに粗利益率を定義します。</p> <p>通貨コードおよびしきい値単位を定義します。</p>	粗利益調整を指定します。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	<p>「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。</p> <p>受注オーダー情報を入力し、「粗利益率」フィールドに粗利益率を入力します。</p>	粗利益率を入力します。
優先定義の改訂	W4071A	<p>「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報名の改訂」</p> <p>「優先タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。</p> <p>目標粗利益調整の詳細優先情報を設定します。</p>	目標粗利益調整を設定します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
優先情報詳細の改訂	W4072A	<p>「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」</p> <p>「優先詳細の処理」フォームの「優先調整名」フィールドに目標粗利益(GPM)を入力し、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>調整を、品目のみに適用するか、品目グループのみに適用するか、またはすべての品目と顧客に適用するかを指定します。</p> <p>「優先情報詳細の改訂」フォームで、調整レベル、単位、有効日付を入力します。</p>	目標粗利益調整の優先詳細を定義します。
優先値の改訂	W4072D	<p>「優先情報詳細の改訂」フォームで、「ロー」メニューの「優先詳細」を選択します。</p> <p>優先順序および目標利益の上限および下限を入力します。</p>	目標粗利益調整の制限を定義します。

目標粗利益調整の優先詳細の定義

「優先情報詳細の改訂」フォームにアクセスします。

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先情報詳細の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ロー(R) フォーム(F) ツール(T)

優先名 GPM 目標粗利益

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	顧客No.	顧客	有効開始日付	有効期限
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4245	Cloud Nine Inc.	2003/02/05	2010/12/31
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4242	Capital System	2008/03/26	2040/12/13
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4244	Creeside Warehouse	2008/03/26	2040/12/13
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4247	Coastal Services	2008/03/26	2040/12/31
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				

「優先情報詳細の改訂」フォーム

目標粗利益調整の上限と下限の定義

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

詳細優先情報詳細の改訂 - 優先値の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(C) ツール(T)

Preference Name: GPM 目標粗利益

詳細優先タイプ: 19 目標粗利益

レコード 1-2	順序No.	比較の下限	比較の上限
1	10.00	20.0000	50.0000

「優先値の改訂」フォーム

- 順序No.** 計算実行時に使用される処理順序を入力します。
- 比較の下限** 調整の下限値を入力します。パーセントの値を指定します。たとえば、下限値に粗利益10%を指定する場合は「10」を入力します。
- 比較の上限** 調整の上限値を入力します。パーセントの値を指定します。たとえば、上限値に粗利益20%を指定する場合は「20」を入力します。

期間延長条件調整の作成

この項では、期間延長条件調整の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 期間延長条件調整の優先詳細の定義
- 期間延長条件調整の支払期間の定義

期間延長条件調整について

割引率を上げるかわりに支払期限を延長する場合に、期間延長条件調整を設定します。期間延長条件調整は、バスケット・レベルの調整です。たとえば、品目のバスケットを設定しておき、バスケット内の品目に対する顧客の購買オーダーが10,000より多い場合に、支払期限を30日以内のかわりに60日以内に変更するように調整を定義できます。

事業所品目に定義される単一バスケットと、期間延長条件調整を設定する場合の拡張バスケットの両方を使用できます。

事前設定

受注明細レコードの価格再設定を有効にして期間延長条件調整を設定できるようにするには、受注明細レコードの価格再設定の繰り返しを可能に設定する必要があります。オーダー・レベル/バスケット・レベル価格プログラム(R42750)の処理オプションの「更新オプションの入力」タブにある「価格再設定の繰り返し許可」フィールドに「1」を入力します。

UDC 40/APに期間延長条件の詳細優先タイプ・コードを定義する必要があります。

期間延長条件調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
優先定義の改訂	W4071A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報名の改訂」 「優先タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	期間延長条件の調整の詳細優先情報を設定します。
優先情報詳細の改訂	W4072A	「詳細優先情報」(G40311)、「詳細優先情報詳細の改訂」 「優先詳細の処理」フォームの「優先調整名」フィールドに期間延長条件の優先情報を入力し、「追加」ボタンをクリックします。 調整レベル、単位、有効日付を入力します。	期間延長条件調整の優先詳細を定義します。
優先値の改訂	W4072D	「優先情報詳細の改訂」フォームで、「ロー」メニューの「優先詳細」を選択します。 「順序No.」、「ビジネスユニット」、および「支払条件コード」の値を入力します。	期間延長条件調整の延長支払条件を定義します。

期間延長条件調整の優先詳細の定義

「優先情報詳細の改訂」フォームにアクセスします。

期間延長条件調整の支払期間の定義

「優先値の改訂」フォームにアクセスします。

順序No. 計算実行時に使用される処理順序を入力します。

シップ・アンド・デビット調整の使い方

この項では、シップ・アンド・デビット調整とシップ・アンド・デビット調整明細の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- シップ・アンド・デビット調整の定義
- 調整残高(P45715)の処理オプションの設定
- シップ・アンド・デビット調整残高の設定

シップ・アンド・デビット調整について

流通業者、仕入先、および製造業者は、特定の部品や製品に関する価格およびコスト変動について契約を交わすことがよくあります。電子産業界では、この契約はシップ・アンド・デビット調整として知られています。

シップ・アンド・デビット処理は、在庫移動業務に役立つよう設計されています。この処理を使用することにより、割引価格を使用して一定期間における販売を促進できます。

シップ・アンド・デビット調整では、在庫原価は変更されません。かわりに、在庫原価は売上原価の引下げとして処理され、会社の粗利益に反映されます。したがって、この調整はコミッション金額にも影響します。

シップ・アンド・デビット調整は仕入先別および品目別に設定できます。通常、シップ・アンド・デビット調整は時間に依存します。仕入先との間の調整用に設定した期間を指定できます。シップ・アンド・デビット処理を使用すると、これらの複雑な調整およびその結果生じる請求処理を管理できます。

最低価格または最高価格を使用し、特定の品目、顧客、品目グループ、顧客グループまたはこれらの組合せの単価を調整するように、シップ・アンド・デビット調整を設定できます。たとえば、ある品目の入荷価格が設定した最低価格または最高価格の範囲内である場合、その品目の単価は調整されません。入荷価格が設定した最低価格より低い、最高価格より高い場合は、その品目の単価が調整されます。

参照: [第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義について」、60ページ](#)

価格マトリックス・プログラム (P4590) を使用して、F4072 テーブルに多数の調整明細レコードを追加し、編集できます。このプログラムを使用すると、調整明細レコードのビューにアクセスでき、価格設定情報を迅速に入力および更新できます。

参照: [第 6 章、「価格設定の使い方」、「価格マトリックスについて」、95ページ](#)

注意: シップ・アンド・デビット契約に販売リベートを含める (デザイン・ウィン契約) 場合は、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムのリベート価格設定調整を使用します。

参照: [第 9 章、「補足調整の使い方」、「リベート調整の使い方」、135ページ](#)

シップ・アンド・デビット品目

調整に使用するシップ・アンド・デビット品目を設定する必要があります。商慣習に従って、各品目の組込/除外規則を設定する必要があります。

注意: 各品目に設定できるのは、組込規則または除外規則のどちらか1つです。ビジネス・プロセスの変更に伴ってシップ・アンド・デビット品目の組込/除外規則を変更する必要がある場合は、全品目を削除してから規則を変更し、品目を再入力する必要があります。

受注オーダー処理のシップ・アンド・デビット

シップ・アンド・デビット調整が設定されている品目およびシップ・アンド・デビット契約が入力されている仕入先を含む受注オーダーで「OK」をクリックすると、シップ・アンド・デビット調整が適用されます。処理オプションの設定に従って、サブシステムまたはバッチ処理で処理されます。

「受注残/完了オーダー照会」フォームから「シップ・アンド・デビット履歴」フォームにアクセスできます。「シップ・アンド・デビット履歴」のデータを使用して、価格設定計算式、原価情報、および契約の明細情報を検討します。また、「シップ・アンド・デビット履歴」では、粗利益の結果を確認できます。

受注オーダーの入力でシップ・アンド・デビット調整を処理する際は、仕入先番号を基本仕入先番号と同じにします。基本仕入先番号は事業所品目で設定するか、またはオーダー入力時に手動で入力します。

調整は時間に依存し、常に変更の可能性があるため、出荷確認や売上更新などの処理時に調整を再評価できるようになっています。シップ・アンド・デビット調整は、受注明細の約束出荷日付に基づきます。実際の出荷日付が約束出荷日付と異なる場合は、契約が再度割り当てられます。

受注オーダー行に割り当てられた調整は、出荷確認時または売上更新の実行時に完了します。

受注オーダー処理時に再計算や契約の再度割当が自動的に行われるようにするには、次のいずれかのプログラムの処理オプションを設定します。

- 受注オーダー入力 (P4210)
- 保留オーダー・リリース (P43070)
- バックオーダー・リリース/レポート (R42118)
- ピッキング・リストの印刷 (R42520)
- 出荷確認 (P4205)
- 売上更新 (R42800)

技術上の考慮事項

次の表に、受注オーダー処理におけるシップ・アンド・デビット調整の処理に使用する技術コンポーネントを示します。

コンポーネント	説明
伝票タイプ SO	シップ・アンド・デビット品目を含む受注オーダーを入力する場合に伝票タイプ SO を使用します。
AAI 4234	シップ・アンド・デビットの見越し勘定および仮勘定の AAI (4234) を設定します。
保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成 (R45800)	売上更新前に、保証請求/保証請求仮払仕訳の作成プログラム (R45800) のバージョンを作成します。シップ・アンド・デビット調整を含むオーダーを処理するときには、顧客売上更新プログラムでこのバージョンを実行します。
コミッション管理 (P42120)	コミッション金額の変更を検討する場合に、コミッション管理プログラムを使用します。コミッション金額の変更は、シップ・アンド・デビット調整を含むオーダーの粗利益のうちの売上原価の引下げに基づいて行われます。

シップ・アンド・デビット保証請求

シップ・アンド・デビット調整の保証請求は、保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムを実行すると作成されます。作成した保証請求は、承認を得るために仕入先に送ることができます。保証請求は、電子データ交換 (EDI) を使用して送信できます。

保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムにより、シップ・アンド・デビット保証請求テーブル (F4576) が更新され、シップ・アンド・デビット履歴テーブル (F4575) 内の期限が終了したデータが削除されます。また、コミッション・レコードも更新されます。

保証請求が承認されると、仕入先の買掛金に反映され、保証請求の金額分減らされます。保証請求の適用は、シップ・アンド・デビット保証請求プログラム (P4576) を使用して、手動または自動で行うことができます。

顧客売上更新プログラムを実行する際には、保証請求/保証請求仮払仕訳の作成のバージョンを作成する処理オプションを設定します。保証請求/保証請求仮払仕訳の作成プログラムを実行すると、オーダー行の借方金額合計の分だけ売上原価勘定が借方計上されます。同じ売上原価勘定の借方金額は、AAI 4234を使用して、見越し勘定または仮勘定に入力する必要があります。また、保証請求レコード/保証請求仮払仕訳の作成プログラムにより、F4576テーブルが更新され、F4575テーブルの期限が終了した調整データが削除されます。

保証請求の承認は、仕入先に送信する前と仕入先から承認された後のどちらでも行えます。シップ・アンド・デビットの保証請求レポート(R47761Z1)を使用して、シップ・アンド・デビット保証請求の未編集レコード・テーブル(F4576Z1)の保証請求レコードを更新します。

仕入先から承認を受けたら、シップ・アンド・デビット更新プログラム(R47762Z1)を実行してF4576テーブルを更新します。

注意: 保証請求が却下された場合は、F4576テーブルを手動で更新する必要があります。

シップ・アンド・デビット調整明細について

シップ・アンド・デビット調整明細では、調整計算に使用されるパラメータを指定します。調整明細では、基準コードを指定することにより柔軟な設定が行えます。シップ・アンド・デビット調整の基準コード(係数値方式)には、「1」または「4」を選択してください。

係数値方式は、仕入先から原価または値引率の情報が提供されているかどうかを考慮して選択します。仕入先との取引に従って、係数値方式を選択します。

シップ・アンド・デビット調整を設定するときに、シップ・アンド・デビット金額を差し引いてから品目原価をトラッキングするよう指定できます。調整定義を調整スケジュールに追加する際に、さらに調整明細を定義できます。

調整残高テーブル(F45715)を参照して、シップ・アンド・デビット調整を適用する数量と日付を確認します。原価情報および計算式に基づいて、仕入先や事業所などのシップ・アンド・デビット調整明細を確認することもできます。

調整残高プログラム(P45715)を使用して、数量情報を変更できます。また、調整の有効終了日付を割り当てることもできます。

最初に、シップ・アンド・デビット調整の調整残高を設定します。次に、パラメータを設定し、調整明細残高の設定時に、調整の残高と明細の関係を割り当てます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- シップ・アンド・デビット調整の優先マスターおよび価格階層を設定します。

参照: [第 5 章、「スケジュールと調整の使い方」、「価格管理階層の設定」、55ページ](#)

- 仕入先カタログの管理で、シップ・アンド・デビット品目の仕入先表示価格を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 調達管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の設定」、「仕入先および品目情報の設定」

- 販売価格管理が有効になっていることを確認します。

参照: [第 3 章、「EnterpriseOne価格管理の設定」、「価格管理の固定情報の設定」、17ページ](#)

シップ・アンド・デビット調整の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
伝票タイプの改訂	W40040B	<p>「シップ・アンド・デビット処理」(G4511)、「伝票タイプの管理」</p> <p>「伝票タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>または、シップ・アンド・デビット処理の設定を行う伝票タイプを検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p>	<p>シップ・アンド・デビット伝票タイプを設定します。</p> <p>シップ・アンド・デビット機能を使用する前に、シップ・アンド・デビット処理を使用できるように伝票タイプを設定する必要があります。</p>
組込/除外規則の設定	W4513C	<p>「シップ・アンド・デビット処理」(G4511)、「シップ・アンド・デビット品目」</p> <p>「シップ・アンド・デビット品目の処理」フォームで品目を検索して、「フォーム」メニューの「組込/除外規則の設定」を選択します。</p>	<p>シップ・アンド・デビット品目を設定します。</p> <p>レコードがすでに存在する場合は、組込/除外規則を変更できません。</p>
調整制御の修正	W4071C	<p>「シップ・アンド・デビット処理」(G4511)、「調整定義」</p> <p>「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。</p>	シップ・アンド・デビット調整を定義します。
価格調整の定義	W4071A	<p>「調整制御の修正」フォームで「シップ・アンド・デビット」オプションを選択し、「OK」ボタンをクリックします。</p> <p>特定の価格グループに調整を適用するかどうかなど、シップ・アンド・デビット調整に関する価格調整オプションを選択します。</p>	シップ・アンド・デビット調整に関する価格調整情報を入力します。
残高の改訂	W45715B	<p>「シップ・アンド・デビット処理」(G4511)、「調整残高」</p> <p>「調整残高の処理」フォームで「調整コード」に値を入力して、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「優先階層の選択」フォームで優先階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p>	シップ・アンド・デビット調整残高を設定します。
調整残高の処理	W45715A	「シップ・アンド・デビット処理」(G4511)、「調整残高」	シップ・アンド・デビット調整明細残高を設定します。

シップ・アンド・デビット調整の定義

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

仕入先とシップ・アンド・デビット契約を締結したら、その契約に基づいて作成される調整情報を定義する必要があります。

ターゲット・システム 受注管理や調達管理など、価格調整でサポートされている JD Edwards EnterpriseOne システムを選択します。

調整残高 (P45715) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、調整残高プログラムでレコードを表示するかどうかを制御します。また、契約終了の警告メッセージを表示するタイミングの制御についても、この処理オプションで指定します。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1. 調整残高レコード | 表示される調整残高レコードを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: すべてのレコードを表示する。
1: アクティブなレコードのみを表示する。
2: アクティブでないレコードのみを表示する。 |
| 2. 最小数量パーセント | 数量の最小パーセントを指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。最小数量パーセントよりも少なくなった数量カラムは、別の色で表示されます。 |
| 3. 最小残数量 | 最小の残数量を指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。最小残数量よりも少なくなった数量カラムは、別の色で表示されます。 |
| 4. 残日数の最小パーセント | 残日数の最小パーセントを指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。残日数がこの最小パーセントよりも少なくなった調整の終了日付カラムは、別の色で表示されます。 |
| 5. 最小残日数 | 最小残日数を指定します。この値よりも少なくなると、契約終了の警告メッセージが表示されます。残日数がこの最小残日数よりも少なくなった調整の終了日付カラムは、別の色で表示されます。 |

処理

この処理オプションでは、調整残高レコードを変更できるかどうかを制御します。

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 調整残高の変更 | 調整残高レコードの変更を可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。
ブランク: 調整残高レコードの変更を不可にする。
1: 調整残高レコードの変更を可能にする。 |
|-------------------|---|

シップ・アンド・デビット調整残高の設定

「残高の改訂」フォームにアクセスします。

連絡先	住所録番号を入力して、この契約関連の書類および発生した保証請求の送付先を指定します。
保証請求方法	発生した保証請求を仕入先に返送する方法を指定します。
基準原価	原価がF4105テーブルの価格とは異なる場合、契約で基準とされる原価を入力します。
係数値方法	保証請求計算時に使用される係数値の方法を指定します。 シップ・アンド・デビット調整の係数値(基準コード)には、1または4のいずれかを選択してください。
最大許可数量	契約上許される最大数量を入力します。
契約対象最小数量	この契約の対象となる、取引当たりのオーダー品目の最小数量を入力します。

第 10 章

価格再設定の使い方

この章では、価格再設定の概要と、次の方法について説明します。

- 価格と調整の変更の確認
- バスケット・マスターの使い方
- 拡張バスケット品目への調整の適用
- オーダー・レベル調整の作成
- 受注オーダーの価格再設定
- 購買オーダーと入荷の価格再設定
- 調整の改訂

価格再設定について

受注オーダーの価格を再設定する調整を定義できます。受注オーダーの価格の再設定は、次のような理由から必要になります。

- 品目グループに対して、追加の値引きや割増を行う。
- 特別な品目や顧客に対して、異なった価格設定を行う。
- 製品ファミリ内のオーダー品目の総数、総重量、総額に基づいて一括割引を行う。

価格再設定は、オーダー金額、オーダー品目の重量、またはオーダーに含まれている全品目の総数に基づいて行います。調整を定義する際は、バスケットまたはオーダーのどちらの価格再設定に調整を使用するかを指定する必要があります。オーダー行の価格再設定は、繰り返し行うことができます。オーダー明細行の価格再設定を繰り返し行うには、価格再設定プログラムで対応する価格再設定処理オプションを設定する必要があります。

注意: 価格再設定調整は、受注オーダーに対してのみ使用できます。JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理を使用する場合は、購買オーダー調整の価格再設定は行えません。

価格と調整の変更の確認

この項では、次のレポートの概要を説明します。

- 価格調整の管理 (R41840)
- 価格変更の影響を受けるオーダー (R40821)

レポートには、すべての調整と、調整に対して行われた変更がリストされます。また、レポートには、新規の調整、有効日、および新規の係数も含まれます。

注意: 調整レポートを実行する際は、更新または追加調整値が一貫して適用されるように、データ選択で「単位」フィールドを含める必要があります。

価格調整の管理プログラムには、次の調整レポートのバージョンが含まれています。

- 価格調整レポート
- 価格調整の改訂レポート
- 将来調整追加レポート

価格調整の管理プログラム(R41840)は、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。テスト・モードでプログラムを実行すると、最終モードでプログラムを実行する前にレポートを検討して変更を加えることができます。このプログラムは、テスト・モードで必要な回数だけ実行できます。

価格調整の管理プログラムのバージョンを設定する際は、基準テーブルから選択されるフィールドを選択できます。特定のフィールドを選択できる機能は、すべての情報を印刷または更新しない場合に特に便利です。

また、“価格変更の影響を受けるオーダー”の整合性レポート(R40821)を印刷して、調整の変更により変更が生じる可能性のあるオーダーを検討することもできます。

価格調整レポートについて

価格調整の管理プログラムでは、選択された各レコードの既存の調整のみが印刷されます。変更または更新は行われません。このバージョンを実行するには、すべての処理オプションをブランクにしておきます。

価格調整の改訂レポートについて

「価格調整明細の改訂」フォームを使用して、調整内容を個別に変更できます。または、価格調整の管理プログラムを使用して、調整の変更や追加を行えます。レポート・ライターによって選択された現行の調整が、新しい調整の基準となります。

このレポートの価格調整の改訂バージョンを選択します。このバージョンは、テスト・モードまたは最終モードで実行できます。

このプログラムを実行すると、各調整の新旧の係数値を示したレポートが印刷されます。このバージョンは、調整係数を入力し、処理オプションを設定して作成します。

将来調整追加レポートについて

新しい調整を作成するには、価格調整の管理プログラムの将来調整追加バージョンを選択します。このバージョンの処理オプションで、新規調整の有効日付を入力します。また、価格調整明細テーブル(F4072)を更新するかどうか処理オプションで指定できます。

既存の調整の中で最も新しい有効期限を持つ調整が、新しい調整の基準となります。作成する調整は、将来の日付で有効になるとみなされます。問題を回避するために、過去の日付に対する調整は作成しないでください。また、新しい調整を作成するバージョンに対しては、順序設定を変更しないようにしてください。順序設定を変更すると、誤ったレコードが使用されます。

新しい調整は、システムによってテーブルに書き込まれる前に変更できます。これを行うためには、調整タイプと係数を処理オプションに入力します。この情報によって、新しい調整が変更されます。

調整タイプと係数をブランクにした場合は、現行の調整から調整がコピーされます。新しい調整は作成されません。開始日付と終了日付は必ず指定します。指定しないと情報は処理されません。

テスト・モードでは、これらの調整を処理した場合に発生する追加のリストが印刷されます。最終モードでは、最終モードを選択したときに作成された追加リストが印刷されます。

価格変更の影響を受けるオーダー・レポートについて

“価格変更の影響を受けるオーダー”の整合性レポート(R40821)には、オーダーの作成日付以降に発生した調整、価格変動および計算式に対する変更に基づいて変更される可能性のあるオーダーがリストされます。

“価格変更の影響を受けるオーダー”は、受注オーダーについてのみ印刷してください。

決済時の価格設定について

入荷の入力中に行われた価格調整を変更できます。これらの差異を記録するために、適切な仕訳が記録されます。

バスケット・マスターの使い方

この項では、バスケット・マスターの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- バスケット・マスター情報の設定
- バスケット・レベルの調整の作成

バスケット・マスターについて

バスケット・マスター・プログラム(P4550)を使用して、バスケットの入力と管理を行います。バスケット名(ユーザー定義コード(40/PI)で設定)、バスケットに含まれるすべての品目および品目グループなどバスケットのすべての特性を定義します。同じ品目を複数のバスケットに含めることができます。また、複数のバスケットを調整の対象となるオーダーに適用することもできます。

また、バスケット・マスター・プログラムでは、集計や調整の条件の他、品目および品目グループの価格設定規則などの品目の特性を定義できます。

集計の条件を設定する際は、バスケットへの調整の適用方法を決定するためのバスケット集計規則(ユーザー定義コード(45/BA)で設定)を指定します。調整の適用方法は、バスケット価格設定規則(UDC 45/BPで設定)の指定内容によっても判断されます。

バスケット・マスター情報

拡張バスケットの機能の使用するには、バスケット調整の適用方法を決定する設定タスクを実行する必要があります。まず、バスケットに含める品目と品目グループを指定します。バスケットに含まれる品目に対するバスケット集計規則とバスケット価格設定規則も指定する必要があります。これらを設定することにより、バスケット全体に1つの値引きを指定するのではなく、特定の品目または品目グループに適用する値引きを指定できます。

バスケット集計規則には、次のオプションがあります。

- 0: 品目または品目グループをバスケット集計に含めます。最小数量は必要ではありません。
- 1: 品目または品目グループをバスケット集計に含めます。最小数量が必要です。

- 2: 品目または品目グループをバスケット集計から除外します。最小数量は必要ではありません。

バスケット価格設定規則には、次のオプションがあります。

- 0: 標準バスケット調整を適用します。
- 1: 例外価格設定を適用します。
- 2: 標準価格設定、例外価格設定のいずれも適用しません。

バスケット・マスター・プログラムでは、集計単位、バスケット集計規則、バスケット価格設定規則、有効開始日付、および期限終了日付を指定できます。それらの情報は、フォームの見出し部分のデフォルト情報となり、さらに詳細グリッドにデフォルトで表示されます。詳細グリッドには、バスケットに含まれる品目が表示されます。

マスター・バスケット情報は、バスケット・マスター見出しテーブル(F4550)に保存されます。

バスケット・レベル調整

バスケットの価格再設定では、バスケット価格再設定グループに基づいて品目の価格を修正できます。品目がバスケット価格再設定グループに含まれているかどうかを判別するために、受注オーダーの明細行が検索されます。品目がバスケット価格再設定グループに含まれていた場合、新しい価格でオーダー行が更新されます。

受注オーダーの価格再設定は次の方法で行います。

- オーダー入力後、バッチ・プログラムを使用して実行します。

新しい価格は、当初の受注明細行の価格に基づきます。最初にバスケット価格再設定が実行され、次にオーダーの価格再設定が実行されます。

- 対話形式でオーダーを入力しながら、受注オーダー入力明細(P4211)から適切なオプションを選択して実行します。

バッチ・プログラムによって、最初にバスケット価格再設定が実行され、次にオーダーの価格再設定が実行されます。

- 受注オーダー入力明細プログラムの「処理」タブで「オーダーの自動価格再設定」オプションを設定した場合は、オーダー入力時に自動的に実行されます。

バスケット価格再設定グループに含まれている品目に対してオーダーを入力すると、品目の基本価格に調整が適用されます。価格再設定調整を使用するには、オーダーの価格を再設定するための機能を選択します。基本価格への変更は、価格再設定調整を反映しています。

オプションを選択することによって、調整に拡張バスケット調整を使用するように指定することもできます。拡張バスケット調整を指定した場合は、バスケット品目別調整フォームで、調整明細の例外を入力できます。拡張バスケット調整を使用しない場合は、標準のバスケット価格再設定が適用されます。

事前設定

拡張バスケット機能を有効にするには、価格調整の定義プログラム(P4071)の「バスケット・マスターの使用」オプションを選択します。

バスケット・マスター情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バスケット・マスターの改訂	W4550C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「バスケット・マスター」 「バスケット・マスターの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	バスケット・マスター情報を設定します。
調整制御の修正	W4071C	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。 バスケット調整の名称、タイプ、制御コードを指定します。	バスケット・レベルの調整を作成します。

バスケット・マスター情報の設定

「バスケット・マスターの改訂」フォームにアクセスします。

バスケット・グループ

品目の在庫価格グループを識別するユーザー定義コード(40/PI)の値を入力します。

在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。この割引や割増は、発注された品目の数量、金額または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

バスケット単位

CS(ケース)、BX(箱)など、在庫品目の数量単位を示すユーザー定義コード(00/UM)の値を入力します。

拡張バスケット・グループの集計に使用する単位を指定するコードです。このフィールドで指定した単位で、バスケット・グループの価格調整が検索されます。このフィールドを空白にした場合は、受注オーダーの最初の調整対象行の「販売価格の計算に使用する単位」に基づいてバスケット・グループが集計されます。

バスケット集計規則

品目または品目グループを、バスケット・レベル集計、品目レベル集計、またはその両方に含めるかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

空白: 品目または品目グループを集計に含めます。この値を指定した場合は、オーダーの最小数量は必要ではありません。

1: 品目または品目グループを集計に含めます。この値を指定した場合は、オーダーの最小数量が必要です。

価格設定規則

2: 品目または品目グループを集計から除外します。

品目または品目グループに対して、標準バスケット調整または例外価格設定のどちらを適用するかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準バスケット調整を適用します。

1: 例外価格設定を適用します。

2: 標準バスケット調整および例外価格設定のいずれも適用しません。

バスケット・レベル調整の作成

「調整制御の修正」フォームにアクセスします。

印刷しない

選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されません。調整金額は単価に加算されます。

印刷する

選択すると、調整金額は請求書または購買オーダーに印刷されます。調整金額は単価に加算されます。

受注明細に追加する

選択すると、F4211テーブルが調整明細行情報で更新されます。現行の正味価格の計算には、このタイプの調整は含まれません。このコードはオーダー・レベルの調整でのみ使用します。

総勘定元帳に見越入力を作成する

選択すると、見越し調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4074テーブルが更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

リベート

選択すると、リベート調整が作成されます。F4078テーブルがオーダー明細行の数量、重量、金額で更新されます。

請求書への印刷

選択すると、調整金額が請求書に印刷されます。調整金額はオーダー合計に加算されますが、単価には含められません。売上更新プロセスの実行時に、この調整に対して個別の一般会計および売掛金の仕訳が転記されます。

仕入先販売証明

選択すると、仕入先販売証明のリベート調整が作成されます。売上更新プロセスの実行時に、F4078テーブルがオーダー明細行の数量、重量、および金額で更新され、調整金額が総勘定元帳に転記されます。

丸め調整

選択すると、価格調整明細の改訂プログラム(P4072)で設定した丸め規則に基づいて、丸め調整が作成されます。調整金額は単価に加算されます。

拡張バスケット品目への調整の適用

この項では、拡張バスケットの品目レベル調整の概要、事前設定、および拡張バスケットの品目への調整の適用方法について説明します。

拡張バスケット品目の品目レベルの調整について

拡張バスケットの価格再設定機能では、拡張バスケットに含まれる品目に対して品目レベルまたは品目グループ・レベルの調整を作成できます。この機能により、バスケット全体に標準の調整を1つ適用するのではなく、品目または品目グループごとに様々な値引きを適用できます。価格調整明細の改訂プログラムでは、例外情報を入力できます。入力可能な情報は、バスケット・マスター・プログラムで設定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則によって異なります。

拡張バスケットの品目または品目グループに例外情報を入力した後は、バスケット・マスター・プログラムを使用して対応するレコードを削除/変更することはできません。バスケット・マスター情報の変更が必要な場合は、価格調整明細の改訂プログラムを使用して、先に例外情報を削除する必要があります。

バスケット集計規則で品目または品目グループの最小数量を必須と指定する場合は、例外情報の入力時に最小数量を指定しないと、調整は適用されません。

事前設定

「価格調整の定義」フォームで、拡張バスケットの価格再設定機能が有効に設定されていることを確認します。このフォームには、価格調整タイプ・プログラムの使用時にアクセスします。

拡張バスケット品目への調整の適用に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バスケット品目別調整	W4072C	<p>「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格/調整詳細の改訂」</p> <p>「調整明細の処理」フォームで「価格調整コード」に値を入力して、「追加」ボタンをクリックします。</p> <p>「優先階層の選択」フォームで優先階層を選択して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「価格調整明細の改訂」フォームで、品目グループおよび調整の入力に必要なその他の情報を入力して、「ロー」メニューから「バスケット品目別調整」を選択します。</p>	拡張バスケット品目に調整を適用します。

拡張バスケットの品目への調整の適用

「バスケット品目別調整」フォームにアクセスします。

開始数量

調整または優先情報が適用される値を示す数値を入力します。値は、レベル区切りの定義に応じて、数量、重量、金額のいずれかになります。

通過逡減調整以外の場合は、値がレベル区切りの値と等しくなったときに調整が適用されます。たとえば、値が数量の10の場合、10またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。

通過逡減調整の場合、レベル区切りの値を超えた数量がオーダーされたときに調整が適用されます。たとえば、値が数量の10の場合、11またはそれ以上の数量がオーダーされたときに調整が適用されます。

バスケット・マスター・プログラムで指定したバスケット集計規則とバスケット価格設定規則に応じて、このフィールドの情報を更新できます。拡張バスケットの品目に例外情報を入力しない場合は、標準バスケットの価格再設定が適用されます。

オーダー・レベル調整の作成

この項では、オーダー・レベル調整の概要とその作成方法について説明します。

オーダー・レベル調整について

オーダー・グループに基づいて品目の価格を再設定するには、オーダー価格再設定を使用します。オーダーの各明細行の情報によって、オーダー・グループの品目が特定されます。オーダー・グループに含まれる品目については、オーダー全体に対する調整が1つ作成され、調整額が適用された新しいオーダー明細行が作成されます。

オーダー・レベル価格再設定は、運送費の行を追加するために使用できます。入力した品目の重量、数量またはその他の変数によって、追加の行品目の金額が決定されます。追加される行は、運送費の行です。

オーダー価格再設定グループ内の品目に対して、受注オーダー入力(P4210)を使用してオーダーを入力すると、品目の基本価格に調整が適用されます。価格再設定調整を使用するには、「受注オーダー明細の改訂」フォームの「フォーム」メニューから、「オーダー価格再設定」オプションを選択します。基本価格への変更は、価格再設定調整を反映しています。また、行品目をオーダー・グループに適用することもできます。

オーダー・レベル調整の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整の定義	W4071A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 「調整タイプの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。 「調整制御の修正」フォームで、調整名を入力し、「受注明細に追加する」オプションを選択して、「OK」ボタンをクリックします。	オーダー・レベルの調整を作成します。

オーダー・レベル調整の作成

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。

受注オーダーの価格再設定

この項では、受注オーダーの価格再設定の概要と、バスケット・レベル調整またはオーダー・レベル調整の適用方法について説明します。

受注オーダーの価格再設定について

受注オーダーの価格を再設定することにより、顧客に対して値引きを提供できます。次の3つの方法のいずれかを使用してオーダーの価格を再設定します。

- オーダーの照会後に価格再設定を行う。
- バスケット・レベルまたはオーダー・レベルで価格再設定を行う。
- 自動的に価格再設定を行う。

オーダー照会後の価格再設定

オーダーを承認および再照会した後に、「フォーム」メニューから「オーダー価格再設定」を選択します。

バスケット・レベルまたはオーダー・レベルの価格再設定

オーダー・レベル/バスケット・レベル価格設定プログラム(R42750)を実行して、受注オーダーを評価し、バスケット・レベルおよびオーダー・レベルの調整を適用できます。バスケット・レベル調整は価格調整元帳テーブル(F4074)に書き込まれ、その情報は価格履歴プログラム(P4074)で参照できます。バスケット・レベル調整では、無償品が発生する場合があります。それらの無償品は新しい明細行として受注オーダーに追加されます。オーダー・レベル調整は、F4074テーブルに書き込まれません。オーダー・レベル調整は、新しい明細行として受注オーダーに追加されます。オーダー・レベル調整では、無償品が発生する場合があります。それらの無償品は新しい明細行として受注オーダーに追加されます。

オーダー・レベル/バスケット・レベル価格設定プログラムの「処理」タブの「調整前に既存レコードをクリアする」処理オプションを使用して、既存のバスケット調整またはオーダー調整を、再作成の実行前に削除できます。既存レコードをクリアする場合に無償品の変更/削除を行わない設定を行うには、「処理」タブの「無償品レコードの保存」処理オプションを使用します。

自動価格再設定

オーダーを承認および再照会した後に、「フォーム」メニューから「オーダー価格再設定」を選択します。

購買オーダーと入荷の価格再設定

この項では、購買オーダーと入荷の価格再設定の概要と、次の方法について説明します。

- 調達価格/入荷価格の再設定(R45620)の処理オプションの設定
- 購買オーダーと入荷の価格再設定

購買オーダーと入荷の価格再設定について

価格設定を変更して、選択した購買オーダーまたは入荷のバッチにその変更を適用する必要があることがあります。調達価格/入荷価格の再設定プログラム(R45620)を使用して基本価格または価格調整を変更し、購買オーダーと入荷レコードにその価格変更を反映させることができます。このプログラムのバージョンを選択して、購買オーダー・レコードまたは入荷レコードのいずれか、あるいは両方を処理することを指定します。購買オーダー・レコードまたは入荷レコードの更新が失敗すると、そのレコードを特定するエラー・メッセージが生成され、ワークフロー・プロセスを使用してそのメッセージが送信されます。購買オーダーの価格を更新する場合、購買オーダーの各行が処理され、行に対する変更のみが購買オーダー明細テーブル(F4311)に保存されます。入荷の価格を更新する場合、入荷の各行が処理され、行に対する変更のみが入荷確認テーブル(F43121)に保存されます。さらに、調整金額が変更されると、適切な総勘定元帳勘定に差異が反映されます。次の購買オーダー行の価格は、再設定されません。

- ・ 締め処理済
- ・ 受取済
- ・ 転送オーダー
- ・ 直送オーダー
- ・ 会社間行
- ・ 総額行
- ・ 「一時変更価格の適用」オプションを設定せずに価格一時変更が設定されている行
- ・ 「基本価格変更時の調達価格調整」システム固定情報を設定せずに、「一時変更価格の適用」オプションを設定して価格一時変更が設定されている行

次の入荷行の価格は、再設定されません。

- ・ 取消済
- ・ 伝票と(完全または部分的に)一致している行
- ・ 転送オーダー
- ・ 直送オーダー
- ・ 会社間オーダー
- ・ 陸揚費用行
- ・ 総額行
- ・ 入荷工程にある行

レポートには、次のようないくつかの機能が含まれています。

- ・ 行の価格が再設定されなかったこととその理由を示すメッセージ
- ・ 「契約コード」カラム(いずれかの購買オーダー行または入荷行に契約IDが割り当てられている場合)
- ・ 「収穫名」カラム(JD Edwards Grower Managementシステムがアクティブであり、いずれかの購買オーダー行または入荷行に収穫IDが割り当てられている場合)
- ・ 収穫区画別の合計(JD Edwards Grower Managementシステムがアクティブな場合)

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理と Blend Management の使用

JD Edwards Blend Management システムを使用する場合は、調達価格/入荷価格の再設定プログラム (R45620) を使用して、入荷時の基本価格を変更できます。たとえば、JD Edwards Grower Management システムで契約を変更し、その契約に対応するすべての入荷に変更後の価格を適用できます。また、運送費などの追加費用を調整に加算して、その価格をすべての入荷に適用することもできます。

調達価格/入荷価格の再設定プログラム (R45620) は、契約明細プログラム (P43C11) から実行できます。契約に対応する購買オーダーが存在する場合にのみ、「契約 - 収穫」フォームで「PO 価格/入荷価格の再設定」をクリックして調達価格/入荷価格の再設定プログラムを実行できます。

契約検索プログラム (P43C00) の「バージョン」タブで「購買オーダー/入荷の価格再設定バッチ (R45620)」処理オプションを設定して、調達価格/入荷価格の再設定プログラムのどのバージョンを実行するかを指定します。XJDE0001 を選択すると、対応する入荷の価格のみが再設定されます。XJDE0002 を選択すると、対応する購買オーダーの価格のみが再設定されます。XJDE0003 を選択すると、対応する購買オーダーと入荷の価格が再設定されます。ビジネス・ニーズに応じてこのプログラムのバージョンを作成する必要がある場合は、これらのバージョンのいずれか 1 つのみをコピーすることをお勧めします。

調達価格/入荷価格の再設定 (R45620) の処理オプションの設定

この処理オプションを使用して、購買オーダーと入荷の価格再設定を制御します。

処理

処理オプションは EnterpriseOne の導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

- | | |
|-------------------------|--|
| 1. 入荷の陸揚費用 | 陸揚費用を含む入荷行の価格再設定を有効にするには、ブランクのままにするか、「0」を入力します。
「1」を入力すると、陸揚費用を含む入荷行の価格再設定は許可されません。 |
| 2. 購買オーダーの無償品の保持 | ブランクにすると、購買オーダーの無償品は保持されません。
「1」を入力すると、購買オーダーの無償品は保持されます。 |

バージョン

処理オプションは EnterpriseOne の導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 購買オーダー入力 (P4310) | 実行されるプログラムのバージョンを入力します。ブランクにした場合、デフォルトとして ZJDE0001 が使用されます。 |
| 2. 入荷 (P4312) | 実行されるプログラムのバージョンを入力します。ブランクにした場合、デフォルトとして ZJDE0001 が使用されます。 |

印刷

処理オプションは EnterpriseOne の導入時に設定されますが、プログラムを実行するたびに変更できます。

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 許容レベル (パーセント) | ユーザー定義の許容レベルをパーセントで入力します。 |
|-------------------------|---------------------------|

購買オーダーと入荷の価格再設定

「略式コマンド」に「BV」と入力します。

調整の改訂

この項では、調整の改訂の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- オーダー入力時の調整の追加
- オーダー入力時の価格レベル区切りの変更
- 顧客リベート情報の検討

調整の改訂について

調整の改訂によって、購買オーダー調整や受注オーダー調整に対して追加調整や調整の改訂を行うことができます。

現行のオーダー明細行に適用する調整を追加できます。交渉済の値引きなどに対応して、この調整を行うことができます。また、どの種類の金額に対しても手動で調整できます。

受注オーダー入力時に、オーダーに対して顧客が受け取る値引きレベルを変更できます。価格レベルの変更は、現行のオーダーのみに適用されます。

リベート見越し調整定義を使用し、実績ファイルに累積された複数のオーダーの合計金額、合計数量、合計重量に基づいて、リベートが計算されます。オーダー入力時、実績ファイルにアクセスして、顧客に追加情報を提供できます。

在庫品目の価格および引当可能数量は、オーダーの受注において非常に重要な要素です。「価格/引当可能数量の処理」フォームを使用して、在庫品目の価格および引当可能数量を検討します。このフォームでは、特定の品目のオーダー行に適用される価格調整の検討を迅速に行うことができます。

また、調整タイプに定義された数量区切りを検討したり、現行オーダーに対して異なる数量区切りを指定することもできます。受注オーダー入力時に「調整タイプの数量区切り」フォームにアクセスするには、「価格/引当可能数量の処理」フォームを経由する必要があります。

受注オーダー入力プログラムから、価格/引当可能数量の照会プログラム(P4074)にアクセスできます。価格管理を使用している場合は、価格/引当可能数量の照会のバージョンを処理オプションで入力する必要があります。

変更する場合は、変更理由を示すコードも入力する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne価格管理と調達管理の使用

購買オーダーについては、価格/引当可能数量の照会を使用して、購買オーダーを入力する前に価格調整を確認できます。「価格/引当可能数量の処理」フォームを使用して、在庫品目の価格を検討します。このフォームでは、特定の品目のオーダー行に適用される価格調整の検討を迅速に行うことができます。

また、調整タイプに定義された数量区切りを検討したり、現行オーダーに対して異なる数量区切りを指定することもできます。購買オーダー入力時に「調整タイプの数量区切り」フォームにアクセスするには、「価格/引当可能数量の処理」フォームを経由する必要があります。

価格/引当可能数量の照会プログラムへは、購買オーダー・プログラム(P4310)の「ロー」メニューからアクセスできます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 「価格管理固定情報」フォームで、「販売(調達)価格管理を使用する」フィールドを「Y」(使用する)に設定します。
- 受注オーダー入力プログラム(P4210)で、価格を表示し、価格の変更を可能にする処理オプションを設定します。
- 価格調整を含む受注オーダーを設定します。

調整の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格履歴	W4074D	<p>「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで、価格調整を追加するオーダーを検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームでレコードを選択して「ロー」メニューの「価格履歴」を選択します。</p>	オーダー入力時に調整を追加します。
価格/引当可能数量チェック	W4074D	<p>「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームで、価格調整を追加するオーダーを検索して、「選択」ボタンをクリックします。</p> <p>「受注オーダー明細の改訂」フォームでレコードを選択して、「ロー」メニューの「価格チェック」を選択します。</p>	オーダー入力時に価格レベル区切りを変更します。
リポート実績	W4078A	<p>「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」</p> <p>「受注残/完了オーダー照会」フォームでオーダーを検索し、「フォーム」メニューの「リポート実績」を選択します。</p>	顧客リポート情報を検討します。
売上明細実績	W4078C	<p>「リポート実績」フォームで、住所番号と有効日を指定してレコードを検索し、「選択」ボタンをクリックします。</p>	販売先住所のリポート実績を検討します。

オーダー入力時の調整の追加

「価格履歴」フォームにアクセスします。

オーダー入力時の価格レベル区切りの変更

「価格/引当可能数量チェック」フォームにアクセスします。

顧客のリベート情報の検討

「リベート実績」フォームにアクセスします。

第 11 章

販促IDの使い方

この章では、販促IDの概要と次の方法について説明します。

- 販促状況の設定
- 販売促進情報の入力および更新
- 販売促進の関連付け

販促IDについて

販促IDを使用して、価格管理調整、受注オーダー行、および価格履歴を販売促進に関連付けることができます。期限付きで適用される販売促進がある場合に、有効日付などの販売促進情報を設定して、調整に関連付けるか、または受注明細行に直接関連付けることができます。その後、販売促進情報は、価格調整元帳(F4074)テーブルに記録されトラッキングされます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理でも同様に販売促進を使用できます。仕入先から販売促進の提供がある場合は、販売促進情報の設定および定義を行い、調整に関連付けるか、または購買明細行に直接関連付けることができます。その後、販売促進情報は、F4074テーブルに記録されトラッキングされます。

事前設定

「価格管理固定情報」フォームの「販促管理固定情報」を選択します。

販促状況の設定

この項では、販促状況の概要と設定方法について説明します。

販促状況について

販売促進を管理するために、状況を設定します。一度にアクティブにできる販促状況は1つのみです。販売促進の定義時に、販促状況を指定します。

販促状況の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
状況の追加	W40P02C	「価格管理固定情報」(G4231111)、「販促状況管理」 「販促状況の検索」フォームで「追加」をクリックします。	販促状況を設定します。

販促状況の追加

「状況の追加」フォームにアクセスします。

状況記述	販促状況コードの内容がわかるように説明を入力します。
アクティブ状況	販促状況がアクティブの場合に選択します。一度にアクティブにできる販促状況は1つのみです。

販売促進情報の入力および更新

この項では、販売促進情報の概要および販売促進の追加方法について説明します。

販売促進の管理について

販促IDの管理プログラム(P40P03)を使用して、販売促進の有効日付などの販売促進情報を定義します。

販売促進の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
販促IDの追加	W40P03B	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「販促IDの管理」 「販促IDの検索」フォームで「追加」をクリックします。	販売促進情報を入力および更新します。

販売促進の追加

「販促IDの追加」フォームにアクセスします。

販促IDの管理 - 販促IDの追加

保存して閉じる(O) 保存して続行(E) 保存して新規追加(N) 取消(L)

販促ID	PROMO
販促名	End of Season Sales Promotion
販促状況	Y
有効開始日付	2008/02/01
有効期限	2008/03/15

「販促IDの追加」フォーム

販促名 販売促進の名前を入力します。

販売促進の関連付け

この項では、販売促進の関連付けの概要と次の方法について説明します。

- 調整に対する販売促進の関連付け
- オーダーに対する販売促進の関連付け

販売促進の関連付けについて

JD Edwards EnterpriseOne受注管理とJD Edwards EnterpriseOne調達管理に販売促進を関連付けるには、次のいずれかの方法を使用します。

- 調整定義に販促IDを添付します。

受注オーダーまたは購買オーダー入力時に、調整の有効日付、販売促進の有効日付の順に検証が行われます。販売促進がアクティブの場合、F4074テーブルに販売情報が記録されます。

- 受注明細行または購買明細行に販促IDを入力します。

各明細行に複数の販売促進を関連付けることができます。

販売促進を関連付けた明細行をコピーした場合、または販売促進を関連付けた一括/見積オーダーのリリースを行った場合は、販売促進情報もコピーされます。

販売促進の関連付けに使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
価格調整の定義	W4071A	「価格調整のセットアップ」(G4231112)、「価格調整の定義」 販売促進を関連付ける調整を検索して、「選択」をクリックします。	調整に販売促進を関連付けます。
受注オーダー明細の改訂	W4210A	「受注オーダー処理」(G4211)、「受注明細」 「受注残/完了オーダー照会」フォームで「追加」をクリックします。	受注明細情報を入力します。
価格履歴	W4074D	「受注オーダー明細の改訂」フォームで明細行を選択して、「ロー」メニューの「価格履歴」を選択します。	受注明細行に販売促進を関連付けます。
オーダー明細	W4310A	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」 「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 購買オーダー情報を入力して、「OK」をクリックします。	購買オーダー情報を入力します。
価格履歴	W4074D	「オーダー明細」フォームで、購買明細情報を入力して明細行を選択し、「ロー」メニューの「価格履歴」を選択します。	購買明細行に販売促進を関連付けます。

調整に対する販売促進の関連付け

「価格調整の定義」フォームにアクセスします。「その2」タブをクリックします。

価格調整の定義 - 価格調整の定義

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

調整制御

調整コード: PROMO 品目販売促進

ターゲット・システム: 受注管理

調整制御コード: 2 伝票に印刷する

☐ 価格マトリックス使用

調整レベル

- ☒ 行レベル調整
- ☐ バスケット・レベル調整
- ☐ オーダー・レベル調整
- ☐ 販売高レベル調整

「価格調整の定義」フォーム (1/2)

その 1

その 2

品質結果

相互排他調整

排他調整グループ

DEAL

☒ 排他調整

リピート受取先

リピート受取先

受取先住所

仕入先リピート・タイプ

最小/最大

☒ なし

☐ 最小調整

☐ 最大調整

最小/最大規則

レポート・コード

レポート・コード 1

レポート・コード 2

レポート・コード 3

レポート・コード 4

レポート・コード 5

レポート・コード 6

価格表

価格表グループ

☐ 価格表から除外

「価格調整の定義」フォーム (2/2)

オーダーに対する販売促進の関連付け

「価格履歴」フォームにアクセスします。

受注オーダーの例を次に示します。

受注明細 - 価格履歴

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

通貨コードUSD

販売先No.4242

出荷先4242

品目No.210

開始数量10

為替レート

☐ 外貨

Capital System

Capital System

Mountain Bike, Red

EA

行番号1.000

事業所30

価格有効日付2005/06/01

価格調整スケジュールNATIONAL

価格設定単位EA

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	順 序 No.	新規基本 価格フラ グ	調整 コード	調整名 記述	係数	単位 価格	基 準 コ ード	基準コード 記述	係数値 単位	理由 コード	理由コード 記述
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>		基本価格		798.0000					
<input type="checkbox"/>		110	<input type="checkbox"/>	REBATE	Rebate	2.0000-	15.9600-	1	% of Base Price			
<input type="checkbox"/>		120	<input type="checkbox"/>	PROMO	Item Promotion	39.9000-	39.9000-	5	% of Base Price		ND	Negotiated Disc...
<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>									

単位原価530.1000

単価758.1000

粗利益率30.08

「価格履歴」フォーム

付録 A

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne価格管理の標準ワークフローについて説明します。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

JD Edwards EnterpriseOne価格管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne価格管理のワークフローについて説明します。

価格承認

この項では、価格承認ワークフローについて説明します。

内容

ワークフローの概要	ユーザーが新しい価格レコードを追加するか、価格レコードを変更すると、レコードの状況が「一時保留」に更新されます。指定された承認者にワークフロー・メッセージが送信され、変更したレコードの承認要求が行われます。変更が承認されるまで、価格レコードの状況は保留のままです。
ワークフロー・トリガー	ユーザーが新しい価格レコードを追加するか、価格レコードを変更すると、ワークフローが開始されます。
ワークフロー処理	指定された承認者は、価格変更が発生したワーク・センターのメッセージを受信します。新価格が有効になるには、承認者による変更の承認が必要です。

ワークフロー・オブジェクト

システム	45
ワークフロー・オブジェクト名	JDEPRAPPR
オブジェクトID	N4502280
イベント記述/関数名	ProcessPriceChangeApproval
順序/行番号	129

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース (B73.2やB73.2.1など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architectureの略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様のように入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部分です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

AAI

- 4234 - シップ・アンド・デビット 27
- 4270 - 価格調整 27
- 4280 - 未払リベート 27
- 4515 - 見越しリベート 139
- 4520 - 未収リベート 139
- 価格管理での使用 26
- 価格管理における設定 28
- 「勘定科目の改訂」フォーム 27
- システム設定の必須情報 15
- 見越し 12
- 理解 6

AAI(自動仕訳), 参照: AAI

Blend Management

- 価格管理との統合 6, 14
- 価格マトリックス 52, 74, 96
- 契約 71
- 最低価格または最高価格による価格調整 52

Customer Connection Webサイト xvi

- F03012Aテーブル 116
- F03012テーブル 116
- F4011テーブル 137
- F4070テーブル 131
- F4071テーブル 131, 138, 139
- F4072テーブル 23, 83, 95, 131, 134
- F4074テーブル 131, 134, 138, 139, 165
- F4075テーブル 142
- F4076テーブル 74, 96
- F4078テーブル 134, 138, 139
- F4079テーブル 134, 138, 139
- F4092テーブル 23
- F4093テーブル 118
- F40941テーブル 23
- F40942テーブル 23
- F40943テーブル 23
- F40UI74テーブル 90, 91, 131, 134, 138, 139
- F4105テーブル 39
- F41061テーブル 39
- F4211テーブル 134, 142
- F4311テーブル 166
- F43121テーブル 166
- F4343テーブル 138
- F4510テーブル 84

- F4511Wテーブル 84
- F45520テーブル 90
- F45521テーブル 90, 91
- F45522テーブル 90
- F45523テーブル 90
- F45524テーブル 90
- F45715テーブル 152
- F4575テーブル 152
- F45762Z1テーブル 152
- F4576Z1テーブル 152
- F4576テーブル 152
- F4580テーブル 95

Grower Managementシステム

- 統合 6, 16, 52, 53, 54, 166, 167
- Grower, Pricing, and Paymentsシステム
- 統合 6, 16, 52, 53, 71

P0150プログラム

- 処理オプション 108
- 用途 106

- P4073プログラム 127
- P4078プログラム 137
- P41002プログラム 11
- P4101プログラム 32
- P450150プログラム 108
- P45200プログラム 133
- P4530プログラム 23

P45501プログラム

- 価格設定検索クエリーの生成 84, 86
- 検索クエリーの再生成 85
- 検索クエリーの削除 85
- 検索クエリーの表示 87
- 用途 10, 83

P45715プログラム

- 処理オプション 154
- 用途 152

- P45731プログラム 127

- P4590プログラム 95

PeopleCodeの表記規則 xviii

- R03012Aプログラム 116

- R03012Bプログラム 116

R407201プログラム

- 処理オプション 81
- 用途 80

- R40821レポート 159

- R40932プログラム 118

R41840プログラム 158
 R42750プログラム 165
 R42770プログラム 137, 138
 R45210プログラム
 処理オプション 44
 用途 44
 R45502プログラム 84, 86
 R45503プログラム 85
 R45522プログラム 91
 R45620プログラム 167
 R47761Z1プログラム 152
 R47762Z1プログラム 152

あ

「値のリストの改訂」フォーム 94
 扱い高基準 12
 扱い高基準アップセル 12
 扱い高基準価格割引
 設定 135
 理解 133
 扱い高基準調整 135
 扱い高基準調整の履歴プログラム
 (P45200) 133
 アプリケーションの基礎 xv
 粗利益調整
 目標限度の作成 148
 目標調整の優先詳細の作成 147
 理解 145

い

一時変更価格 17, 48, 53, 54, 61
 一時変更価格固定情報 17
 一時変更検索グループ
 価格管理 114
 調達管理における価格管理の使い方 114
 理解 113
 例(販売) 114
 一括更新エンジン 83
 「一括更新エンジン」フォーム 90
 一般会計(価格管理との統合) 6

う

売掛管理(価格管理との統合) 5

お

「親/子構造の処理」フォーム 107
 「親住所/子住所の改訂」フォーム 107
 オンライン価格交渉 13

「オーダー明細価格グループの定義」
 フォーム 121
 オーダー明細グループ 53, 119, 121
 「オーダー明細」フォーム 174
 オーダー・レベル調整 164
 オーダー・レベル/バスケット・レベル価
 格設定プログラム(R42750) 165

か

買掛管理(価格管理との統合) 5
 階層
 価格管理について 55
 基本価格設定の改訂 42
 基本価格設定を表す図 40
 基本価格優先階層について 40
 受注管理での使用(図) 55
 調達管理での使用(図) 56
 定義 58, 59
 優先マスターの設定 58
 「階層記述の改訂」フォーム 107
 階層別リポート
 しきい値の作成 141
 理解 139
 価格
 品質基準 53
 価格管理
 Blend Managementでの使用 14, 96
 階層 55
 概要 1
 価格調整(各タイプ) 11
 機能 10
 システムの統合 5
 受注管理用の導入(追加手順) 8
 調達管理での使用 13
 調達管理のシステム固定情報 17
 調達管理用の導入(追加手順) 8
 導入 6
 ビジネス・プロセス(受注管理) 2
 ビジネス・プロセス(調達管理) 3
 見越し 10
 利点 9
 価格管理固定情報(設定) 17
 価格管理固定情報フォーム 17, 19
 価格グループ
 簡易 32
 組合せの生成 118
 顧客グループの定義 32
 品目グループの定義 32
 複合 32
 価格グループ関係 118

- 「価格計算式の改訂」フォーム 143
- 価格再設定
 - オーダー・レベル調整について 164
 - 購買オーダー 166, 167
 - 入荷 166, 167
 - 入荷調整定義 62
 - 理解 157
- 価格再設定調整 12
- 価格承認
 - 一時保留価格 33
 - 既存価格の有効化 44
 - 現行価格 33
 - 状況コード 33
 - 承認要求の検討 35
 - 理解 33
 - ワークフロー管理 13
 - ワークフロー処理 34
 - ワークフロー設定の改訂 36
- 価格承認変換プログラム(R45210)
 - 処理オプション 44
 - 用途 44
- 価格設定エンジン(概要) 23
- 「価格設定エンジン・ワークベンチ」フォーム 24
- 価格設定エンジン・ワークベンチ・プログラム(P4530) 23
- 価格設定階層 59
- 価格設定階層の設定 58
- 「価格設定規則の表示」フォーム 109
- 価格設定検索クエリー
 - 結果の表示 85, 87
 - 再生成 85
 - 削除 85
 - 生成 86
 - 理解 84
- 価格設定ワークベンチ解決ステップ・プログラム(R45502) 84, 86
- 価格設定ワークベンチのクエリー詳細の削除プログラム(R45503) 85
- 価格設定ワークベンチ・プログラム(P45501)
 - 価格設定検索クエリーの生成 84, 86
 - 検索クエリーの再生成 85
 - 検索クエリーの削除 85
 - 検索クエリーの表示 87
 - 用途 10, 83
- 価格調整
 - 扱い高基準 12
 - 扱い高基準アップセル 12
 - 粗利益 76
 - 一時変更価格 11
 - 改訂 157
 - 改訂について 168
 - 価格再設定 12
 - 期限付き価格 11
 - 基本価格パーセント 11, 74
 - 原価 + 金額 77
 - 原価 + 金額のパーセンテージ 75
 - 原価の割合 11, 75, 77
 - 現行正味価格の割合 11, 74
 - 現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント 77
 - 顧客のカスタム・プログラム 11
 - 最高価格 11, 48, 52, 71
 - 最低価格 11, 48, 52, 71
 - 仕入先価格/在庫原価パーセント 77
 - シップ・アンド・デビット 13
 - 指定金額 11
 - 受注管理のシステム処理の使い方 48
 - 順序設定 70
 - 将来調整追加について 157
 - 新規基本価格 11
 - 新規基本価格パーセント 74, 77
 - 数式 11
 - スキップ 70
 - スケジュールでの複数調整の使用(図) 48
 - 多通貨価格設定 11
 - 調達管理 53
 - 調達管理のシステム処理の使い方 50
 - 追加金額 75, 77
 - 追加計算式金額 76, 78
 - 追加変動金額 75, 78
 - 定義の作成 47
 - 入荷 53
 - バッチ改訂について 157
 - 変更 157
 - 無償品 12
 - ユーザー・プログラム追加金額 76, 78
 - 理解 47
 - レベル区切り 12
 - レポートについて 157
- 「価格調整スケジュールの改訂」フォーム 72, 110, 140
- 「価格調整の一括改訂」フォーム 85, 94, 99
- 価格調整の一括管理 83

価格調整の管理プログラム

(R41840) 158

「価格調整の検索」フォーム 97

「価格調整の定義」フォーム 63, 140, 174

価格調整の排他

指定 70

スキップ 71

販売促進品目の使用 62

理解 62

「価格調整明細の改訂」フォーム 79, 132, 134, 143, 146

価格調整レコードの一括更新 83

価格のスピード承認(承認要求) 36

価格表 90

「価格表の処理」フォーム 92

価格表の生成プログラム(R45522) 91

「価格表明細」フォーム 92

価格変更の影響を受けるオーダー・レポート(R40821) 159

「価格変動コードの処理」フォーム 143

価格マトリックス

概要 13, 52, 95

調整定義の使用 47

調整明細の処理 73

複合価格グループとの併用 113

レコードの一括更新 90

「価格マトリックス定義の検索」フォーム 97

「価格マトリックス定義の追加」フォーム 97

「価格マトリックス定義の編集」フォーム 97

「価格マトリックスのインポート/エクスポート」フォーム 98

「価格マトリックスの編集」フォーム 98

価格マトリックス・プログラム(P4590) 13, 95

価格マトリックスへのスプレッドシートのインポート 95

価格マトリックスへのスプレッドシートのインポート/エクスポート 95

価格マトリックスへのスプレッドシートのエクスポート 95

価格明細

設定 79

理解 73

価格履歴 17

価格履歴(アップセル通知) 129

「価格履歴」フォーム 169, 174

価格レベル区切り 168

「価格ワークベンチの処理」フォーム 85

拡張バスケット

価格再設定における例外情報について 163

品目に対する品目レベルの調整について 163

品目への調整の適用 163

カタログ 40, 127

「カラム・パターン」フォーム 92

簡易価格グループ 32

「勘定科目の改訂」フォーム 27

関連ドキュメンテーション xvi

き

期間延長条件調整

支払条件の定義 149

優先明細の定義 149

理解 148

期限付き価格 11

基準コード

粗利益 76

基本価格パーセント 74

原価 + 金額 77

原価 + 金額のパーセンテージ 75

原価の割合 75, 77

現行正味価格の割合 74

現行正味仕入先価格/在庫原価パーセント 77

仕入先価格/在庫原価パーセント 77

受注管理 74

新規基本価格パーセント 74, 77

調達管理 76

追加金額 75, 77

追加計算式金額 76, 78

追加変動金額 75, 78

ユーザー・プログラム追加金額 76, 78

基本価格設定

一時変更検索グループについて 113

価格グループ組合せの検討 118

在庫原価の検討 39

仕入先価格の取得 40

受注管理での計算 30

受注管理における価格管理との比較 10

受注管理の価格レベルの定義 32

受注管理の顧客グループの定義 32

受注管理の品目グループの定義 32

設定 42

調達管理 39

優先階層について 40
 優先階層の改訂 42
 理解 29
 「基本価格の改訂」フォーム 43
 共通フィールド xx

く

「組込/除外規則の設定」フォーム 153

け

警告 xix
 原価計算方法 39
 ケース管理(価格管理との統合) 6

こ

ご意見 xx
 購買オーダー(販売促進情報) 62
 購買価格レベル 39
 購買構造
 階層レベルと継承について 104
 階層レベルと継承(例) 104
 改訂 108
 検討 108
 構造(例) 103
 設定 106
 組織構造のルート親の特定 107
 用途 12
 理解 103
 購買構造の確認と改訂 108
 「購買構造の表示」フォーム 109
 購買構造の表示プログラム
 (P450150) 108
 顧客価格グループ
 価格グループ組合せの生成 118
 定義 32
 複合価格グループの設定 115, 117
 理解 10
 「顧客価格グループ定義」フォーム 117
 顧客価格グループの生成プログラム
 (R40932) 118
 顧客請求指示(システム設定要件) 16
 顧客別価格表
 印刷 91
 価格表グループの作成 90
 価格表グループの指定 93
 価格表構造の作成 90, 92
 カラム・パターンの定義 90
 生成 91
 調整用グループの指定 91

用途 10
 理解 90
 固定情報
 システム設定の必須情報 15
 設定 17
 調達管理 17
 ご要望 xx
 「コントロール・パネル」フォーム 85

さ

在庫管理(価格管理との統合) 5
 最低価格または最高価格による価格調整 52
 「残高の改訂」フォーム 153
 「サーチ・エージェントの改訂」フォーム 94
 サービス管理(価格管理との統合) 6

し

仕入先価格 40
 仕入先指示(システム設定要件) 16
 仕入先販売証明レポート 138
 仕入先レポート 138
 事業所固定情報(設定) 17
 事業所品目(システム設定要件) 16
 「システム固定情報」フォーム 17
 システム設定
 AAI 15, 26, 28
 価格設定エンジン 22
 価格調整明細 73
 価格明細 79
 基本価格設定 43
 キャッシュ 22
 顧客請求指示 16
 固定情報 15, 17
 異なる通貨を使用した調整の設定 80
 仕入先指示 16
 住所録要件 16
 販促IDの状況 171
 標準単位 16
 品目マスターと事業所品目の要件 16
 陸揚費用 16
 システムの統合
 Blend Management 6
 Grower Management 6
 Grower, Pricing, and Payments 6
 一般会計 6
 売掛管理 5
 買掛管理 5

ケース管理 6
 在庫管理 5
 サービス管理 6
 受注管理 5
 調達管理 6
 品質管理 6
 シップ・アンド・デビット更新プログラム
 (R47762Z1) 152
 シップ・アンド・デビット調整
 契約処理 13
 残高の設定 154
 定義 154
 保証請求について 151
 明細について 152
 理解 149
 シップ・アンド・デビットの保証請求プログラ
 ム(R47761Z1) 152
 従業員待ち行列マネージャ(承認要
 求) 36
 住所録(システム設定要件) 16
 住所録組織構造の表示および改訂プ
 ログラム(P0150)
 処理オプション 108
 用途 106
 柔軟な請求書印刷の詳細設定 12
 受注オーダー入力
 オーダーに対する販売促進の関連付
 け 175
 価格再設定 165
 価格調整の検討と変更 168
 価格レベル区切りの変更 168
 調整の追加 168
 「受注オーダー明細の改訂」フォー
 ム 170, 174
 受注管理
 一時変更検索グループ(例) 114
 階層図 55
 価格管理との統合 5
 価格管理との統合(ビジネス・プロセ
 ス) 2
 価格レベルの定義 32
 基準コード 74
 基本価格設定 29
 基本価格設定と価格管理の比較 10
 基本価格設定を使用した価格の計
 算 30
 顧客グループの定義 32
 調整と調整スケジュールの使用(シ
 ステム処理) 48
 導入(追加手順) 8

品目グループの定義 32
 手動による価格の一時変更 17, 48, 53,
 54, 61
 上級価格調整プログラム(R407201)
 処理オプション 81
 用途 80
 「状況の追加」フォーム 171
 承認要求の検討
 従業員待ち行列マネージャ 35
 承認要求 35

す

スケジュール
 作成 70, 72
 受注管理の使い方(システム処
 理) 48
 調達管理での価格管理の割当 71
 調達管理の使い方(システム処
 理) 50
 複数の調整からの設定(図) 48
 理解 47, 70

せ

請求書
 柔軟な請求書印刷の詳細設定 12
 販売促進情報の表示 62
 製品ガイド
 注文 xvi
 前提知識 xv

そ

相互参照 xix
 組織構造(ルート親の特定) 107

た

対象フォーム 85
 多通貨価格設定 11
 単位換算 - 品目プログラム(P41002) 11

ち

注意 xix
 注意事項 xix
 「調整残高の処理」フォーム 153
 調整残高プログラム(P45715)
 処理オプション 154
 用途 152
 「調整制御の修正」フォーム 63, 132,
 134, 140, 153, 161
 「調整タイプの数量区切り」フォーム 130

調整定義

概要 47

価格調整に対する販売促進の関連
付け 174最低価格または最高価格による価格
調整 61

作成 60

順序設定 70

スキップ 70

入荷入力時の価格再設定 62
理解 60

「調整明細の処理」フォーム 72

調達価格/入荷価格の再設定プログラム
(R45620) 166, 167

調達管理

一時変更検索グループについて 114

オーダー明細グループ 120

階層図 56

価格管理との統合 6, 13

価格管理との統合(ビジネス・プロセ
ス) 3

価格管理のシステム固定情報 17

価格設定について 37

基準コード 76

購買オーダー 53

購買オーダーの価格計算(システム
の処理) 37

仕入先価格の取得 40

調整スケジュールの割当 71

調整定義 53

調整と調整スケジュールの使用(シ
ステム処理) 50

導入(追加手順) 8

入荷時の価格設定 53

標準リポートの作成 137

無償品調整について 125

直接価格調整

作成 110

理解 109

つ

追加ドキュメンテーション xvi

通過逡減調整

作成 145

理解 144

割引例 144

通常の購買リポート 137

て

「テーブル・フィールドの記述」フォー
ム 143

と

ドキュメンテーション

関連 xvi

最新版 xvi

ダウンロード xvi

ドキュメンテーションのダウンロード xvi

に

入荷オーダー明細グループ 115

入荷調整定義 53, 54

は

「バスケット品目別調整」フォーム 163

バスケット・マスター

設定 161

理解 159

「バスケット・マスターの改訂」フォー
ム 161

バスケット・レベル調整

作成 162

バスケット・マスター情報の設定 161

理解 160

販促ID

オーダーに対する販売促進の関連付
け 175

管理 172

調整に対する販売促進の関連付
け 174

販促状況の設定 171

販売促進情報の入力および更新 172

販売促進の関連付け 173

理解 171

「販促IDの追加」フォーム 172

販売促進情報 62

販売促進品目

請求書と購買オーダーへの表示 70

排他調整の使用 62

排他調整の重複の解決 62

販売高アップセル 129

ひ

表記規則 xviii

標準単位(システム設定要件) 16

品質管理(価格管理との統合) 6

品質試験 53, 54

品質レベル区切り 53, 54
 品目価格グループ
 価格グループ組合せの生成 118
 設定 116
 定義 32
 複合グループの設定 118
 理解 10
 「品目価格グループの定義」フォー
 ム 117
 「品目の選択」フォーム 92
 品目マスター
 購買価格レベル 39
 システム設定要件 16
 販売価格レベル 32
 品目マスター・プログラム(P4101) 32

ふ

複合価格グループ
 複合顧客価格グループの設定 115,
 117
 複合品目価格グループの設定 116,
 118
 理解 32, 115
 複数単位 11

へ

ペナルティ 53, 54
 変動価格調整 142

ほ

補足調整 123
 ボーナス 53, 54

ま

マトリックス, 参照: 価格マトリックス
 丸め規則 130, 132
 「丸め規則の改訂」フォーム 132

み

見越し調整
 用途 12
 リベート見越し調整の作成(例) 135

む

無償品カタログ
 作成 128
 理解 127
 「無償品カタログからの品目選択」フォー
 ム 128

「無償品カタログの改訂」フォーム 128
 「無償品カタログの処理」フォーム 128
 無償品調整
 カタログの処理 127
 作成 125, 126
 調達管理での使用 125
 無償品の提供 127
 用途 12
 理解 125
 「無償品の改訂」フォーム 126
 無償品の改訂プログラム(P4073) 127
 「無償品の提供」フォーム 128
 無償品の提供プログラム(P45731) 127

ゆ

有効日付カテゴリ・コード
 追加 116
 有効化 116
 有効日付カテゴリ・コードの更新プログラ
 ム(R03012A) 116
 有効日付カテゴリ・コードの除去プログラ
 ム(R03012B) 116
 「優先階層の改訂」フォーム 42, 58
 「優先階層の選択」フォーム 43
 「優先情報詳細の改訂」フォーム 149
 「優先値の改訂」フォーム 149
 「優先定義の改訂」フォーム 149
 優先マスター
 使用 58
 設定 57, 59
 「優先マスターの改訂」フォーム 58

り

陸揚費用(システム設定要件) 16
 「リベートしきい値の改訂」フォーム 140
 リベート実績照会プログラム
 (P4078) 137
 リベート請求の作成プログラム
 (R42770) 137, 138
 リベート調整
 階層について 139
 検討 137
 顧客情報の検討 168
 仕入先販売証明リベートの作成 138,
 142
 調達管理での作成 137
 使い方 135
 見越し作成 137
 用途 12

理解 135
リポートしきい値の作成 141
履歴の印刷 137

れ

レベル区切り 12
「レベル区切りパターン」フォーム 92
連絡先情報 xx

わ

ワークフロー管理(価格承認) 13

